

加藤天淵関係資料目録（稿）

目 次

加藤天淵関係資料目録（稿）

日記類	01
書籍類	02
原稿類	05
事跡関係	16
書画	28
書簡	44
皇室下賜品	71
その他	73
写真類	75
梅恵関係（加藤天淵夫人）	80
附．加藤天淵の事蹟	82

■ 凡 例 ■

- 一、本目録は、加藤天淵関係資料 1,955 点（2020 年末現在）についての目録である。
- 一、資料は、資料形態により 10 種に大別し、種別によりさらに項目を立て排列した。種別と項目は以下の通り。

- ・日 記 類
- ・書 籍 類 {加藤天淵著作、その他}
- ・原 稿 類 {著作・原稿、講演原稿、漢詩文、ご進講、祝詞、詔勅・御言葉、誄・御沙汰、命名・追号、墓誌・碑文関係}
- ・事 跡 関 係 {修了証・辞令・履歴書類、著述複写類、師弟関係、大淵小・中学校、皇室関係、静岡師範学校関係、無窮会、戸田浩暁、旧制武蔵高等学校関係、東洋大学関係、二松学舎大学}
- ・書 画 {書画幅、色紙・短冊他}
- ・書 簡 {個人、宮内省・庁、団体、加藤虎之亮発信、第三者間、その他}
- ・皇室下賜品
- ・そ の 他 {慶弔関係、その他}
- ・写 真 類

- ・梅 恵 関 係

- 一、各項目内の排列は、おおむね成立年代順とし、書簡類は「個人」については発信者の五十音順別に各受信年月順とした。
- 一、表記は、原表記に関わらず常用漢字体に統一した。
- 一、加藤家所蔵資料については、資料ナンバーを白抜き数字にして示した。それ以外の資料は二松学舎大学に所蔵する。

附記：資料の種別、および目録の編輯にあたっては、2006 年に宮内庁書陵部により調査、作成された「加藤虎之亮関係資料目録」を参考とし、二松学舎大学に移管後、2018 年に未整理分とともに再調査し、清水信子・町泉寿郎が目録化した。

調査メンバーは以下の通りである。

川邊雄大 清水信子 鈴置拓也 千葉有斐 町泉寿郎 渡部勘太郎（五十音順）

日記類				
No.	表 題	年 月 日	冊数	備 考
1	昭和十一年九月一日ヨリノ日誌	自昭和11年9月	1綴	
2	皇后陛下進講日録 自昭和七年至同十二年	自昭和7年至12年	1冊	ノート。反故紙を利用した日記複数枚あり。
3	皇后陛下進講日録 自昭和十二年至昭和十八年	自昭和12年至昭和18年	1冊	ノート
4	皇后陛下進講日録 自昭和十八年至昭和廿三年	自昭和18～23年	1冊	ノート
5	皇后陛下進講日録 自昭和二十三年	自昭和23年	1冊	ノート
6	昭和十七年日記	自昭和17年1月	1冊	皇室関係資料。
7	甲午日録乾 自正月朔至六月盡	自昭和29年1月～6月	1綴	宮内省「校勘制詰原稿用紙」用箋使用。
8	甲午日録坤	自昭和29年7月1日～12月31日	1綴	宮内省「校勘制詰原稿用紙」用箋使用。
9	乙未日録 昭和三十年元旦至七月二十六日	自昭和30年1月1日～7月26日	1綴	宮内省「校勘制詰原稿用紙」用箋使用。
10	〔乙未日録 昭和三十年七月二十二日至十二月三十一日〕	自昭和30年7月22日～12月31日	1綴	宮内省「書原撰述所用紙」用箋使用。 表題なし。
11	丙申日録 昭和三十一年一月	自昭和31年1月	1綴	宮内省「校勘制詰原稿用紙」用箋使用。
12	丙申日録 四月一日至六月三十日	自昭和31年4月1日～6月30日	1綴	宮内省「校勘制詰原稿用紙」用箋使用。
13	丙申日録 七月一日至九月盡	自昭和31年7月1日～9月	1綴	宮内省「校勘制詰原稿用紙」用箋使用。
14	丙申日録 十月一日	昭和31年10月1日	1綴	宮内省「校勘制詰原稿用紙」用箋使用。
15	丁酉日録乾 昭和三十三年一月至六月盡	自昭和32年1月～6月	1綴	宮内省「校勘制詰原稿用紙」用箋使用。
16	丁酉日録坤 昭和三十三年七月至十二月	自昭和32年7月～12月	1綴	宮内省「校勘制詰原稿用紙」用箋使用。
17	戊戌日録乾 昭和三十三年一月至五月念七	自昭和33年1月～5月27日	1綴	宮内省「校勘制詰原稿用紙」用箋使用。
18	戊戌日録坤 昭和三十三年五月念八臘月除日	昭和33年5月	1綴	「周礼経注疏音義校勘記」用箋使用。
19	(明治三十七・三十八年日記)	自明治37年4月1日至9月13日、 自昭和38年1月1日至5月12日	1冊	
20	暑休日誌	明治37年7月～9月	1括	

書籍類				
No.	書 名	編 著 者	出 版 事 項	冊数
加藤虎之亮著作				
1	内訓読本	加藤虎之亮著	昭和10年（1935）啓成社	1冊
2	皇国女子漢文	加藤虎之亮著	昭和13年（1938）啓成社	1冊
3	儒教から観たる吏道（内務省警保局編纂『警察幹部講習会講話録』第6輯所収）	加藤虎之亮著	昭和15年（1940）内務省	1冊
4	詩と教化（東洋大学学術研究会編『東洋大学紀要』第3輯所収）	加藤虎之亮著	昭和17年（1942）東洋大学出版部	1冊
5	紀恩帖	加藤虎之亮編	昭和28年（1933）	1冊
6	天淵文詩	加藤虎之亮著	昭和30年（1955）天淵先生喜寿祝賀記念会	2冊
7	周礼経注疏音義校勘記	加藤虎之亮著	昭和32-33年（1957-1958）無窮会	2冊
8	周礼経注疏音義校勘記四十二卷	加藤虎之亮著	昭和32・33年（1957-1958）	11冊
9	周礼経注疏音義異體文字校勘記	加藤虎之亮著	昭和32・33年（1957-1958）	1冊
10	漢詩名詩評釈集成 詩経・漢魏・六朝・初盛唐・中晩唐	吉田増蔵・加藤虎之亮・松平康国・仁賀保香城著	昭和56年（1981）名著普及会	1冊
11	天淵詩続稿	加藤虎之亮著	昭和59年（1984）加藤忠正	1冊
12	支那上代の教学に就いて（『国民精神文化』第5巻第8号所収）	加藤虎之亮著	昭和14年（1939）国民精神文化研究所	1冊
13	壽と善（『国民精神文化』第7巻第7号所収）	加藤虎之亮著	昭和15年（1940）国民精神文化研究所	1冊
14	詩教の本義（『国民精神文化』第7巻第7号所収）	加藤虎之亮著	昭和16年（1941）国民精神文化研究所	1冊
15	孔夫子の片影	加藤虎之亮著	不明	1冊
16	勘破帖	〔加藤虎之亮〕	昭和12年（1933）	1帖
その他				
1	東洋文化と明日	東洋文化研究所三十周年記念事業委員会編	昭和45年（1970）財団法人無窮会	1冊
2	金婚記念 老樹 自伝「まずしき歩み」 修正増補 再版	後藤孚著	昭和48年（1973）	1冊
3	漢詩 名詩評釈集成一宋代 金代 元代 明代 清代 五山 江戸	岩垂憲徳・佐久節・平野彦次郎・木下彪・釈清潭著	昭和56年（1981）名著普及会	1冊
4	明治天皇御遺蹟保存趣意書	明治天皇蒲田御遺蹟保存会編	大正15年（1925）	1冊
5	明治天皇・昭憲皇太后御集	明治神宮社務所編	昭和25年（1950）	1冊
6	大正天皇御製歌集 上下	大正天皇	不明	2冊
7	皇太子御写真集	社会福祉法人日本孤児福祉協会編	不明	1冊
8	御渡欧記念皇太子御写真集	日本社会事業出版協会編	不明	1冊

9	しつきたま（北白川宮永久王追悼写真帳）	北白川宮家	〔昭和16年（1941）〕	1冊
10	武蔵七十年史—写真でつづる学園のあゆみ	武蔵学園70年史委員会編	平成5年（1993）学校法人根津育英会	1冊
11	天淵文庫蔵書目録	財団法人無窮会編	昭和39年（1964）財団法人無窮会	1冊
12	東洋文化	財団法人無窮会編	昭和60年（1985）財団法人無窮会	1冊
13	東洋通信	東洋大学通信教育部編	平成25年（2013）東洋大学通信教育部	1冊
14	師範教育百二十年のあゆみ	東京第一師範同窓会編	平成2年1（1990）日本教育新聞社出版局	1冊
15	近世日本の儒学	福島甲子三等編	昭和59年（1984）岩波書店	1冊
16	FIRST BOOK OF ENGLISH GRAMMAR	斎藤秀三郎著	明治32年（1957）興文社	1冊
17	儒教の世界—儒教的存在論—（建国大学研究院『研究期報』第5輯抜刷）	小糸夏次郎著	康德10年（1943）弘文堂	1冊
18	塚原先生教育功労記念会誌	待島清九郎編	昭和7年（1932）塚原記念教育功労記念会	1冊
19	駿遠豆	池谷佐一郎著	昭和13年（1938）静岡県人社	1冊
20	自然科学者の態度（教学叢書特輯7）	橋田邦彦著	昭和13年（1938）教学局	1冊
21	日本文化 第三冊 史学の意味	田辺元著	昭和12（1937）日本文化協会出版部	1冊
22	伝教・弘法と日本文化（日本精神叢書35）	金子大栄著	昭和12（1937）文部省思想局	1冊
23	西欧近代思想と日本国体（文部省蔵版思想問題小輯）	藤沢親雄著	昭和9年（1934）文部省思想局	1冊
24	甲斐南部氏累代の精忠	甲斐南部氏勤皇顕彰会編	昭和18年（1943）大倉精神文化研究所内甲斐南部氏勤皇顕彰会	1冊
25	少年教護に関する二三の問題	菊池俊諦著	不明（抜刷）	1冊
26	若葉	加藤きぬ編	昭和8年（1932）加藤きぬ	1冊
27	皇国日本の進むべき道（教学叢書特輯 紀元二千六百年記念懸賞論文「教職員其他一般の部」入選並選外佳作）	教学局編	昭和15年（1940）教学局	1冊
28	思想時報 5	文部省思想局編	昭和11年（1936）文部省思想局	1冊
29	国民精神文化第6巻第5号	国民精神文化研究所編	昭和15年（1940）国民精神文化研究所	1冊
30	新撰姓氏録と上代氏族史（日本精神叢書53）	太田亮著	昭和15年（1940）日教学局	1冊
31	松平信綱公と平林寺	窪田智鷹著	昭和3年（1928）牛島隆則	1冊
32	端石擬	陳齡撰	大正12年（1923）	1冊
33	清真 301号	存誠会編	昭和33年（1958）存誠会	1冊
34	革命論（文部省蔵版思想問題小輯）	平泉澄著 文部省思想局編	昭和9年（1934）高岡潔	1冊
35	比色定量法	北海道帝国大学農学部農芸化学土壌肥料学教室	不明	1冊
36	学び方覚え方新新華語教本（再版）	包翰華・中川信彦共著	昭和14年（1939）山海堂出版部	1冊
37	学び方覚え方新新華語教本（第三版）	包翰華・中川信彦共著	昭和14年（1939）山海堂出版部	1冊

38	忠孝 明治四十五年四月修学旅行栞	広島陸軍地方幼年学校編	明治45年（1970）広島陸軍地方幼年学校（謄写版）	1冊
39	神国日本	小泉八雲著・田部隆次・戸川秋骨共訳	昭和17年（1942）第一書房	1冊
40	芝山寿醺詩集	若槻礼次郎編	大正15年（1925）序	1冊
41	儒教早わかり	日本儒教宣揚会編	昭和9年（1934）山口伝一	1冊
42	斯文 第21号	原三七編輯	昭和33年（1958）斯文会	1冊
43	斯文 第18号（漢文教育特輯号）	原三七編輯	昭和32年（1957）斯文会	1冊
44	萬国大年表	棚橋一郎・小川銀次郎編	明治35年（1960）亀井忠一	1冊
45	北京大学于研究所国学門週報 第1, 3-7期, 第2卷 13-14期	北京大学研究所国学門編	1925-1926年北京大學第三院本学門	8冊
46	清代立学考（卒業生研究紀要第5輯 昭和12年度）	渡部信治郎著	昭和13年(1938)大東文化学院	1冊
47	漢文教育復興功勞者慰靈祭 憶人彰功集	〔漢文教育復興功勞者慰靈祭実行委員会〕	不明	1冊
48	中国古典に於ける自称代名詞之研究 第4輯（総説及莊子の部）	田口正治著	不明（謄写版）	1冊
49	修養雜録 第1輯	市川英敏著	昭和26年（1951）（謄写版）	1冊
50	書籍文物流通会新収図書速報	株式会社書籍文物流通会	昭和33年（1958）株式会社書籍文物流通会	1冊
51	文館詞林卷第六百六十八	許敬宗等奉勅撰 神田喜一郎解説	〔昭和24年（1949）宮内庁書陵部〕	1軸
52	文心雕龍 上下（新釈漢文大系 64・65）	戸田浩暁著	昭和49年-53年（1974-1978）明治書院	2冊
53	文心雕龍研究	戸田浩暁著・曹旭訳	1992年上海古籍出版社	1冊
54	中国文学論考	戸田浩暁著	昭和62年（1987）汲古書院	1冊
55	天地晴明	戸田浩暁編	昭和55年（1980）誠之堂	1冊
56	続天地晴明	戸田浩暁編	平成5年（1993）大乘院	1冊
57	補天地晴明	戸田浩暁編	平成15年（2003）誠之堂	1冊
58	瑚河隨筆	戸田浩暁著 戸田八重編	平成16年（2004）誠之堂	1冊
59	日蓮宗随樵庵慶弔文集	戸田浩暁著	平成7年（1995）日蓮宗新聞社	1冊
60	濠端隨筆	入江相政著	昭和42年（1967）文藝春秋社	1冊
61	松本洪水先生遺稿 漢文を読む人のために	松本洪水著	昭和46年（1971）松本梅子	1冊
62	漢文復興運動追念誌	漢文教育復興功勞者慰靈祭委員編	昭和41年（1966）漢文教育復興功勞者慰靈祭委員（代表内田泉之助）	1冊
63	平沼騏一郎回顧録	平沼騏一郎回顧録編纂委員会編	昭和30年（1965）平沼騏一郎回顧録編纂委員会	1冊
64	唐 顔魯公三表真蹟	日本書道研究会出版部書の心編	昭和55年（1980）日本書道研究会出版部書の心	1冊

原稿類			
No.	表 題	点数	年月日／備 考
著作・原稿			
1	天淵文稿 乾	1 綴	「青木弥右衛門大友信正翁墓誌名他原稿綴」「金蘭会命名説他原稿綴」「風外詠物百律序原稿」挟込あり
2	天淵文稿 坤	1 綴	「矢向良忠寺鐘銘并引」「祭物故恩師及同窓文」挟込あり
3	〔天淵詩続稿原稿（部分）〕	1 綴	昭和56年8月20日 昭和三十年乙未日録八月六日以降附箋あり
4	〔天淵詩続稿原稿〕	1 綴	
5	〔天淵詩続稿原稿（部分）〕	1 綴	書入あり
6	〔天淵詩続稿原稿（部分）〕	1 綴	コピー
7	〔天淵詩続稿 再稿了〕	1 綴	昭和 年10月3日
8	〔天淵詩続稿 初稿〕	1 綴	昭和 年10月25日「10/25 内山（知也）」とあり
9	〔天淵詩原稿〕	1 括	
10	漢文巻之目次原稿	1 綴	昭和10年7月19日
11	古典と漢文	1 綴	昭和18年11月
12	詩律兆図式	1 括	昭和33年9月25日
13	孝経作者	1 括	
14	支那の国歌「御雲歌」に就いて	1 括	
15	教学の字義に就いて	1 綴	
16	寿夭部	1 括	
17	欽君昊天曆象日月星辰敬授人時	1 括	
18	〔著作原稿〕	1 括	前欠
19	日蓮・親鸞・法然・栄西伝	1 括	
20	紀元節講話	1 綴	昭和12年
21	鷗社例会（原稿）論語首章私説	1 綴	昭和28年11月14日
22	〔文稿〕	1 綴	昭和38～40年明治三八～四〇年頃の作品集
23	〔標注草芽危言原稿 十巻〕	1 括	
24	〔孝経序注解原稿〕	1 綴	
25	〔漢籍注釈原稿〕	1 括	
26	〔漢文注釈原稿〕	1 括	「論語学而時習之…」とあり
27	〔説文解字注引文攷原稿〕	1 括	
28	〔『周礼経注疏音義校勘記』関係史料〕	1 括	原稿その他
29	〔『天淵文詩』関係資料〕	1 括	封筒入一括書類、封筒表書「天淵文詩」

30	『周礼』関係資料	1 括	出版関係書類 封筒入一括書類、封筒表書「周礼」
31	〔研究ノート類〕	1 括	
32	〔研究ノート覚書ほか〕	1 括	
33	〔草稿雑 1〕	1 括	周礼経注疏音義校勘記関係封筒入一括書類、封筒表書「周礼」
34	〔草稿雑 2〕	1 括	啓成社漢文読本関係 (1/2) (2/2)
35	〔草稿雑 3〕	1 括	国民精神文化研究所原稿用紙使用、論文断簡
36	〔草稿雑 4〕	1 括	「水之趣味」原稿用紙使用 「教学に就いて」・その他
37	〔草稿雑 5〕	1 括	「漢学ノ話」「皇国漢文入門」その他
38	〔草稿雑 6〕	1 括	原稿断簡・印刷物・その他
39	〔原稿他〕	1 括	昭和26～27年日付あり 『孟子』関係あり
40	〔加藤虎之亮誕辰挨拶文草稿〕	1 綴	昭和30年10月30日
41	明治三十二年四月以降 神皇正統記解釈	1 綴	
42	大日本古典会設立趣意書原稿	1 綴	昭和3年11月10日
43	凱旋慰労宴祝辞	1 巻	明治28年7月18日
44	『くさめ』に関する俗信	1 綴	大正15年10月
45	余沢集自序	1 綴	大正15年2月 書入多数あり
46	與古城担堂書	1 綴	
47	論語小講 (一)	1 綴	
48	論語小講 (一)	1 綴	
49	弘道館記	1 綴	
50	弘道館記述義小解ノ序	1 綴	朱筆訂正書入
51	騰極大礼記念碑記	1 綴	
52	〔漢文問題〕	1 紙	漢文
53	〔注釈・年表〕	1 紙	原稿用紙裏に中国人の漢籍出版年記載
講演原稿			
54	挨拶	2 状	昭和10年8月16日 1通は草案原稿
55	支那ノ帝王二就テ (国体)	1 綴	昭和10年10月25日 於国民精神文化研究所
56	教育者トシテノ弘夫子	1 綴	昭和10年12月6日 於青山師範学校
57	文学方面より見たる支那	1 綴	昭和12年1月15日～22日 放送原稿

58	古代漢人とつとめ	1 綴	昭和12年5月29日 国民精神文化研究所講演会原稿
59	婦徳に就いて	1 綴	昭和12年10月7日 於前橋高等女学校
60	支那文化の両面一、二	3 綴	昭和13年7月19・20日
61	皇道と儒道	5 綴	昭和14年7月
62	皇道と水戸学	1 綴	昭和14年10月8～10日 国民精神文化短期講習要項・文部省教学局・静岡県
63	儒教より視たる刑罰	1 括	昭和16年7月26日 於司法省保護局講習会
64	論語二見エタル徳ノ諸解	1 綴	昭和18年6月
65	復興の第一義	1 綴	昭和26年3月4日 静岡師範学校創立七十五周年記念講演原稿
66	虔敬の念を論じて礼樂に及ぶ	1 綴	昭和29年3月24日 静岡倶楽部三月総会講演原稿
67	書経講話	1 綴	昭和3年3月稿
68	教育者ノ信念	2 綴	「教育者ノ信念」昭和14年8月6日・「教育者ノ信念」昭和13年5月17日（於滋賀県膳所中学校）
69	渾一教育ニ就テ	1 綴	
70	詩経に見はれたる思想と日本精神	1 綴	中間欠あり
71	博文ト約礼	1 綴	
72	詩経	1 綴	
73	〔講演原稿〕	1 綴	
74	青少年学徒ニ賜ハリタル勅語勤解要録	1 綴	
75	〔講演原稿〕	1 綴	
76	支那の民族性	1 状	
77	祝賀会開催ニツキテノ謝辞	1 状	周礼経注疏音義校勘記関係
78	〔講演原稿〕	1 括	講演原稿関係資料
79	〔講演原稿〕	1 括	講演原稿関係資料
80	〔講演原稿〕	1 括	講演原稿関係資料
81	〔講演原稿〕	1 括	講演原稿関係資料
82	〔講演原稿〕	1 括	講演原稿関係資料
83	如何ニシテ時弊ヲ矯正スベキカ	1 状	講演原稿
漢詩文			
84	慶長申加之金沢有孝義偵仇之事	1 綴	昭和3年
85	詩稿第二 自昭和四年至十三年	1 綴	昭和4～13年

86	詩稿第三 自昭和十四年至二十五年	1 綴	昭和14～25年
87	奉賦和歌御歌題連峯雲		昭和17年1月1日
88	北白川宮御用掛 水戸部正を悼む詩	1 綴	昭和18年9月27日 皇室関係
89	奉謁皇大神宮五十韵、進講二十五年恭賦奉謝、六月七日祇候皇太后殯宮恭奉賦、後宮賜鳳凰硯恭賦奉謝 優恩之尊五首ほか	1 綴	昭和26年 1 月、昭和26月4月、昭和26年6月稿、年月欠、ほか
90	壬辰元旦書感	1 綴	昭和27年1月
91	(昭和 27 年 3 月 23 日皇后拝謁後の漢詩)	1 綴	昭和27年3月23日
92	五月三日拝聴平和恢復 聖勅他	1 綴	昭和27年5月 欄外に「昭和廿七年五月」とあり
93	読墨子	1 綴	昭和27年5月
94	輓佐野和一君三首	1 綴	昭和27年5月
95	原興敗	1 綴	昭和27年6月
96	昭和二十二年四月皇后宮賜親書御歌二首不堪感激恭 賦奉謝優恩之尊ほか	1 綴	昭和27年8月
97	奉賀皇太子殿下挙行立太子礼并成年式典	1 綴	昭和27年10月 皇太子成年式関係
98	祭物感恩師及同窓文	1 綴	昭和27年10月回覧稿
99	壬辰仲秋開在京静師同窓会于玉川学園三角丘上席上 口占	1 綴	昭和27年 天長節を祝う詩文あり
100	風外詠物百律序	1 綴	昭和27年 「壬辰十一月念七日」とあり
101	風外詠物百律絶序	1 綴	
102	風外詠物百律序 再案他	1 綴	2通
103	送三谷侍従長扈鶴駕赴欧米序	1 綴	昭和28年3月 東宮外遊関係
104	田島宮内庁長官賜紀恩帖題簽賦此道謝	1 綴	昭和28年3月
105	奉送鶴駕赴欧米	1 綴	昭和28年4月 東宮外遊関係
106	中洲三島先生三十五回忌辰二松学舎大学職員教師建 碑旧舎址修祭告賛名復旧惇斎翁有詩次韻賦点	2	昭和28年6月24日
107	帰郷雑感十五首	1 綴	昭和28年11月回覧稿
108	仁猫説	1 綴	昭和28年11月
109	奉悼藤村乍人先生四首	1 状	昭和28年12月5日
110	奉悼 雍仁親王殿下 昭和二十八年一月 四月定稿 ほか	1 綴	昭和28年
111	仁壽堂記	1 綴	昭和29年
112	甲午九朔在京広幼同窓会席上口占七首	1 綴	昭和29年
113	輓荒浪煙涯翁二首	1 綴	昭和30年1月

114	昭和乙未三月西山公銅像立、楠公墓畔恭賦（案とも）	2 紙	昭和30年3月 正案1枚ずつ計2枚
115	次国分漸庵（三亥）詩韵賀祥香夫人米壽五首	1 綴	昭和30年3月
116	領国分（三亥）漸庵重浴皇后宮賜謁光栄次韻	1 状	皇后宮関係
117	在京登美山会員七人携酒肴来賀余喜寿賦此道謝	6 紙	昭和30年12月
118	偶成五首贈石沢岳陽在加州	1 綴	昭和31年1月回覧
119	石沢岳陽帰展自米国見過賦呈六首	1 紙	
120	宮城前書感奉悼久迹大紀殿下薨去ほか	1 括	昭和31年3月～10月 160首
121	（昭和 31 年 5 月 11 日加藤虎之亮漢詩原稿）	1 紙	昭和31年5月11日
122	加藤虎之亮賀詩（高橋・山根両家成婚ノ賀詩）	1 状	昭和32年11月16日
123	謝芳原君贈高梁名産柚餅子八首ほか	1 綴	昭和32年1月～4月
124	五月十三日寶池上車中獲偶題六絶句	1 状	昭和33年6月14日
125	鉄門会招飲席上口占四首ほか	1 状	昭和33年7月
126	八月九日児孫会長岡温泉賀余杖朝獲九絶句	1 状	昭和33年9月9日
127	奉祝天長節詩文	1 綴	明治33年11月3日 皇室関係資料
128	詩稿第一 自明治三十九年至昭和四年	1 綴	明治39～昭和4年
129	昭和二十二年四月皇后宮賜親書御歌二首恭賦奉謝優恩之辱二首	1 状	昭和22年4月 皇后宮関係
130	昭和二十二年四月皇后宮賜親書御歌二首恭賦奉謝優恩之辱二首	1 状	昭和22年4月
131	進講二十五年恭賦奉謝優恩之辱二十五韵ほか六通	7 状	（昭和26年）ほか 皇室関係
132	乙未八月六日読歌集炎不堪感慨賦以贈白木裕君併道謝ほか	1 綴	昭和30年ほか
133	奉賀皇太子殿下立太子礼並成年式表	1 綴	皇太子成年式関係
134	小菅翁像背記 代	1 綴	
135	吉原市新合并隣接五村開祝賀賦似諸子	1 綴	
136	白木裕名文君見贈歌集炎賦比道謝	1 綴	
137	内山知也久病今春快愈就職新潟大学長岡分校喜而賦三首	2 紙	
138	免矢録引	1 綴	
139	玉翠歌上 秩父宮妃殿下奉謝優恩	1 綴	
140	賀東船山喜寿四首次韵	1 綴	
141	三枝九鳥年八十五好詩乞余商量頃者寄詩礼意殷勤乃次韵卻寄代手書七首	1 綴	
142	結城公壽像記代	1 綴	結城豊太郎
143	興風村塾記	1 綴	

144	詠林賀小山弘君以首位卒業大淵中学校	2紙	2紙
145	明治神宮崇敬会春季大祭恭賦	1綴	
146	源太坂覧古	1綴	
147	陪列 明治神宮春季大祭恭賦	1状	
148	輓山田済斎翁	1綴	
149	篋中集序ほか	1括	
150	曾国藩ノ聖哲三十二人ほか	1綴	
151	爾雅方言所以發明転注仮借ほか	1括	
152	紀恩栄	1状	皇室関係
153	後宮賜鳳凰硯恭賦奉謝 優思之辱五首 有引虎 以 謝劣叨進講	3紙	重複2点、皇室関係
154	略而為書部ほか	1括	
155	〔詩文〕	2紙	
156	〔詩文〕	1状	皇室関係
157	〔詩文カード綴〕	1括	詩文名・作者等を記載する
158	〔詩文断簡〕	1括	「漢書芸文云々…」とあり
159	〔詩文註釈原稿〕	1括	
160	〔詩文類断簡〕	1括	
161	記入済みの原稿	1綴	「青涯（国分高胤）先生の朱改多くあり珍重すべし」と加藤の書込みあり
162	記入済みの原稿	1綴	「先生並諸賢の筆蹟あり珍重すべし」と加藤の書込みあり
163	〔詩文断簡〕	1状	1紙
164	〔漢詩一括〕	9紙	昭和24年 和紙4枚、短尺5枚
165	〔漢詩文原稿〕	1括	周礼・考工記を引用
166	〔文稿〕	1綴	「上 皇后陛下報謝恩啓」ほか原稿あり 「諸賢の評語珍重すべし」と加藤の書込みあり
167	和歌背におへる人の命の重なれば…	1紙	詞書「□七叟多（？）□□」
ご進講			
168	〔高皇后伝以下解説書〕	1紙	昭和6年4月 皇后御進講テキストの件、皇室関係
169	国民精神文化研究所ニ於ケル閑院宮春仁王追講原稿	1綴	昭和12年7月8日
170	昭和二十一年十二月十八日大正天皇ノ御詩ニ就テ天 皇皇后両陛下ニ御進講ノ艸案	1綴	昭和21年12月18日 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」を使用
171	大正天皇御詩	1状	昭和21年12月18日 進講（大正天皇御詩）、皇室関係

172	(鳳凰硯関係)	6 点	皇后より昭和26年4月20日に下賜。 ①写真(硯) 1葉、②昭和26年5月22日「豊島岡奉送皇太后陛下霊輻五百字」、③昭和22年10月31日「上皇后陛下奉謝優恩啓」、④天淵文コピー (「上皇后陛下奉謝優恩啓」、「皇后宮賜鳳凰硯、恭賦奉謝優恩之辱五首」)、⑤色紙 (新見吉治啓白、昭和26年10月9日、鳳凰硯下賜に関する讃)、⑥鳳凰硯下賜に関する祝詩56点 (漢詩、和歌あり)
173	『孟子』関係)	1 括	
174	〔御進講原稿〕	6 点	昭和29年 ①S29.9/24②S29.10/8③S29.10/22④S29.10/22,11/12⑤S29.11/12 ⑥S29.11/26、皇室関係
175	孟子	7 冊	昭和三十二年五月十日付資料及び同年十一月八日資料添付あり 皇室関係資料 御進講テキスト
176	大学・中庸・論語	7 冊	皇室関係資料 御進講テキスト
177	大学・中庸・論語添付資料	12点	皇室関係資料 「進講日録」昭和十二年二月二十六日～昭和十五年六月六日 1枚・「進講日録」昭和十七年十二月四日～昭和二十一年三月一日4枚 仮1-2～1-5「皇后陛下進講日録」参照
祝 詞			
178	皇太子成年式ノ寿詞	1 状	昭和27年11月6日 書類 (詔勅・御言葉13) 封筒 (昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案) に一括入り、書簡 (書翰の部 宮内省・庁321) 参照 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」2枚
179	立太子礼ノ寿詞	1 状	昭和27年11月6日 書類 (詔勅・御言葉13) 封筒 (昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案) に一括入り、書簡 (書翰の部 宮内省・庁321) 参照 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」1枚
詔勅・御言葉			
180	昭和元年十二月二十八日踐祚後朝見ノ儀ニ於テ賜ハリタル勅語	1 状	昭和元年12月 印刷1枚
181	学制頒布七十年ニ際シ文部大臣ニ賜フ御沙汰 (私) 案	1 状	昭和17年10月13日 書類 (詔勅・御言葉13) 封筒 (昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案) に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」1枚
182	学制頒布七十年ニ際シ文部大臣ニ賜フ御沙汰 (私) 案	2 状	
183	御言葉案 (戦局危急に際し地方長官に下されし御言葉案)	1 綴	昭和19年8月23日 書類 (詔勅・御言葉13) 封筒 (昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案) に一括入り 宮内省二号罫紙1枚、内省罫紙2枚
184	昭和十九年九月六日帝国議会開院式勅語案 極秘	1 状	昭和19年8月 書類 (詔勅・御言葉13) 封筒 (昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案) に一括入り 藁半紙 ガリ版刷り 昭和19年8月31日決定

185	勅語擬案（戦災者援護に関して鈴木首相に下し給へる勅語〈昭和20年4月17日〉）	1 状	昭和20年4月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省一号罫紙2枚 昭和20年4月5日提出
186	第八十七臨時議會開院式ニ賜ル勅語案	1 状	昭和20年6月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り、6月9日開院式 宮内省一号罫紙1枚 昭和20年6月7日決定
187	陸海軍人ニ賜リタル勅諭（案）	1 状	昭和20年8月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 文化堂製罫紙1枚 昭和20年8月25日決定下賜
188	開院式勅語案 極秘	1 状	昭和20年9月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り、「九月一日宮内省側ノ意見ヲ納レ改案内示セルモノ」、9月4日開院式にて下賜 内閣罫紙2枚
189	開院式勅語案（第三案） 極秘	1 状	昭和20年9月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り、「昭和二十年八月三十一日内閣ヨリ内示セル案」、撮影コマ数は間紙2枚を含む 内閣罫紙2枚
190	軍職ヲ解カルルニ方リ皇族陸海軍武官ニ賜ル勅語案	1 状	昭和20年11月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」1枚 昭和20年11月30日提出、12月1日下賜
191	皇太子殿下ノ御詞	1 状	昭和27年11月1日 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」1枚
192	〔昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案〕	1 点	昭和17年5月 書類（祝詞1～2、命名・追号2、詔勅・御言葉2～11、誄・御沙汰2～4,7～21、墓誌・碑文関係3,7,13、書翰の部 宮内省・庁321）までを封入
誄・御沙汰			
193	〔伊東巳代治ニ賜フ御沙汰書〕	1 状	昭和9年2月21日
194	故金子堅太郎ニ賜フ御沙汰書 第三稿	1 状	昭和17年5月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」1枚 昭和17年5月18日浄写捧呈、決定稿
195	故金子堅太郎ニ賜フ誄 第二稿	1 状	昭和17年5月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」1枚 昭和17年5月18日浄写捧呈
196	金子堅太郎ニ賜フ誄 初稿	1 状	昭和17年5月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」1枚
197	金子堅太郎ニ賜フ誄（草稿）	1 状	

198	故正二位大勲位伯爵清浦奎吾二賜フ詠	1 状	昭和17年11月6日初稿・宮内省野紙
199	故清浦奎吾二賜フ詠	1 状	昭和17年11月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」1枚 昭和17年11月7日捧呈
200	故清浦奎吾二賜フ詠 第二稿	1 状	書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省二号野紙1枚
201	故林銑十郎二賜フ御沙汰書	1 状	昭和18年2月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」1枚 昭和18年2月5日稿
202	故山本五十六二賜フ詠案 初稿	1 状	昭和18年5月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」1枚 昭和18年5月28日定稿
203	故山本五十六二賜フ詠案 再稿	1 状	昭和18年5月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」2枚 昭和18年5月31日定稿、6月1日提出
204	故古賀峯一二賜フ御沙汰書	1 状	昭和19年5月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」1枚 昭和19年5月8日提出
205	故原嘉道二賜フ御沙汰書案	1 状	昭和19年8月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」1枚 昭和19年8月8日提出
206	故一木喜徳郎二賜フ詠	1 状	昭和19年12月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」1枚 昭和19年12月19日提出
207	故載仁親王二賜フ詠案	1 状	昭和20年5月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」1枚 昭和20年5月21日、22日内奏
208	故載仁親王二賜フ詠案	1 状	昭和20年 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」1枚
209	宮内大臣ノ詠案（載仁親王国葬に際する宮内大臣石渡莊太郎詠案）	1 状	昭和20年5月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省一号野紙2枚 昭和20年5月25日決定
210	故松平恒雄二賜フ御沙汰書	1 状	昭和24年11月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」1枚 昭和24年11月15日確定、翌16日下賜

211	故若槻礼次郎二賜フ御沙汰書	1 状	昭和24年11月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」1枚 昭和24年11月22日浄写決定
212	故幣原喜重郎二賜フ御沙汰書案	1 状	昭和26年3月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」1枚 昭和26年3月12日稿
213	殯宮移御後一日祭ノ儀 御誄	1	昭和26年5月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」を使用 昭和26年5月31日提出、6月3日御儀
214	誄案・御沙汰書案	1 状	原稿用紙10枚 金子ほかの誄、御沙汰案など17件
命名・追号			
215	昭和十二年五月五日 御命名草案	1	北白川宮道久王御命名 原稿用紙
216	漢土歴朝皇后追諡	1 状	書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」2枚
217	追号私議	2	貞明皇后追号
墓誌・碑文関係			
218	登極大礼記念碑之陰記（原稿）	1 状	昭和3年
219	元帥海軍大将正三位大勲位功一級山本五十六墓誌	1 状	昭和18年5月26日定稿
220	山本五十六墓誌	1 状	昭和18年5月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」2枚 昭和18年5月29日写了
221	元帥海軍大将正三位大勲位功一級山本五十六墓誌	1 綴	2枚
222	元帥海軍大将正三位大勲位功一級山本公墓誌ほか	1 綴	
223	山本五十六墓誌拓本	1 状	
224	故載仁親王墓誌	1 状	昭和18年5月 書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り 宮内省「校勘制詰集原稿用紙」3枚 昭和20年5月21日稿
225	墓誌 雍仁親王殿下、久邇親王殿下	1 紙	附・封筒、伺い文書写し、親王殿下拓本
226	載仁親王履歴	7	
227	正二位勲二等公爵三條公輝公墓誌	2 状	昭和20年11月13日 「昭和廿年十一月十一日受嘱同十三日朝脱稿提出」とあり
228	故典侍従一位勲一等柳原愛子墓誌	1 状	

229	故典侍従一位勲一等柳原愛子墓誌	1 状	
230	写真（加藤虎之亮撰文 柳原愛子墓誌）	1 点	書類（詔勅・御言葉13）封筒（昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案）に一括入り
231	〔柳原愛子履歴〕	1 綴	4枚
232	（北白川宮永久王碑原稿）	1 状	
233	故北白川宮永久王殿下尊像記 限一百三十	1 綴	5枚
234	故北白川宮永久王殿下尊像記 限一百三十	3 紙	3枚
235	故北白川宮永久王殿下尊像記 限一百三十字	1 綴	4枚
236	陸軍砲兵少佐大勲位功四級永久王墓誌銘	1 綴	3枚
237	登極大礼記念碑記 代廓堂北條先生	1 綴	2枚
238	三沢先生弓道紀功碑記	1 状	「乙未一月下浣」とあり
239	惇斎那智先生報恩碑	1 綴	
240	惇斎那智先生報恩碑	1 綴	
241	（金子堅太郎履歴）	4 状	宮内省罫紙
242	履歴抄（陸軍大將從二位勲等功四級林銑十郎）	1 綴	5枚 宮内省罫紙
243	〔前田利為墓誌原稿〕	1 状	侯爵前田家原稿
244	〔梨本守正墓誌拓本〕	1 状	
245	〔碑拓本（原拓）〕	1 状	
246	〔碑拓本（原拓）〕	1 状	
247	原稿類 1/2（碑文・墓誌関係）	1 括	
248	原稿類 2/2（碑文・墓誌関係）	1 括	

事跡関係					
No.	表 題	年月日	作 成	点数	備 考
修了証・辞令・履歴書類					
1	(修了証)	明治18年12月11日	村立小学大淵学校	1 状	「小学初等第六年級卒業候事」とあり
2	(修了証)	明治22年3月24日	静岡県今泉尋常小学校	1 状	「尋常小学科第参年ノ修成ヲ証ス」とある
3	(証書)	明治22年7月30日	静岡県富士郡長正八位河野 鎗治郎	1 状	「尋常小学科第三年期奨励試験成績ノ尋常ヲ証ス」とあり
4	(卒業証書)	明治23年3月22日	静岡県今泉尋常小学校訓導 宮沢賢亀	1 状	「尋常小学科ノ卒業ヲ証ス」とあり
5	(証書)	明治23年3月22日	静岡県今泉尋常小学校訓導 宮沢賢亀	1 状	「在学中ノ操行ヲ査定シテ優等トス」とあり
6	(修了証)	明治24年4月2日	静岡県吉原高等小学校	1 状	「高等小学科第一年ノ修成ヲ証ス」とあり
7	(修了証)	明治25年3月21日	静岡県吉原高等小学校	1 状	「高等小学科第二年ノ修成ヲ証ス」とあり
8	(修了証)	明治26年4月10日	静岡県吉原高等小学校	1 状	「高等小学科第三年ノ修成ヲ証ス」・「優等」とあり
9	卒業証書	明治27年4月3日	静岡県富士郡吉原町外八ヶ 村組合公立吉原高等小学校 長小菅廉	1 状	「高等小学校修業年限四箇年ノ教科ヲ卒業セシ コトヲ証ス」
10	(絵画・花)	明治35年2月6日	加藤虎之亮	1 状	「第三学年甲組」・「甲」とあり
11	(絵画・花)	不明	不明(加藤虎之亮か)	1 状	
12	修業証書	明治33年3月31日	静岡県師範学校	1 状	「師範学校第一学年ノ課程ヲ修業セシコトヲ証 ス」
13	修業証書	明治34年3月23日	静岡県師範学校	1 状	「師範学校第二学年ノ課程ヲ修業セシコトヲ証 ス」
14	修業証書	明治35年3月31日	静岡県師範学校	1 状	「師範学校第三学年ノ課程ヲ修業セシコトヲ証 ス」
15	(辞令)	明治33年4月2日	静岡県師範学校	1 状	「第二室伍長ヲ命ス」とあり
16	(辞令)	明治33年4月5日	静岡県師範学校	1 状	「第二学年甲級長ヲ命ス」とあり
17	(辞令)	明治33年6月30日	静岡県師範学校	1 状	「第一室伍長ヲ命ス」とあり
18	(辞令)	明治33年9月29日	静岡県師範学校	1 状	「第一室伍長ヲ命ス」とあり
19	(辞令)	明治33年12月1日	静岡県師範学校	1 状	「第一室伍長ヲ命ス」とあり
20	(辞令)	明治34年1月31日	静岡県師範学校	1 状	「第一室伍長ヲ命ス」とあり
21	(辞令)	明治34年4月1日	静岡県師範学校	1 状	「第三学年甲級長ヲ命ス」とあり
22	(辞令)	明治34年4月23日	静岡県師範学校	1 状	「第七室什長ヲ命ス」とあり
23	(辞令)	明治34年11月30日	静岡県師範学校	1 状	「第七室什長ヲ命ス」とあり
24	(辞令)	明治35年10月22日	静岡県師範学校	1 状	「本科第四学年級長ヲ命ス」とあり
25	(辞令)	明治34年4月1日	静岡県師範学校	1 状	「第三学年甲級長ヲ命ス」とあり
26	(辞令)	明治35年10月31日	静岡県師範学校	1 状	「第九室組長ヲ命ス」とあり

27	賞状	明治33年3月22日	静岡県師範学校有信会長大島多計比古	1 状	柔剣術寒稽古皆勤
28	賞状	明治34年3月23日	静岡県師範学校有信会長大島多計比古	1 状	柔剣術寒稽古皆勤
29	賞状	明治35年3月15日	静岡県師範学校有信会長大島多計比古	1 状	柔剣術寒稽古皆勤
30	(辞令)	明治35年3月18日	静岡県師範学校有信会長大島多計比古	1 状	「柔剣部委員ヲ命ス」とあり
31	賞状	明治36年3月7日	静岡県師範学校有信会長大島多計比古	1 状	柔剣術寒稽古皆勤
32	卒業証書	明治36年3月28日	静岡県師範学校長従六位角谷源之助	1 状	
33	(賞状)	明治36年3月28日	静岡県師範学校長従六位角谷源之助	1 状	金5円を付与する旨あり
34	小学校教員免許状	明治36年3月30日	静岡県知事正五位勲四等山田春三	1 状	第251号
35	(辞令)	明治36年4月1日	(静岡県)	1 状	「任静岡県富士郡鷹岡村立鷹岡尋常高等小学校訓導但本科正教員勤務」
36	(辞令)	明治36年4月1日	静岡県	1 状	「給八級上俸」とあり
37	(辞令)	明治36年4月7日	富士郡鷹岡村役場	1 状	俸給に関する通知
38	国民軍幹部適任証書	明治36年7月11日	歩兵第三十四聯隊長陸軍歩兵中佐正六位勲五等功五級関谷銘次郎	1 状	「国民軍幹部適任ノ者ト確認ス」とあり
39	講習証書	明治36年9月6日	静岡県	1 状	農学・水産の実業科目講習会修了証書
40	(辞令)	明治36年12月21日	静岡県	1 状	「職務勉勵ニ付為慰労金参円給与」とあり
41	証書	明治40年1月25日	広島高等師範学校校友会会長北條時敬	1 状	剣道寒稽古皆勤
42	卒業証書	明治41年3月30日	広島高等師範学校長正五位勲四等北條時敬	1 状	本科国語漢文部
43	教員免許状	明治41年3月31日	文部省	1 状	第2302号
44	休職辞令	明治37年5月19日	富士郡鷹岡村長芦沢幸一	1 状	
45	(辞令)	明治41年4月1日	広島高等師範学校	1 状	「本校研究科二官費入学ヲ命ス」とあり
46	(辞令)	明治41年4月1日	広島高等師範学校	1 状	(附属中学校囑託として)「月手当金三十円給与」とあり
47	(辞令)	明治41年12月19日	広島高等師範学校	1 状	「職務勉勵ニ付其賞トシテ金五円給与」とあり
48	(辞令)	明治42年5月17日	広島高等師範学校	1 状	「任広島高等師範学校訓導兼広島高等師範学校助教諭五級俸給与」とあり
49	(辞令)	明治42年12月16日	広島高等師範学校	1 状	「職務勉勵ニ付其賞トシテ金拾五円給与」とあり
50	(辞令)	明治42年5月5日	広島高等師範学校	1 状	「任広島高等師範学校助教諭五級俸給与」とあり
51	(辞令)	明治43年8月17日	陸軍省	1 状	「補広島陸軍地方幼年学校附」とあり
52	(辞令)	明治43年8月17日	陸軍省	1 状	「十二級俸下賜」とあり

53	(辞令)	明治43年8月17日	内閣総理大臣正二位大勲位 功三級侯爵桂太郎	1 状	「任陸軍教授叙高等官八等」とあり
54	(辞令)	明治43年10月21日	宮内大臣従二位勲一等子爵 渡辺千秋	1 状	「叙正八位」とあり
55	(辞令)	大正元年12月25日	内閣総理大臣正二位大勲位 功三級侯爵桂太郎	1 状	「陞叙高等官八等」とあり
56	(辞令)	大正2年2月20日	宮内大臣従二位勲一等子爵 渡辺千秋	1 状	「叙正七位」とあり
57	(辞令)	大正2年6月26日	陸軍省	1 状	「十一級俸下賜」とあり
58	(証書)	大正2年8月7日	文部省	1 状	師範学校中学校高等女学校教員修身科講習会の 修了証
59	(賞状)	大正2年8月10日	恩師財団済生会会長正二位 大勲位功三級公爵桂太郎	1 状	金6円寄贈に対する謝意、附・封筒1
60	大礼記念章之証	大正4年11月10日	賞勲局	1 状	第106601号
61	(賞状)	大正4年12月15日	北海道庁長官依孫一	1 状	北海道凶作等に際しての寄附に対する謝意
62	(辞令)	大正5年6月27日	内閣総理大臣正二位勲一等 伯爵大隈重信	1 状	「陞叙高等官六等」とあり
63	招待状	大正5年7月19日	教育総監一戸兵衛	1 状	7月20日、九段富士見軒への招待状
64	(辞令)	大正5年7月20日	宮内大臣正三位勲一等男爵 波多野直敬	1 状	「叙正七位」とあり
65	(辞令)	大正6年4月5日	内閣総理大臣伯爵寺内正毅	1 状	「依願免本官」とあり
66	(辞令)	大正6年4月5日	陸軍省	1 状	「十級俸下賜」とあり
67	(辞令)	大正6年8月27日	静岡県	1 状	給与金40円を支給する旨記述あり
68	(辞令)	大正6年4月23日	東京府	1 状	「東京府青山師範学校授業ヲ囑託ス月五拾円給 与」とあり
69	(辞令)	大正7年9月28日	東京府	1 状	「月俸五拾五円給与」とあり
70	(辞令)	大正6年12月18日	東京府	1 状	「特別勤労アルニ因り金八円ヲ賞与ス」とあり
71	(辞令)	大正7年12月24日	東京府	1 状	「特別勤労アルニ因り金式拾円ヲ賞与ス」とあり
72	(辞令)	大正8年12月27日	東京府	1 状	「特別勤労アルニ因り金四拾円ヲ賞与ス」とあり
73	(辞令)	大正8年12月23日	東京府青山師範学校	1 状	金40円賞与
74	(辞令)	大正9年3月31日	東京府青山師範学校	1 状	金10円賞与
75	(辞令)	大正9年3月31日	東京府	1 状	「月手当六拾五円給与」とあり
76	(辞令)	大正9年7月31日	東京府	1 状	「月手当百八円給与」とあり
77	(辞令)	大正9年12月25日	東京府青山師範学校	1 状	金50円賞与
78	(辞令)	大正10年12月26日	東京府青山師範学校	1 状	金30円賞与
79	(辞令)	大正7年4月17日	東京府	1 状	「小学校教員検定委員会臨時委員ヲ命ス」とあり
80	(辞令)	大正9年4月28日	東京府	1 状	「小学校教員検定委員会臨時委員ヲ命ス」とあり
81	(辞令)	大正7年9月30日	東京府	1 状	小学校教員検定委員会臨時委員手当として金7円 給与

82	(辞令)	大正9年9月16日	東京府	1 状	小学校教員検定委員会臨時委員手当として金4円50銭給与
83	(辞令)	大正11年3月25日	武蔵高等学校長一木喜徳郎	1 状	「武蔵高等学校教授ヲ命ス」とあり
84	(辞令)	大正11年3月25日	武蔵高等学校	1 状	「年俸貳千七百円ヲ支給ス」とあり
85	(辞令)	大正11年5月31日	東京府	1 状	「願ニ依リ嘱託ヲ解ク」とあり
86	修業証書	大正10年8月10日	斯文会副会長股野琢	1 状	「右本会第三回夏期講習終了ニ付此証ヲ授与ス」とあり
87	嘱託書	大正11年12月30日	斯文会会長徳川家達	1 状	
88	(辞令)	大正15年1月1日	斯文会会長徳川家達	1 状	嘱託書
89	(辞令)	大正12年11月1日	大東文化学院総長平沼騏一郎	1 状	「大東文化学院教授ヲ嘱託ス」
90	(依頼状)	大正12年6月22日	大東文化協会会頭大木遠吉	1 状	中学校下級漢文科存続意見調査委員の依頼状
91	(辞令)	大正15年4月30日	大東文化学院総長井上哲次郎	1 状	「願ニ依リ本院教授ノ嘱託ヲ解ク」とあり。附・封筒1
92	(辞令)	大正15年5月15日	宮内省	1 状	「皇太子妃殿下漢文学御習学ニ関スルコトヲ嘱託ス」とあり
93	(辞令)	昭和元年12月25日	宮内省・皇后宮職	1 状	「漢文学ニ関スルコトヲ嘱託ス」とあり
94	(辞令)	昭和3年1月16日	大東文化学院総長鵜沢総明	1 状	「大東文化学院教授ヲ嘱託ス」。附・添え状1・書類（俸給ノ件）1
95	(辞令)	昭和3年9月7日	大東文化学院総長鵜沢総明	1 状	「本学院臨時教務ノ事ヲ嘱託ス」
96	(辞令)	昭和3年4月15日	武蔵高等学校長山川健次郎	1 状	「報酬年額金貳千九百円ヲ給ス」とあり。附・封筒1・書翰1
97	(辞令)	昭和4年4月1日	財団法人二松学舎舎長洪沢栄一	1 状	「二松学舎専門学校教授ヲ嘱託ス」とあり。附・添え状（国分三亥）1・書類（報酬額ノ件）1
98	目録	昭和5年11月3日	財団法人尚志同窓会	1 状	銀杯一對を贈呈する旨の記述あり
99	(辞令)	昭和5年12月20日	宮内省	1 状	皇后宮職嘱託を解き、皇后宮職とする旨の記述あり
100	(辞令)	昭和5年12月20日	宮内省	1 状	「皇后宮職御用掛被仰付但奏任待遇」
101	(辞令)	昭和7年4月17日	武蔵高等学校事務取扱山本良吉	1 状	「報酬年額参千円ヲ呈ス」
102	(辞令)	昭和9年1月22日	国民精神文化研究所	1 状	
103	(辞令)	昭和9年3月31日	財団法人二松学舎理事長国分三亥	1 状	
104	(辞令)	昭和9年3月31日	財団法人二松学舎理事長国分三亥	1 状	
105	(賞状)	昭和10年1月7日	聖堂復興期成会会長徳川家達	1 状	寄附金50円に対する謝意
106	領収書	昭和10年1月7日	聖堂復興期成会理事長徳川家達	1 状	「一金五拾円也」
107	(辞令)	昭和10年4月15日	宮内大臣湯浅倉平	1 状	「叙従六位」
108	(辞令)	昭和10年6月26日	武蔵高等学校事務取扱山本良吉	1 状	「自今報酬年額参千壹百円ヲ呈ス」

109	学位記	昭和10年6月26日	広島文理大学	1 状	附・函1、学位申請書1
110	(辞令)	昭和11年12月17日	文部省	1 状	「高等学校高等科授業要目改正委員ヲ嘱託ス」
111	(辞令)	昭和12年4月1日	立正大学長清水龍山	1 状	「専門部講師ヲ嘱託ス」
112	感謝状	昭和11年11月15日	社団法人東京府立師範学校 同窓会理事長横島常三郎	1 状	「一記念品 壺」などとの記述あり
113	(辞令)	昭和13年10月1日	東洋大学長大倉邦彦	1 状	「本学学部教授ヲ嘱託ス」
114	締盟状	昭和14年11月20日	日本赤十字社	1 状	「日本赤十字社ハ社旨ニ賛同セラレタル加藤虎 之亮氏ヲ正社員ニ烈ス」。附・封筒1・御注意1・ 日本赤十字社有功章社員章条例1
115	感謝状	昭和15年10月30日	東京府教化団体連合会々々長 岡田周造	1 状	教化事業に対スル感謝状
116	表彰状	昭和15年11月3日	尚志会理事長藤原武夫	1 状	尚志会館理事・幹事に対する表彰状
117	紀元二千六百年 祝典記念章之證	昭和15年11月10日	賞勲局総裁下條健磨・賞勲 局書記官村田八千穂	1 状	第57536号。附・封筒1・添え状1
118	(辞令)	昭和16年4月17日	武蔵高等学校長山本良吉	1 状	報酬年額3200円を支給する旨記述あり。附・添 え状1
119	(目録)	昭和16年4月17日	武蔵高等学校長山本良吉	1 状	創立20周年記念日に際して
120	(辞令)	昭和17年7月1日	(武蔵高等学校) 会計課	1 状	年額報酬2600円とする旨記述あり
121	(辞令)	昭和16年12月27日	宮内省	1 状	「皇后宮職御用掛被免」
122	(辞令)	昭和16年12月27日	宮内省	1 状	「宮内省御用掛被仰付但勤任待遇」
123	(辞令)	昭和16年12月27日	宮内省	1 状	「年俸二千四百円下賜」
124	(辞令)	昭和17年1月15日	宮内大臣松平恒雄	1 状	「叙正五位」
125	(辞令)	昭和17年2月14日	賞勲局	1 状	「叙勲四頭授瑞宝章」 (仮記第28011号)
126	(辞令)	昭和18年3月31日	武蔵高等学校長山川黙	1	「依願教授ヲ解ク」
127	(辞令)	昭和18年4月1日	武蔵高等学校長山川黙	1	「臨時漢文科教授ヲ嘱託シ報酬年額壱千八百円 ヲ呈ス」
128	(辞令)	昭和18年5月29日	社団法人日本文学報国会会 長徳富猪一郎	1 状	5月22日をもって評議員にする旨記述あり
129	(辞令)	昭和18年6月29日	内閣	1 状	山本五十六葬儀の事務に関与し100円の手当を支 給する旨記述あり
130	(辞令)	昭和18年7月20日	文部省	1 状	「古典編修二関スル調査ヲ嘱託ス」
131	表彰状	昭和18年10月6日	東京都杉並区銃後奉公会 長・東京都杉並区長山根幸 八	1 状	一家より3名(祥正・祥次・祥参の入営応召者を 出したことに対する表彰状。附・書簡1
132	(辞令)	昭和18年11月1日	教学錬成所	1 状	「儒学研究ヲ嘱託ス」
133	(辞令)	昭和18年11月19日	尚志会理事長曾田梅太郎	1 状	代議員選挙当選
134	宮内大臣口達	昭和19年4月20日	宮内省	1 状	附・内達第一号(宮内大臣松平恒雄) 1
135	(辞令)	昭和19年4月21日	宮内省	1 状	
136	(辞令)	昭和20年3月25日	武蔵高等学校長山川黙	1 状	「願ニ依リ臨時漢文科授業嘱託ヲ解ク」

137	(辞令)	昭和20年3月31日	教学錬成所	1 状	「教学錬成所嘱託ヲ委嘱ス教学嘱託ヲ解ク」。附・付属書類1
138	(辞令)	昭和20年11月24日	宮内省	1 状	常務理事の任期満了および重任の通知。附・封筒1・附属書類1
139	(辞令)	昭和20年12月 (14日)	教学錬成所	1 状	「本学文学部専任教授並に中国哲学文学科主任を解職する」
140	判定書	昭和21年7月29日	東洋大学適格審査委員長	1 状	学務委員を嘱託する旨記述あり。附・封筒1
141	(辞令)	昭和22年5月3日	内閣総理大臣吉田茂	1 状	「文学部名誉教授に推薦する」
142	(辞令)	昭和25年10月1日	財団法人静岡育英会総裁徳川家正・財団法人静岡育英会会長河井彌八	1 状	常務理事の任期満了および重任の通知。附・封筒1・附属書類1
143	(辞令)	昭和25年10月25日	東洋大学	1 状	「本学文学部専任教授並に中国哲学文学科主任を解職する」
144	(辞令)	昭和25年11月22日	財団法人静岡育英会会長河井彌八	1 状	学務委員を嘱託する旨記述あり。附・封筒1
145	(辞令)	昭和26年4月1日	東洋大学	1 状	「文学部名誉教授に推薦する」
146	(辞令)	昭和28年10月13日	財団法人静岡育英会総裁徳川家正	1 状	理事嘱託の旨記述あり
147	(辞令)	昭和29年7月13日	財団法人斯文会理事長加藤常賢	1 状	「貴下に本会評議員を委嘱致します」
148	委嘱状	昭和30年11月1日	東洋大学理事長西川悦巖	1 状	「貴台を東洋大学創立七十周年記念事業委員会の顧問に御委嘱いたします」
149	(辞令)	昭和33年12月2日	内閣総理大臣岸信介	1 状	「従四位に叙する」
150	(辞令)	昭和33年12月2日	内閣総理大臣岸信介	1 状	「正四位に叙する」
151	(辞令)	昭和33年12月5日	内閣	1 状	「特旨を以て位一級追陞せられる」
152	(辞令)	明治37年4月19日	静岡県	1 状	「小学校令施行規則第二百二十二条第三号ニ依り休職ヲ命ス」
153	(賞状・東京養老院)	昭和2年4月17日	財団法人東京養老院理事長	1 状	
154	加藤虎之亮博士履歴書(封筒)	昭和15年7月1日	富士郡大淵村長小山章一(静岡県知事小濱八彌宛)	1 綴	9枚綴
155	履歴書	明治36年ごろか	加藤虎之亮	1 状	広島高師入学のためか
156	履歴書	明治43年7月7日	加藤虎之亮	5 紙	
157	卒業証書及免許状写	明治41年3月30日以降	加藤虎之亮	2 紙	静岡師範・広島高師卒業証書の写し
158	履歴書	明治43年7月7日	加藤虎之亮	2 綴	2枚・4枚綴り
159	履歴書	大正6年4月18日以降	加藤虎之亮	1 綴	3枚綴り
160	履歴書	不明	加藤虎之亮	1 状	明治41年3月30日～大正12年4月1日
161	履歴書	昭和9年1月22日以降	加藤虎之亮	1 綴	2枚綴り
162	履歴書	明治43年7月7日	加藤虎之亮	3 綴	1枚・1枚・2枚綴り

163	履歴書（控）	昭和13年10月1日以降	加藤虎之亮	1 綴	4枚綴り
164	履歴書	昭和27年11月30日	加藤虎之亮	5 綴	文化堂製用箋
165	履歴書（控）	昭和29日7月13日以降	加藤虎之亮	1 綴	4枚綴り
166	加藤虎之亮著述目録	不明	加藤虎之亮	1 紙	宮内省用箋（九号罫紙）
167	履歴書（複写）	昭和33年12月2日以降	不明	2 綴	ペン書き、4枚綴り、コピー、同様のもの2点
168	履歴書（複写）	昭和27年11月30日	加藤虎之亮	2 綴	資料№12の複写、同様のもの2点
著述複写類					
169	（加藤虎之亮写真）	不明		3 点	写真1、ネガ1、コピー1
170	『日本人名大事典現代』（210ページ複写）			1 紙	コピー
171	（加藤虎之亮写真）	不明		1 点	2013年9月16日撮影、加藤虎之亮写真を撮影したもの
172	加藤虎之亮先生（複写）	不明	不明	5 点	『漢文教育復興運動追念誌』20頁の加藤虎之亮の経歴・写真を掲載したもの。5点全て同じ
173	『漢文教育復興運動追念誌』（複写）	昭和41年9月24日		1 紙	6頁、同誌のコピー（一部）
174	加藤虎之亮・柏木質履歴（複写）	昭和41年9月24日		1 紙	『漢文教育復興運動追念誌』20頁の加藤虎之亮・21頁の柏木質の経歴・写真を掲載したもの。
175	『東洋文化と明日』（複写）	昭和45年11月10日	無窮会	8 紙	同書の部分コピー（440頁の加藤虎之亮、奥付）
176	『郷土の先達 第二輯』（複写）	不明	不明	3 紙	同書（二六、大漢学者加藤虎之亮）の部分コピー（目次、66頁の加藤虎之亮）
177	漢文の大先生「加藤虎之亮」（複写）	不明	不明	1 紙	漢文の大先生「加藤虎之亮」（コピー、631頁）
178	『日本吟詠界』第32号（複写）	昭和33年12月15日		3 紙	同誌10面コピー
179	学位記（複写）	昭和8年6月26日		1 紙	広島文理科大学博士号第2号
180	加藤虎之亮著作目録（仮）（複写）	平成17年6月30日		8 紙	宮内庁書陵部編修課作成（コピー）
181	（周礼経注疏音義校勘記パンフレット）（複写）	不明	無窮会	7 枚	パンフレット4頁・パンフ刊行の辞（3枚）、合計7枚
182	天淵文庫蔵書目録について（複写）	昭和39年12月	無窮会図書館長平沼恭四郎	4 枚	複写4枚（すべて同一）
183	天淵文（複写）	昭和30年10月25日	天淵先生喜寿祝賀記念会	7 枚	同書のコピー（一部）、全7枚
184	天淵詩（複写）	昭和30年10月30日	天淵先生喜寿祝賀記念会	6 枚	同書のコピー（一部）、全6枚

185	天淵詩（複写）	昭和59年12月2日	著者故加藤虎之亮・発行者 加藤忠正	11枚	同書のコピー（一部）、全11枚。附・葉書1
186	『東洋文化』復刊 55号（複写）	昭和60年8月1日	無窮会	11枚	同書掲載の俣野太郎「上梓せられた二種の漢詩 集—『松陵詩』と『天淵續稿』」のコピー全11枚 （2部）
187	昭和三十三年戊 戌元旦書感三首 等の注釈	昭和33年1月1日		4部	同詩等の注釈（2頁、ワープロ作成）合計4部
188	仁寿堂・仁寿堂 記扁額（写真）	昭和29年春	加藤虎之亮	2枚	加藤76歳の作
189	仁寿堂記翻刻（手 書き・複写）			5枚	仁寿堂記翻刻（訓点）合計5枚
190	書翰	昭和49年12月18 日（葉書）・不明 （封書）	相原米市	3点	葉書2枚、封書1通（用箋4枚、加藤敲子・忠正 宛）
191	聖社詩会講草	昭和33年10月26日 ほか	加藤虎之亮	4枚	謄写版、合計4枚
192	契約書	昭和56年7月	甲加藤敲子・乙株式会社名 著普及会代表取締役小関貴 久	2枚	出版契約書、2枚
193	竹中大明神御札	大正元年8月10日	加藤虎之亮	4点	御札3枚、由緒書（加藤虎之亮）1枚
194	由緒書	大正元年8月10日	加藤虎之亮	1紙	
師 弟					
195	「積る恩愛四十五 年…」	昭和18年1月11日	毎日新聞	3点	事跡関係ファイル「加藤虎之亮㊟師弟」。恩師深 井勝五郎霊前に参る。
196	「史跡めぐり」	平成12年3月30日	富士ニュース	1枚	事跡関係ファイル「加藤虎之亮㊟師弟」。「深井 先生の胸像」
197	「二、深井譲と加 藤学校」	?	?	1枚	事跡関係ファイル「加藤虎之亮㊟師弟」。
198	略歴	昭和18年1月7日		2点	事跡関係ファイル「加藤虎之亮㊟師弟」。深井勝 五郎略歴。「静岡県富士郡上井出村井之頭国民 学校」用箋使用。
199	「奉賦歌御題漁村 曙」	昭和16年1月1日	加藤虎之亮	1紙	事跡関係ファイル「加藤虎之亮㊟師弟」。「妄批 多罪謹待御叱責」「恩師深井勝五郎先生高批」
200	（後藤孚死亡関係 記事）	平成8年3月9日	富士ニュース	2枚	事跡関係ファイル「加藤虎之亮㊟師弟」。死亡記 事、葬儀案内
201	『老樹』	昭和48年11月15日	後藤孚	1部	事跡関係ファイル「加藤虎之亮㊟師弟」。金婚記 念私家版小冊子
202	「奉寿逢原深井先 生〈勝五／郎〉八 十」	?	加藤虎之亮	1部	事跡関係ファイル「加藤虎之亮㊟師弟」。『天淵 詩』より当該部電子複写
203	加藤祥正宛 徳田 政信書簡	昭和37年5月23日	徳田政信	1通	事跡関係ファイル「加藤虎之亮㊟師弟」。附・封 筒1
204	「謹而捧御霊前」	?	徳田政信	2点	事跡関係ファイル「加藤虎之亮㊟師弟」。加藤 虎之亮で霊前用徳田政信作詞校歌短歌等作品コ ピー集。加藤忠正・悦子宛徳田政信封書。附・ 封筒1

205	(新聞切抜)	平成18年7月30日	徳田政信	2 点	事跡関係ファイル「加藤虎之亮⑤師弟」。徳田政信寄稿記事等新聞切抜電子複写複数点。加藤定正宛徳田政信封書。附・封筒1
206	特別講演「加藤天淵の文献考証学者としての方向選択について―三宅真軒・北条廓堂に師事して―」	?	内山知也	1 紙	事跡関係ファイル「加藤虎之亮⑤師弟」。
207	(内山知也写真)	?	?	4 枚	事跡関係ファイル「加藤虎之亮⑤師弟」。
208	電報	昭和33年11月1日	内山知也	1 通	事跡関係ファイル「加藤虎之亮⑤師弟」。
209	書簡	昭和59年7月2日	内山知也	1 通	事跡関係ファイル「加藤虎之亮⑤師弟」。加藤敲子宛内山知也書簡附・封筒1
210	(天母山法華道場創立五十年祭詩)	大正15年?	加藤虎之亮	2 枚	事跡関係ファイル「加藤虎之亮⑤師弟」。天母山法華道場創立五十年祭に際して詩1、漢文1
211	(七面祠堂記)	?	加藤虎之亮	4 点	「改修七面祠堂記」(印刷)1枚、「再建七面祠堂記」(用箋手写)3枚、写真2
大淵小・中学校					
212	(大淵小中学校関係資料)	—	—	1 点	事跡関係ファイル「加藤虎之亮⑥大淵小・中学校」。
213	(写真)			4 枚	大淵小中学校
214	(「紀恩帖」進呈送り状「厳寒の候に御座候…」	昭和27年12月30日	加藤虎之亮	1 状	大淵小中学校。油印。
215	(「進講二十五年恭賦奉謝優恩三辱二十五韵」他	昭和26年4月20日	加藤虎之亮	2	大淵小中学校。加藤祥正宛封書。附・封筒1
216	(紫綬褒章伝達案内状)	昭和33年11月4日	文部事務次官 稲田清助	1 通	大淵小中学校。瀬尾弘吉発加藤虎之亮宛封書附・封筒1
217	(紫綬褒章伝達式撮影写真・送付状)	昭和33年12月11日	文部省大臣官房人事参事官 杉江清	1 枚	大淵小中学校。文部省発加藤祥正宛封書附・封筒、写真。送り状。
218	勲章佩用心得		賞勳局	1 冊	大淵小中学校
219	大淵中学校卒業式祝辭	昭和24年3月19日	加藤虎之亮	2 綴	大淵小中学校。附・名刺
220	(「賀、君以主席卒業大淵中學校」	昭和24年3月19日	加藤虎之亮	1 枚	大淵小中学校。主席生徒への祝辞原稿。
221	(紫綬褒章受章祝い状「肅啓 紫綬褒章御受け遊はされ…」)	11月3日	橘立章	1 状	大淵小中学校。附・封筒1
222	(暑中お見舞い)		橘立章	1 通	大淵小中学校
223	(加藤虎之亮逝去お悔やみ状「肅啓 先生御他界は…」)	12月5日	橘立章	1 状	大淵小中学校。加藤祥正宛封書。附・封筒1

224	(礼状「頒布印刷略儀ながら…」)		橘立章	1 通	大淵小中学校
皇 室					
225	「明治天皇御大葬 鹵簿謹寫」			6 枚	皇室
226	(天皇家系図)			1 状	皇室
227	(昭和天皇・今上 天皇系図)			1 状	皇室
静岡師範学校					
228	(中駿有我会員写真)	明治33年3月3日		1 枚	静岡師範学校。加藤虎之亮他21名。
229	「明治三十五年度 前半期単級部受 持教生」	明治35年10月19日		1 枚	静岡師範学校。加藤虎之亮他 8 名。
230	「教諭梅村甚太郎 先生」	明治33年6月		1 枚	静岡師範学校
231	(加藤虎之亮肖像)			1 枚	静岡師範学校。学友田中英一氏より進呈。裏書 「呈 学友加藤君 田中英一」
232	「明治三十五年度 柔術部卒業生」			1 枚	静岡師範学校。全10名。
233	「明治三十五年度 第九號室四年生 一同撮影」			1 枚	静岡師範学校。全8名
234	「□□(破損) 二十七年十月五 日□□(破損) 縣師範学校卒業 同窓会員会静岡 開卒業滿五十年 祝賀会於松坂写 真部撮影」			1 枚	静岡師範学校。加藤虎之亮他12名。
無窮会					
235	「財団法人無窮會 寄附行為」			1 綴	無窮会
236	(無窮会新館新築 落成記念写真)			1 枚	無窮会。平沼騏一郎他21名。説明書「昭和十四 年七月十二日於無窮会神習文庫(新館新築落成 に因□…)秋月、平沼二氏を囲みて当時の無窮 会支援の財界巨頭な□…」。附・説明書
237	「財団法人無窮会 昭和十四年度事 業報告書」	昭和15年5月17日		1 綴	無窮会
238	(記念写真)	昭和16年11月25日		1 枚	無窮会。「昭和十六年十一月二十五日於新宿宝 亭」
239	「無窮会後援会趣 意書」	昭和28年12月	小倉正恒	1 綴	無窮会

240	「特別賛助員のしおり」	昭和42年6月	無窮会	1冊	無窮会。差出人内藤円治。①「特別賛助会員のしおり」②案内状③「しおり」送付封筒④内藤円治「しおり」送付状⑤送付状封筒
241	「處山 清田 清」	昭和52年9月30日	「處山 清田 清」編集委員会	1冊	無窮会
242	「無窮会創設八十周年記念特集」			1冊	無窮会。無窮会「東洋文化」第七十五号抜刷
243	名刺			10枚	無窮会
戸田浩暁					
244	(加藤虎之亮三回忌案内状返信)	昭和35年10月16日	戸田浩暁	1状	戸田浩暁。加藤祥正宛封書。附・封筒1
245	(年賀挨拶)	昭和62年1月1日	戸田浩暁	1状	戸田浩暁。加藤敲子宛封書。附・封筒1
246	「感謝状」	昭和63年4月7日	立正育英会理事長戸田浩暁 日蓮宗宗務総長澁谷直城	1状	戸田浩暁。「東京都大乘院檀徒 加藤敲子殿」
247	(年賀挨拶)	昭和64年1月1日	戸田浩暁	1状	戸田浩暁。加藤敲子宛封書。附・封筒1
248	(供養礼状)	昭和35年12月4日	戸田浩暁	1通	戸田浩暁。加藤祥正宛。「謹啓過日は鄭重なる御供養にあつかり…」
249	(梨送付礼状)	平成元年9月1日	戸田浩暁	1通	戸田浩暁。加藤敲子宛。「復啓岳麓は秋の訪れも早いこと、存じますが…」
250	(贈答品礼状・送付状)	平成元年12月	戸田浩暁	1通	戸田浩暁。加藤敲子宛。「拝啓歳末に及んで寒さもきびしくなりましたが…」
251	(海苔送付状)	平成2年1月18日	戸田浩暁	1通	戸田浩暁。加藤敲子宛。「お葉書拝受、旧年末には手違ひを致したようで…」
252	「日蓮宗随樵庵慶弔文集」	平成7年6月	日蓮宗新聞社	1状	戸田浩暁。附・送付状
253	(「東洋文化」掲載案内)	平成7年10月3日	戸田浩暁	1状	戸田浩暁。附・封筒1
254	(加藤敲子逝去お悔やみ状)	平成18年2月24日	戸田八重	1状	戸田浩暁。加藤忠正、悦子宛封書。附・封筒1
旧制武蔵高等学校					
255	名刺			29枚	旧制武蔵高等学校
256	「メートル法強行について再説明」	昭和8年	尺貫法存続連盟	1冊	旧制武蔵高等学校
257	「(北條時敬) 畧歴」			1枚	旧制武蔵高等学校
258	(北條時敬年譜)			6枚	旧制武蔵高等学校。「学習院」用箋使用。
259	(加藤天淵先生喜寿祝賀記念会案内状)	昭和30年	上野賢知	1状	旧制武蔵高等学校。加藤天淵先生喜寿祝賀記念会実行委員長上野賢知
260	名刺			263枚	虎之亮関係名刺

東洋大学					
261	「弘道館記述義小解」寄贈感謝状	昭和24年7月23日	東洋大学図書館	1 状	東洋大学
262	(東洋大学再建落成式招待状)	昭和24年5月20日	加藤虎之亮	1 状	東洋大学
263	(国漢、東洋哲学、東洋史等の研究懇談会招待状)	10月11日	大倉邦彦	1 状	東洋大学
264	名刺			23点	東洋大学
265	名刺			2 点	東洋大学
二松学舎大学					
266	(御進講二十五年記念賜鳳凰硯記念賦「天淵学問国之珍…」)		国分三亥	1 状	二松學舎大学。附・翻刻
267	七言律詩五首(御進講二十五年記念賜鳳凰硯)		山田準	5 状	二松學舎大学。附・翻刻
268	七言律詩五首(御進講二十五年記念賜鳳凰硯)		那智佐典	4 状	二松學舎大学。附・翻刻

書画類				
No.	表 題	書 者	点数	年月日／備 考
書画幅				
1	七律「似祥正」	加藤虎之亮	1（書幅）	昭和21年12月31日
2	（小学校記念碑）	加藤虎之亮	1（拓本幅）	
3	泰山之圖	橘立章	1（画幅）	昭和29年春 附・自題桐箱
4	七絶「陶侃」	大田錦城	1（書幅）	江戸後期 巻留に「大田錦城真蹟 学海居士題」の外題あり。附・依田学海題
5	五絶「満野皆芳草…」	頼元緒古模	1（書幅）	
6	七律三首「欽迓韶光九秩春…」	加藤虎之亮	1（書幅）	昭和33年1月1日
7	七言二句「尋常人家翠楊柳…」	北条時敬廓堂	1（書幅）	
8	古言「嗟爾君子無恒安處…」	加藤虎之亮	1（書幅）	「戸田君清属」とあり、巻留に「加藤天淵先生書 戸田浩曉蔵」の外題あり、荀子勸学篇の語
9	古言「善治病者不使至危億…」	岡田良平恭堂	1（書幅）	大正14年8月 「大正乙丑仲秋」、『新唐書』劉晏伝の語
10	明治天皇御製	秋月左津夫	1（書幅）	
11	七言二句「立身須作真男子…」	平山成信	1（書幅）	大正14年8月
12	五絶「正直自来祥…」	加藤虎之亮	1（書幅）	
13	五絶「水性自云寂…」	三宅貞眞軒	1（書幅）	署名「小大廬学人」
14	「反本脩古」	一戸兵衛	1（書幅）	
15	古言「務爵而貴…」	一木喜徳郎梁舟	1（書幅）	『荀子』儒效篇の語
16	「言忠信行篤敬」	平沼騏一郎機外	1（書幅）	
17	「宜未雨而綢繆、毋臨渴而掘井」	若槻礼次郎克堂	1（書幅）	大正14年8月 清・朱柏廬の語
18	「七十七年功德林」	加藤種	1（書幅）	昭和4年冬
19	旭松鶴圖	橘立章	1（画幅）	
20	加藤虎之亮父肖像画賛	素芳画・加藤虎之亮賛	1（書画幅）	昭和5年10月
21	「千字文 勅員外散騎侍郎周興嗣次韻」	加藤信	1（書幅）	款記「大正七年歳在戊午七月三日書 五十本之其十五 秋峯 加藤信」落款印「加藤／虎印」「秋／峯」
22	「陸軍砲兵少佐大勳位功四級永久王墓誌銘」		1（拓本幅）	永久王は北白川宮成久王第一子
23	墨竹図	廣瀬青邨画賛	1（書画幅）	賛「新粉飛泥路蒼雲掩石橋門前多古竹不雨亦蕭々／辛巳十一月六日 青邨範併詩」落款印「広範／世叔」、関防印「汲古」「日随／麋鹿／放山林」
24	（登鯉図）		1（書画幅）	款記「桃斎（印「桃州／画史」）」
25	漢字一行書「永錫爾極」	織田小覚確斎	1（書幅）	款記「確斎覚」
26	漢字三行書七絶「山路盤廻行更危…」	安積良斎	1（書幅）	款記「良斎」落款印「安積／信印」「思順／氏」関防印「見／山楼」

27	漢字五行書「夫日出之郷陽氣所発地靈人…」	乃木希典	1 (書幅)	複製。款記「後学源希典謹書」
28	都々逸四首「跳ねた藝者といはれるとても…」		1 (書画幅)	「跳ねた藝者といはれるとても…」(南天)「堅い藝者と立てたる人の…」(袋中の美鼠)「待てぬ果報に…」(駅亭鈴升)「左り棲とる勤めをひいて…」(欣亭吉升)「長いざしきのこの線香を…」(美卿)。三味線パチ、雪、月、三味線胴、花の図案に都々逸。28、29、30三幅一対。
29	都々逸雪月花「雪も厭わず出て来たものを…」		1 (書画幅)	「雪も厭わず出て来たものを…」(美鼠)「忍び逢ふ夜は…」(鈴の家鳴子)「何うも未練が…」(欣亭吉升)落款「南天／居士」「美藤／道人」、「雪」「月」「花」と各図案と都々逸。28、29、30三幅一対。
30	都々逸と幫間図「これも同遊二人りが中は…」		1 (書画幅)	款記「機升」28、29、30三幅一対。
31	漢字三行書「百葉不如酒々…」	伊藤博文	1 (書幅)	複製。款記「次祇園南海韻 博文」落款印「博文／之章」「春／畝」関防印「滄浪閣」。
32	「宣戦詔勅」		1 (書画幅)	款記「御名 御璽／明治三十七年二月十日」、明治天皇肖像、印刷
33	鍬の図「抑此道具ハ神代のむかしより…」		1 (書画幅)	款記「竹粲書」落款印「山印／守清」「竹／粲」
34	七絶「皇洲百万征絶虜…」	乃木希典	1 (書幅)	複製。款記「希典」
35	七律「野興」	柴莘東野	1 (未装)	款記「柴莘」落款印「柴莘／之印」「東氏／埜」
36	七絶?「白□紅粉緑四囲…」	芳野金陵	1 (未装)	款記「七十五翁金陵育」落款印「芳野／世育」「叔／果」
37	伊藤博文漢字三行書七絶「四十餘年辛苦跡…」・金子堅太郎漢字三行書七絶「樽俎折衝無寸効…」・大倉祺「書春畝公詩幅後贈金子子爵」	伊藤博文・金子堅太郎・大倉祺	1	昭和5年複製 伊藤博文七言絶句漢字三行書款記「甲辰二月日露交渉将断聊録所感／以似友人某 博文」落款印「藤印／博文」「春畝／山人」、金子堅太郎七言絶句漢字三行書款記「甲辰二月四日聖上親臨廟議決日露開戦伊藤公招余説渡米緊要／熱誠頻勸乃決意赴米国臨別公示所感詩仍和其韻以呈 溪水堅」落款印「金子／堅太／郎印」「溪／水」影印識語「昭和庚午四月八日仰譜／高松宮宣仁親王殿下台臨名流文雅證彦於東京会／館贈金子子爵以春畝公書所載一軸書此為記焉／昭和五年四月八日 大倉祺謹識」、伊藤博文、金子堅太郎、大倉祺の書を一枚に影印。附・大倉祺書「書春畝公詩幅後贈金子子爵」翻刻、「伊藤公書幅贈呈次第」
38	(大正天皇御一家肖像)		1 (印刷)	大正六年一月一日東京日日新聞発行
39	「大礼義解」	長谷川信成校閲 笠井一雄鳳斎講述	4 (印刷)	「大礼義解」1枚、絵図3枚、帝国教育研究会発行
40	「陸軍伍長佐野恭浩墓誌銘」	加藤虎之亮撰并書	1 (拓本)	昭和25年7月
41	漢字五行書「夫日出之郷陽氣所発地靈人…」	乃木希典	1 (未装)	複製。款記「後学源希典謹書」、V1-27は同一資料表装。解説「乃木大将の遺墨を頒つに当りて」(静岡県教育会長 伯爵二荒芳徳)。附・解説
42	漢字一行書「忠信心主孝弟行本」	加藤虎之亮	1 (書幅)	加藤虎之亮が進講三十年にあたって皇室より鳳凰硯、墨、玉版箋を下賜されたため、それらを使用し書く。識語あり。款記「昭和三十一年八月九日加藤虎之亮時年七十八」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」、43同。
43	漢字一行書「忠信心主孝弟行本」	加藤虎之亮	1 (書幅)	加藤虎之亮が進講三十年にあたって皇室より鳳凰硯、墨、玉版箋を下賜されたため、それらを使用し書く。識語あり。款記「昭和三十一年八月九日加藤虎之亮時年七十八」落款印「加藤／虎印」「天／淵」、42同。

44	徳川家康遺訓「人の一生は重荷を負て遠きをゆくが如し…」(未完)	(加藤虎之亮)	1 (未装)	
45	漢字三行書『詩経』小雅「伐木」)	加藤虎之亮	1 (書幅)	署名「原田君清属 天淵学人虎書」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
46	漢字二行書七絶「双壁含光映九統…」)	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「恭賀 明石君景明成婚 加藤虎」
47	漢字二行書「不易乎世不成虚名…」	加藤虎之亮	1 (書幅)	昭和25年3月 款記「昭和庚寅三月書以贈石上君登天淵学人加藤虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」
48	漢字二行書七絶「桂玉調来安老親…」)	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「贈田中学士卒業東洋大学 天淵学人加藤虎」
49	漢字二行書五絶「正 直自来祥…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「加藤虎書」
50	漢字二行書「君子敬以直内義以方外／敬義立而徳不孤」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「大菅先生清属 加藤虎拝書」、『易』坤・文言伝より。
51	漢字二行書七絶「蘇水溶々落路通…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「賀蘇山上人喜寿 天淵学人加藤虎」
52	漢字二行書「雪叟紅繩繫両家…」	(加藤虎之亮)	1 (未装)	
53	漢字二行書「雪叟紅繩繫両家…」	(加藤虎之亮)	1 (未装)	
54	漢字三行書七絶「青山畢業十三春…」	(加藤虎之亮)	1 (未装)	
55	漢字二行書「誠 思之尋之天人…」	(加藤虎之亮)	1 (未装)	款記「甲戌仲秋 外祖虎書」
56	漢字二行書「誠 思之尋之天人…」	(加藤虎之亮)	1 (未装)	款記「甲戌仲秋 外祖虎書」
57	漢字一行書「守正義存至誠」	(加藤虎之亮)	1 (未装)	
58	漢字一行書「言忠信行篤敬」	(加藤虎之亮)	1 (未装)	
59	漢字一行書「登楼万里春」	(加藤虎之亮)	1 (未装)	
60	漢字三行書七絶「一別参商隔両天…」	(加藤虎之亮)	1 (未装)	款記「浦部盟契粲正」
61	漢字二行書「誠 思之尋之天人…」	(加藤虎之亮)	1 (未装)	款記「甲戌仲秋 外祖虎書」
62	漢字二行書「芳公政教遂淵源…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「贈竊見校長 天淵加藤虎」
63	漢字一行書「古道照顔色」	(加藤虎之亮)	1 (未装)	
64	(試筆)「昭和己亥元旦…」		1 (未装)	昭和10年1月1日 虎之亮他加藤家各自名前と年齢を書す。
65	漢字二行書七絶「高閣披襟対緑樽…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「三六会三十年記念席上作 天淵虎」
66	漢字二行書七絶「四端無日不騰驤…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「湯沢学兄粲正 天淵虎」
67	漢字二行書「君子敬以直内義以方外／敬義立而徳不孤」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「加藤虎拝書」、『易』坤・文言伝より。
68	漢字二行書「君子敬以直内義以方外／敬義立而徳不孤」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「加藤虎拝書」、『易』坤・文言伝より。
69	漢字二行書七絶「殿角連雲筆鬱然…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「題閑谷簀 天淵虎」
70	漢字二行書七絶「殿角連雲筆鬱然…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「題閑谷簀 天淵虎」

71	漢字三行書七絶「試筆年々追例新…」	加藤虎之亮	1 (未装)	昭和7年1月 款記「壬申試筆 天淵虎」
72	漢字三行書七絶「試筆年々追例新…」	加藤虎之亮	1 (未装)	昭和7年1月 款記「壬申試筆 天淵虎」
73	漢字三行書七絶「試筆年々追例新…」	加藤虎之亮	1 (未装)	昭和7年1月 款記「壬申試筆 天淵虎」
74	漢字三行書七絶「試筆年々追例新…」	加藤虎之亮	1 (未装)	昭和7年1月 款記「壬申試筆 天淵虎」
75	漢字三行書七絶「試筆年々追例新…」	加藤虎之亮	1 (未装)	昭和7年1月 款記「壬申試筆 天淵虎」
76	漢字三行書七絶「去春頌寿献寒桜…」	加藤虎之亮	1 (未装)	昭和7年1月 款記「壬申試筆 天淵虎」
77	漢字三行書七絶「文化東西日々新…」	加藤虎之亮	1 (未装)	昭和7年1月 款記「壬申試筆 天淵虎」
78	漢字三行書七絶「試筆年々追例新…」	加藤虎之亮	1 (未装)	昭和7年1月 款記「壬申試筆 天淵虎」
79	漢字二行書七絶「牙籤錦帙古香薫…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「興津盟契祭正 天淵学人」
80	漢字二行書七絶「牙籤錦帙古香薫…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「興津盟契祭正 天淵学人」
81	漢字二行書「偕老縁成瑞氣深…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵書」
82	漢字二行書「雪叟紅繩繫兩家…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵虎」
83	漢字二行書七絶「蚕織業興民物□…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「久保先生祭正 天淵虎」
84	漢字三行書七絶「中興將士死成仁…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「芳山懷古 天淵虎」
85	漢字二行書七絶「殿角連雲筆鬱然…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「題閑谷巖 天淵虎」
86	漢字二行書七絶「殿角連雲筆鬱然…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「題閑谷巖 天淵虎」
87	漢字二行書七絶「殿角連雲筆鬱然…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「題閑谷巖 天淵虎」
88	漢字二行書七絶「殿角連雲筆鬱然…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「題閑谷巖 天淵虎」
89	漢字二行書七絶「研修半歳在東京…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵虎」
90	漢字三行書七絶「四境峰巒緑鬱然…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「芳山懷古 水山互角 天淵虎」
91	漢字二行書七絶「研修半歳在東京…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵虎」
92	漢字二行書七絶「研修半歳在東京…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵虎」
93	漢字一行書「古道照顔色」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵学人」
94	漢字一行書「君子自彊不息」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「加藤敬書」
95	漢字一行書「言忠信行篤敬」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「加藤虎」

96	漢字二行書七言「載色載咲、匪怒伊教」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「録魯頌語 加藤虎」、『詩経』魯頌「泮水」より。
97	漢字二行書七言「載色載咲、匪怒伊教」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「録魯頌語 加藤虎」
98	漢字二行書「君子敬以直内義以方外敬義／立而徳不孤」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「加藤虎拝書」、『易』坤・文言伝より。
99	漢字三行書七絶「四境峰巒緑鬱然…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「芳山懷古 加藤虎」
100	漢字二行書「雪叟紅繩繫兩家…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵虎」
101	漢字二行書七絶「瓊筵閑作鼓田々…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵虎」
102	漢字三行書七絶「四境峰巒緑鬱然…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「芳山懷古 天淵虎」
103	漢字三行書七絶「老居説古雪眉愁…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵虎」
104	漢字一行書「古道照顔色」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵拝書」
105	漢字三行書七絶「百千磴道白雲端…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「豊公墳 天淵虎」
106	漢字三行書七絶「一別参商隔兩天…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「杉浦盟契榮正 加藤虎」
107	漢字三行書七絶「老居説古雪眉愁…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「寂光院 天淵虎」
108	漢字三行書七絶「老居説古雪眉愁…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「寂光院 天淵虎」
109	漢字三行書七絶「中興将士死成仁…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「芳山懷古 加藤虎」
110	漢字三行書七絶「王子幽居籠翠烟…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「詠竹 天淵虎」
111	漢字三行書七絶「一別参商隔兩天…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵学人」
112	漢字三行書七絶「百千磴道白雲端…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「豊公墳 天淵虎」
113	漢字二行書「偕老縁成瑞氣深…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵虎」
114	漢字二行書「雪叟紅繩繫兩家…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵虎」
115	漢字二行書「雪叟紅繩繫兩家…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵虎」
116	漢字二行書「雪叟紅繩繫兩家…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵虎」
117	漢字二行書「偕老縁成瑞氣深…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵虎」
118	漢字二行書「偕老縁成瑞氣深…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵虎」
119	漢字二行書「士不可不弘毅…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「曾子語 加藤虎謹書」、『論語』泰伯より。
120	漢字一行書「古道照顔色」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵虎」
121	漢字三行書七絶「王子幽居籠翠煙…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵虎」
122	漢字二行書「君子敬以直内義以方外敬義／立而徳不孤」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「加藤虎拝書」、『易』坤・文言伝より。

123	漢字二行書七絶「研修半歳在東京…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵学人」
124	漢字二行書七絶「牙籤錦帙古香薫…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「興津盟契燦正 天淵学人」
125	漢字二行書七絶「研修半歳在東京…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵虎」
126	漢字二行書七絶「研修半歳在東京…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵虎」
127	漢字三行書七絶「四境峰巒緑鬱然…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「芳山懷古 為尼子学兄属 天淵学人 加藤虎」
128	漢字三行書七絶「王子幽居籠翠煙…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵虎」
129	漢字三行書七絶「王子幽居籠翠煙…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵虎」
130	漢字三行書七絶「相携風俗幾多年…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「贈能勢秀才 天淵虎」
131	漢字三行書七絶「相携風俗幾多年…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵学人」
132	漢字三行書七絶「滿蒙長策春楓宸…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵学人」
133	漢字三行書七絶「滿蒙長策春楓宸…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵学人」
134	漢字一行書「言忠信行篤敬」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「加藤虎拝書」
135	漢字三行書七絶「中興將士死成仁…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「芳山懷古 天淵虎」
136	漢字二行書「君子敬以直内義以方外敬義／立而德不孤」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「天淵」、『易』坤・文言伝より。
137	漢字三行書七絶「中興將士死成仁…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「芳山懷古 天淵虎」
138	漢字三行書七絶「四境峰巒緑鬱然…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「芳山懷古 天淵学人」
139	漢字二行書「庸言之信庸行之謹…」	加藤虎之亮	1 (書幅)	昭和28年 款記「昭和癸巳春日 天淵加藤虎書」落款印「加藤／信」「天／淵」、『周易』文言伝・乾より。
140	漢字二行書五絶「神州孰君臨…」	加藤虎之亮	1 (書幅)	昭和28年 款記「昭和癸巳春日 加藤虎書」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
141	漢字三行書七絶「四境峰巒緑鬱然…」	加藤虎之亮	1 (書幅)	款記「芳山懷古 八十六翁虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
142	漢字三行書七絶「中興將士死成仁…」	加藤虎之亮	1 (書幅)	款記「芳山懷古 八十六翁虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
143	漢字二行書「君子敬以直内義以方外敬義／立而德不孤」	加藤虎之亮	1 (書幅)	款記「加藤虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「穆如清風」
144	漢字二行書「君子敬以直内義以方外敬義／立而德不孤」	加藤虎之亮	1 (書幅)	款記「天淵学人」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「穆如清風」
145	漢字一行書「古道照顔色」	加藤虎之亮	1 (書幅)	款記「天淵虎書」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
146	漢字一行書「古道照顔色」	加藤虎之亮	1 (書幅)	昭和59年 款記「昭和甲子春 天淵書」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」

147	漢字三行書七絶「四境峰巒綠鬱然…」	加藤虎之亮	1 (書幅)	款記「芳山懷古 天淵虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
148	漢字二行書「士不可不弘毅…」	加藤虎之亮	1 (書幅)	款記「曾子語 加藤虎謹書」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」、『論語』泰伯中より。
149	漢字一行書「孝子不匱永錫爾類」	加藤虎之亮	1 (書幅)	款記「葩經語 加藤虎書」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」、『詩經』大雅「既醉」より。
150	漢字二行書「君子敬以直内義以方外敬義／立而德不孤」	加藤虎之亮	1 (書幅)	昭和26年 款記「昭和辛卯秋日 天淵学人加藤虎書」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
151	漢字三行書七絶「王子幽居籠翠煙…」	加藤虎之亮	1 (書幅)	款記「泳竹 天淵虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「穆如清風」
152	漢字三行書七絶「王子幽居籠翠煙…」	加藤虎之亮	1 (書幅)	款記「泳竹 天淵虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「穆如清風」
153	漢字二行書「雪叟紅繩繫兩家…」	加藤虎之亮	1 (書幅)	款記「天淵虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「穆如清風」
154	漢字二行書七絶「瓊筵樂作鼓田々…」	加藤虎之亮	1 (書幅)	款記「天淵虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
155	漢字三行書七絶「青山畢業十三春…」	加藤虎之亮	1 (書幅)	款記「天淵虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「穆如清風」
156	漢字三行書七絶「試筆年々追例新…」	加藤虎之亮	1 (書幅)	昭和7年1月 款記「壬申試筆 天淵学人」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
157	漢字一行書「福聚海無量」	加藤虎之亮	1 (書幅)	款記「天淵虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「穆如清風」
158	漢字二行書七絶「研修半歳在東京…」	加藤虎之亮	1 (書幅)	款記「天淵虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「穆如清風」
159	漢字一行書「小徳水流大徳敦化」	加藤虎之亮	1 (書幅)	款記「加藤虎書」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
160	漢字一行書「直以為準樹徳務滋」	加藤虎之亮	1 (未装)	昭和30年12月 款記「昭和乙未臘月 喜寿翁虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
161	漢字二行書五絶「神州孰君臨…」	加藤虎之亮	1 (未装)	昭和28年 款記「昭和癸巳春三月 天淵学人加藤虎書」
162	漢字横書「靈山大会」	加藤虎之亮	1 (未装)	
163	漢字横書「竹苞松茂」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「天淵虎」
164	漢字横書「竹苞松茂」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「天淵虎」
165	漢字横書「学不厭教不倦」	加藤虎之亮	1 (未装)	『論語』述而の語
166	漢字横書「恭敬和親」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」
167	漢字横書「恭敬和親」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」
168	漢字横書「恭敬和親」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」
169	漢字横書「恭敬和親」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」
170	漢字横書「恭敬和親」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」落款印「加藤／虎印」
171	漢字横書「福寿無重」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「天淵書」
172	漢字横書「靈山大会」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」

173	漢字横書「敬直義方」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎書」
174	漢字横書「敬義直方」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎書」
175	漢字横書「豆飯天下珍」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「天淵虎」
176	漢字横書「豆飯天下珍」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「天淵虎」
177	漢字横書「靈山大会」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」
178	漢字横書「靈山大会」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎書」
179	漢字横書「敬義直方」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎書」
180	漢字横書「鉄化金」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「天淵虎」
181	漢字横書「輝光日新」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」
182	漢字横書「和楽且湛」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎書」
183	漢字横書「和楽且湛」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎書」
184	漢字横書「福祿寿」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」
185	漢字横書「福德寿」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」
186	漢字横書「幽間貞静」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「天淵虎」
187	漢字横書「貞明万古」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」
188	漢字横書「貞明万古」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」
189	漢字横書「貞明万古」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」
190	漢字横書「四益堂」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」
191	漢字横書「四益堂」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」
192	漢字横書「仰高臨深」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」
193	漢字横書「至誠無息」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」
194	漢字横書「忠信篤敬」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「虎謹書」
195	漢字横書「仰高臨深」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」
196	漢字横書「尽忠養正」	加藤虎之亮	1 (未装)	昭和30年12月銘 「乙未臘月／喜寿翁虎」
197	漢字横書「氣象万千」	加藤虎之亮	1 (未装)	昭和32年秋 銘「丁酉秋月／加藤虎」
198	漢字横書「輝光日新」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎書」
199	漢字横書「輝光日新」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎書」
200	漢字横書「学不厭教不倦」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎書」、『論語』述而の語
201	漢字横書「永錫難老」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
202	漢字横書「成徳達材」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
203	漢字横書「成徳達材」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」

204	漢字横書「至誠無息」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
205	漢字横書「仁壽堂」	加藤虎之亮	1 (未装)	昭和29年春 銘「昭和甲午春／七十六翁虎書」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
206	漢字横書「仁壽堂」	加藤虎之亮	1 (未装)	昭和29年春 銘「昭和甲午春／七十六翁虎書」
207	漢字横書「輝光日新」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
208	漢字横書「仁壽堂」	加藤虎之亮	1 (未装)	昭和29年春 銘「昭和甲午春／七十六翁虎書」
209	漢字横書「和光同塵」	加藤虎之亮	1 (未装)	昭和30年12月 銘「乙未臘月／喜寿翁虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
210	漢字横書「盡忠養正」	加藤虎之亮	1 (未装)	昭和30年12月 銘「乙未臘月／喜寿翁虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
211	漢字横書「孝乎惟孝」	加藤虎之亮	1 (未装)	昭和30年12月 銘「乙未臘月／喜寿叟虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
212	漢字横書「不亦楽乎」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」
213	漢字横書「不亦楽乎」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」
214	漢字横書「不亦楽乎」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」
215	漢字横書「不亦楽乎」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」
216	漢字横書「不亦楽乎」	加藤虎之亮	1 (未装)	銘「加藤虎」
217	七律三首「欽迓韶光九秩春…」		1 (書幅)	昭和33年 款記「昭和三十三年戊戌歳元旦書感 天淵学人加藤虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
218	七律三首「欽迓韶光九秩春…」		1 (書幅)	款記「昭和三十三年戊戌歳元旦書感 天淵学人加藤虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
219	「三宅真軒墓」		1 (未装)	「此ノ紙ノ寸法ハ御墓ト同寸法ニ御座候」
220	「仁慈／隱惻／造次／弗離…」		1 (未装)	卷子
221	漢字二行書七絶「考證徹宵忘更闌…」	山本晁水	1 (書幅)	款記「送天淵先生 晁水」落款印「山本／良吉」「晁／水」関防印「華髪／谷待賈」
222	漢字二行書七絶「夙承家学任斯文…」	井上哲次郎翼軒	1 (書幅)	款記「賀朴堂安井君八十 翼軒学人」落款印「井上／哲印」「翼軒／学」関防印「天行健」
223	漢字横書「興風村塾」	加藤虎之亮	1 (未装)	
224	漢字一行書「衣錦尚綱有日章之光」	加藤虎之亮	1 (書幅)	昭和30年12月 款記「昭和乙未臘月／七十七叟虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
225	漢字一行書「孝者百行之本衆善之長也」	加藤虎之亮	1 (未装)	昭和30年12月 款記「昭和乙未臘月／七十七叟虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
226	漢字一行書「尽忠報国守正齊家」	加藤虎之亮	1 (書幅)	昭和30年12月 款記「昭和乙未臘月／七十七叟虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
227	「春曙」(和歌一首)・「枯木竹石」(画)	島津齊彬歌・子朋画	1 (書画幅)	齊彬「春曙」「かすめた、もろこしかけて敷しまのやまとしまねの春のあけぼの」、銘「枯木竹石／子明」落款印「好古」、巻留に「島津齊彬公子明 真部璋、子明ハ其号、画ニ々巧ナリ、紀伊公老臣ナリ…」とあり、二紙一軸

228	(花木唐人女人物図)	實父仇英	1 (画幅)	銘「実父仇英画」落款印「十州」
229	漢字一行書「径行東坡眠食地」		1 (書幅)	落款印「武威／懋嘉」
230	漢字一行書「定是米家書画船」		1 (書幅)	落款「鷺溪老漁増祥書」、落款印「百壺居士」
231	漢字一行書「主忠信無友不如己者」	伊藤東涯	1 (書幅)	款記「藤長胤書」落款印「東／厓」「原臧／又」、箱書「己丑之秋九月尽日割愛 奉贈／三宅先生莞存為幸 醒泥実手記」印記「醒泥」、附・函
232	孔子像	起信	1 (画幅)	銘「楓外起信謹写」落款印「起／信」
233	山村雪後	仙堂	1 (画幅)	銘「仙堂」落款印「仙堂」、巻留に「山村雪後 癸未秋十一月碧雲洞中／仙堂写」とあり
234	七絶「万巻経文一案頭…」	趙洛奎	1 (書幅)	款記「為加藤天淵先生 梅皋生趙洛奎詩并書」落款印「趙洛／奎印」「梅／皋」
235	漢字二行書七絶「考證徹宵忘更闌…」	山本晁水	1 (書幅)	款記「送天淵先生 晁水」落款印「山本／良吉」「晁／水」関防印「華髪／谷待賈」
236	漢字一行書「在治不忘乱」	加藤秋峰	1 (書幅)	款記「昭和八年素節 為清囑」「秋峰老人書」落款印「加藤／信印」「秋／峰」
237	「飲食品滋養分…」(教官陸軍二等軍医天野戴考案)		1 (図)	
238	五絶「去国三巴遠…」		1 (書幅)	款記「右加藤君別有所感需／現仏通寛量老納」
239	斯文会表彰状	斯文会	1 (状)	昭和4年冬
240	快雪時晴帖	王羲之	1 (書幅)	複製。王羲之「快雪時晴帖」臨書
241	漢字四行書「吾前□粗之作佳観…」	吳景濂	1 (書幅)	款記「杉浦先生 吳景濂」落款印「吳印／景濂」「□□□」
242	漢字二行書七絶「考證徹宵忘更闌…」	山本晁水	1 (書幅)	款記「送天淵先生 晁水」落款印「山本／良吉」「晁／水」関防印「華髪／谷待賈」
243	明治天皇御製和歌「ことそぎの」	秋月左都夫	1 (書幅)	款記「正三位秋月左都夫謹書」、万葉仮名
244	明治天皇御製和歌「ことそぎの」	秋月左都夫	1 (書幅)	款記「正三位秋月左都夫謹書」、万葉仮名
245	漢字三行書七絶「神州本是主忠孝…」	倉賀野胤正	1 (書幅)	款記「咏大日本精神／胤正」落款印「倉賀／野胤／正印」「字士／直號／南風」
246	七絶漢字横書「曾經滄海」	劉鳳起	1 (書幅)	銘「劉鳳起書」落款印「味無味／道人」
247	「克忠克孝」	一戸 兵衛	1 (書幅)	昭和6年9月 款記「昭和辛未仲秋／明治神宮々々司／陸軍大將一戸兵衛拜書」落款印「一戸／兵衛／之印」「別号／□□」
248	「孝子不匱永錫爾類」	加藤虎之亮	1 (書幅)	款記「加藤虎書」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
249	漢字二行書七絶「九重日麗五雲屯…」	加藤虎之亮	1 (書幅)	昭和18年4月29日 款記「癸巳天長節恭賦 加藤虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
250	「頭は高く天を仰ぎ足はしっかりと大地をふめ」	加藤虎之亮	1 (書幅)	款記「文学博士加藤虎之亮」落款印「加藤／虎印」「天／淵」
251	「身勞而心安」	一木喜徳郎梁舟	1 (額装)	款記「梁舟喜 (花押)」
252	「仁寿堂記」	加藤虎之亮	1 (卷子)	昭和29年3月 複製。款記「昭和二十九年歳次甲午三月中澣／七十六翁天淵学人虎撰并書」落款印「加藤／虎印」「天／淵」

253	横書「仁寿堂」	加藤虎之亮	1 (額装)	昭和29年 複製。款記「昭和甲午春／七十六翁虎」落款印「加藤／虎印」「天／淵」関防印「鳶飛／魚躍」
254	七律三首「欽迓韶光九秩春…」	加藤虎之亮	1 (未装)	昭和33年 款記「昭和三十三年戊戌歲元旦書感 天淵字人加藤虎」
255	漢字「一春腰脚病未癒…」	蔡守	1 (未装)	昭和11年 款記「丙子閏上巳立山召翰紅絲心歌寄石遺姑蘇寫寄奉／加藤天淵先生唵定 中華民國蔡守寒瓊識于広州」落款印「蔡守／之毓」関防印「丙子」
256	梅花図		1 (未装)	昭和11年 款記「丙子閏三月月写寄郭君東史移贈／天淵先生有道 法鑑 談月色」落款印「月色」関防印「寶虹／□」「珠□／月色」
257	漢字横書「日々是好日」		1 (未装)	款記「七三老人大休書」落款印「特住妙／心平林／大休印」「諱／宗悦」関防印「柏樹子路／有賤機」
258	奉寿芳水阪谷男爵七十		1 (未装)	
259	恭賀青山根津翁喜寿一百五十韵	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「昭和十一年夏六月十五日／駿河加藤虎謹撰拝書」
260	漢字一行書「老龍天仲徐一起」	加藤	1 (未装)	昭和12年 款記「丁丑首夏書以寄 加藤賢契 闇然」落款印「日章／軒」「知我者／其天乎」関防印「無門関」
261	漢字一行書「桃李不言下自為蹊」		1 (未装)	款記「瑞巖八十七叟盤龍」落款印「□滴／禪礎」「龍」関防印「臨濟正宗」
262	松図	雲亭	1 (未装)	款記「雲亭」落款印「□□／之印」「雲／亭」関防印「竹影掃／階塵／不動」
263	漢字三行書「衣上征塵雜酒痕遠遊…」	筍禪	1 (未装)	署名「筍禪」落款印「陳以／正印」「谷／蓀」
264	漢字一行書「文海富波瀾」		1 (未装)	款記「陳其昌書」落款印「陳印／其昌」
265	漢字三行七絶「崇高雄大勢堂々…」	倉賀野胤正	1 (未装)	款記「乙亥春日遊金剛山／毘盧峯／胤正」落款印「胤正／之印」「南風」関防印「百年長生」
266	漢字三行書七絶「一別参商隔兩天…」	加藤虎之亮	1 (未装)	款記「杉浦盟契粲正 天淵虎」
267	漢字一行書「引鶴下雲巢古松」	傳均培厚峰	1 (未装)	款記「厚峰傳均培」落款印「傳印／均培」「厚／峰」
268	漢字一行書「呼龍耕煙種瑤草」		1 (未装)	
269	悼野村秀才		1 (半紙)	款記「昭和十四年六月十八日」
270	悼野村秀才		1 (紙)	
271	恭賀晚晴福島翁喜寿一百三十韵	加藤虎之亮	1 (未装)	識語「昭和九年歲次甲戌七月下浣加藤虎謹撰拝書／揚誤美」落款印「加藤／虎印」「天／淵」
色紙・短冊他				
272	「初午」	橘立章	1 (色紙)	包表書入「一月」、銘「立章筆」落款印「立／章」。附・包み紙
273	「梅之鶯」	橘立章	1 (色紙)	包表書入「二月」、銘「立章」落款印「立／章」。附・包み紙
274	「富士」	橘立章	1 (色紙)	包表書入「三月」、銘「立章筆」落款印「立／章」、「加藤祥正様」。附・包み紙

275	「桜花」	橘立章	1 (色紙)	包表書入「四月」、銘「立章」落款印「立章／之印」。附・包み紙
276	「鍾馗」	橘立章	1 (色紙)	包表書入「五月」、銘「立章筆」落款印「立章／之印」。附・包み紙
277	「木蓮」	橘立章	1 (色紙)	包表書入「六月」、銘「立章筆」落款印「立／章」。附・包み紙
278	「せきれい」	橘立章	1 (色紙)	包表書入「七月」、銘「立章」落款印「立／章」。附・包み紙
279	「鮎」	橘立章	1 (色紙)	包表書入「八月」、銘「立章筆」落款印「立章／之印」。附・包み紙
280	「白菊」	橘立章	1 (色紙)	包表書入「九月」、銘「立章筆」落款印「立／章」。附・包み紙
281	「恵比須」	橘立章	1 (色紙)	包表書入「十月」、銘「立章」落款印「立章」。附・包み紙
282	「鯛」	橘立章	1 (色紙)	包表書入「十一月」、銘「立章筆」落款印「立／章」。附・包み紙
283	「うづら」	橘立章	—	包表書入「十二月」、銘「立章筆」落款印「立／章」、包み紙のみ。
284	(伊勢海老図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立／章」
285	「旭日照波」	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「章」。附・包み紙
286	「旭に波」	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立／章」。附・包み紙
287	(紅葉に鳥図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立／章」
288	(二鶴図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立／章」。附・包み紙
289	(山、三重塔、飛鶴図)	橘立章	1 (色紙)	銘「八十一翁／立章筆」落款印「立章／之印」。附・包み紙
290	(福寿草図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章筆」落款印「立／章」。附・包み紙
291	(バナナ、リンゴ図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立／章」。附・包み紙
292	「蓬萊山」	橘立章	1 (色紙)	銘「立章筆」落款印「立／章」。附・包み紙
293	(蛙図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立章／之印」。附・包み紙
294	(福寿草図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立章」。附・包み紙
295	(伊勢海老図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立章」。附・包み紙
296	(縄絢う人物図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章筆」落款印「立／章」。附・包み紙
297	(三畝)		1 (色紙)	附・包み紙
298	「雞雛図」	樗散人亮	1 (色紙)	「殻分混沌見精神鳳侶鸞儔暫化身 丁酉初春 樗散人亮」落款印「亮印」。附・包み紙
299	(似顔絵)		1 (色紙)	
300	(「大東亜決戦／第二年春」)	柳太郎	1 (色紙)	「大東亜決戦／第二年春／於三嶋車中」、銘「柳太郎」落款印「柳／太／郎」
301	(風景図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立章」。附・包み紙
302	(鳥図)		1 (色紙)	銘「立章」落款印「立章／之印」。附・包み紙

303	「大黒」	橘立章	1 (色紙)	銘「立章筆」落款印「立／章」。附・包み紙
304	「飛躍の鯉」	橘立章	1 (色紙)	銘「立章筆」落款印「立／章」。附・包み紙
305	(雀図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立／章」。附・包み紙
306	(竹に雀図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章筆」落款印「立／章」。附・包み紙
307	(猿に烏帽子図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「章」、V1-291と同図柄。附・包み紙
308	(猿に花図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立／章」、V1-290と同図柄
309	(猿に花図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立／章」
310	(山羊図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立／章」
311	(松に猿図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立章」
312	「亥」	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立／章」。附・包み紙「謹賀新年」
313	(虎図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立／章」
314	(扇子に鼠)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立章」
315	(白蛇図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立／章」。附・包み紙
316	(鮎図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立章」
317	(二鶏図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立章」、V1-300と同図柄
318	(二鶏図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立章」、V1-299と同図柄
319	(山羊図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立／章」
320	(二鶏図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章写」落款印「餘楽斎」
321	(亥図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章筆」落款印「立章」
322	(白兔図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立／章」
323	(牛図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章筆」落款印「立章」
324	(山羊図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章」落款印「立章」
325	「戌」(鶏図)	橘立章	1 (色紙)	銘「立章筆」落款印「立／章」
326	「幸運を招く朱竹画」		—	包みのみ。
327	愛日寮記	加藤虎之亮	1 (紙)	款記「昭和十二年十月一日天淵学人加藤虎」
328	七絶「悼野村秀才」	加藤虎之亮	1 (紙)	昭和14年 款記「昭和己卯六月中八 加藤虎(花押)」
329	和歌1首(詞書「清正君の結婚を寿ぎて」)	加藤虎之亮	1 (紙)	
330	和歌2首(詞書「小林家の慶事を寿ぎて」)	加藤虎之亮	1 (紙)	
331	石楠荘記	加藤虎之亮	1 (紙)	款記「昭和六年五月加藤虎謹撰拝書」
332	簡堂松平伯頌徳詩一百韻并序	加藤虎之亮	1 (紙)	昭和7年5月

333	奉寿恭堂岡田枢密古稀	加藤虎之亮	1 (紙)	款記「昭和八年歳次癸酉夏五月加藤虎」落款印「加藤／虎印」、恭堂岡田良平古稀の寿詞
334	石楠荘記	加藤虎之亮	1 (紙)	款記「昭和六年五月加藤虎謹撰揮書」落款印「加藤／虎印」「天／淵」、国分青厓邸の記
335	恭寿清水老師古稀	加藤虎之亮	1 (紙)	款記「昭和十五年歳次庚辰秋日 加藤虎拝艸」
336	(漢語、俳句…)	加藤虎之亮	1 (色紙)	昭和33年11月2日 「五十年来温旧交／杖朝叟虎」 「迷中立行 藤朮」「藤三家初の集ひや茶のかほり」 「語り合ふ秋しつかなり老楽居 たねた」識語「昭和 三三、一、二／三藤会」
337	「寿」	耕雲	1 (色紙)	款記「昭和十八年春日／七十翁耕雲」落款印「長／順」「耕雲」関防印「釣井」
338	「愛嬌教育／之要訣也」	瀧沢菊太郎	1 (色紙)	銘「七十三翁 滝沢菊太郎」
339	短歌「このへの御垣に咲けると きしくの花のかをりに似たる君か も」	大島建彦	1 (短冊)	詞書「加藤博士のかしこき／あたりに奉仕し給／へる をほきまつりて」署名「八十八叟 建彦」、短冊裏「大 島多計比古」
340	短歌「御民われら海幸にさへめく まれぬいさやはけまむころひと つに」「八十八叟 建彦」	大島建彦	1 (短冊)	詞書「物資非不足／所缺在励精」署名「八十八叟 建 彦」、短冊裏「大島多計比古」
341	短歌「すなほにも道行く人を横に はふ蟹はわらはむうたて世の中」	大島建彦	1 (短冊)	詞書「蟹」署名「八十四叟 建彦」
342	短歌「ひたむきにおのかつとめを いそしまむ国のみ為とこゝろつく して 建彦」	大島建彦	1 (短冊)	詞書「執職效／忠誠」、短冊裏「八十四叟／大島多計比 古」
343	短歌「九重の御垣の菊のゆくりな くしつかふせやに匂ふかしこさ」	大島建彦	1 (短冊)	詞書「恐懼感激のこころを」署名「八十六叟 建彦」
344	「己れ己に工の巳なり己を打立つ而 己に世には己己己巳／己巳元旦工 戯墨」落款印「茸／巖」		1 (短冊)	短冊裏に住所印あり「東京市…／山谷二…／雅文合」
345	短歌「青きりの天水おけに二葉三 葉すてに秋立つ窓外の風」	岸原秀子	1 (短冊)	署名「八十老 秀子」
346	短歌「露にふす末野の小草いかに そとあさたかゝるわかこゝろかな」	貞愛	1 (短冊)	
347	俳句「必勝の國静なり稲の花」	岸原秀子	1 (短冊)	
348	短歌「九への御垣の菊のかしこく もしつかふせやに匂ふけふかな」	大島建彦	1 (短冊)	詞書「感激」、署名「八十六叟建彦」
349	七絶「絡緝一聲夜寂寥…」		1 (短冊)	詩題「廬山観月」、署名「山川生風」
350	短歌「さためなきこのよの夢のか すかすを忍ぶにあまるこそ月か な」		1 (短冊)	詞書「蘇州客舎」、署名「維孝」(尾立維孝か)
351	短歌「あを淵にひそみし龍も時を 得て大空たかくのほるけふかな」	大島多計比古	1 (短冊)	詞書「加藤の学位受領を」、署名「七十九翁 建彦」
352	「秋はれて紫綬かゝやくや老夫子」		1 (短冊)	詞書「祝」、署名「たねた」
353	(鷗画)	橘立章	1 (額装)	
354	絵屏風	橘立章	6 曲 1 隻	
355	「和歌之浦図」2 幅	土佐将監光起	5 (書画幅)	手紙は根津嘉一郎からのもの。附、極札・受取書・手 紙

356	七絶二首「悼高原生二首」	加藤虎之亮	1 (色紙)	昭和12年10月9日 款記「昭和丁丑十月九日 天淵学人加藤虎 (花押)」
357	七絶「雨晴揚極夜烟垂…」	加藤虎之亮	1 (色紙)	款記「新月 天淵虎」落款「加藤／虎印」
358	七古「奉賀美年子女王成婚」	加藤虎之亮	1 (金料紙)	款記「昭和八年正月吉日加藤虎之亮拝稿」落款「加藤／虎印」
359	(奉賀皇太子降誕「日神錫勅 宝祚無窮…」)	加藤虎之亮	1 (色紙)	款記「加藤虎恭詠謹書」落款「加藤／虎印」
360	(福島大人古希記念七言律詩)「仲尼憂世見深衷…」	加藤虎之亮	1 (色紙)	款記「福島大人古稀 後学加藤虎」
361	「古柏參天筆鬱葱…」	加藤虎之亮	1 (色紙)	款記「謁闕里廟 加藤虎」
362	(渡邊菊雄宛)「一郷之善士…」	加藤虎之亮	1 (色紙)	款記「渡邊菊雄君 天淵」
363	(福島大人古希記念七言律詩)「仲尼憂世見深衷…」	加藤虎之亮	1 (色紙)	款記「福島大人古稀 後学加藤虎」落款「加藤／虎印」「天／淵」
364	「農天下之大本也…」	加藤虎之亮	1 (色紙)	款記「為渡邊高次郎君 天淵拝書」
365	「農天下之大本也…」	加藤虎之亮	1 (色紙)	款記「為澤山君 天淵拝書」
366	俳句「日の御旗金覆輪の馬上かな」	一や	1 (色紙)	詞書「加藤大人の文学博士になり給ひけるを祝ひまつりて」
367	七律二首「哀雁呼天報上仙…」「嘗事采樵丘壑間…」	加藤虎之亮	1 (色紙)	款記「奉挽瀧澤先生二首 加藤虎拝稿」落款「加藤／虎印」
368	七絶「選挙維盛七首其一」(「棄擲瓊瑤捨賦…」)	加藤虎之亮	1 (色紙)	款記「天淵虎」落款「加藤／虎印」
369	「戊戌元旦三律録一」(「飲迓韶光九秩春…」)	加藤虎之亮	1 (色紙)	昭和33年 款記「天淵加藤虎」落款「加藤／虎印」「天／淵」
370	「想得主賓飛羽腸」	加藤虎之亮	1 (色紙)	
371	「備物致用立／成器以為天／下利」	加藤虎之亮	1 (色紙)	款記「渡邊彦作君 天淵虎」
372	七律「黯雲催雨氣蕭森…」	加藤虎之亮	1 (色紙)	款記「加藤学長学葬儀恭賦奠 加藤虎」落款「加藤／虎印」
373	短歌「魚」(「つりてこし魚をさしみにつくりけりかきねの蓼をいもにつませて」)	遠山英一	1 (色紙)	裏書「遠山英一翁は明治大正昭和の三期に亘り御歌所に奉仕せる歌人なり／昭和二十九年二月十日／加藤虎之亮識」
374	七絶「温恭思道暢神顔…」	加藤虎之亮	1 (色紙)	款記「奉賀小山大人喜寿 虎拜手」、落款「加藤／虎印」「天／淵」
375	七律「昌平橋北仰高門…」	？坦斎	1 (色紙)	款記「右仰高門講書有感 坦斎筆」落款「徳命」
376	「誠者物之終始…」	加藤虎之亮	1 (色紙)	款記「加藤虎拝書」落款「加藤／虎印」
377	「子曰好学近乎知…」	加藤虎之亮	1 (色紙)	款記「為松村学兄 加藤虎」
378	「子曰好学近乎知…」	加藤虎之亮	1 (色紙)	款記「為松村学兄 加藤虎」
379	「君子戒慎乎其所不睹…」	加藤虎之亮	1 (色紙)	款記「為小川学兄 加藤虎拝書」落款「加藤／虎印」
380	七律「維昔藝城桃李顔…」	加藤虎之亮	1 (色紙)	昭和30年10月 款記「乙未十月登美山会員諸君頌余喜寿賦此道謝／白銀君粲政 天淵加藤虎」落款「天／淵」
381	七絶「孜孜忘老日讀研…」	加藤虎之亮	1 (色紙)	款記「奉頌西田博士進講経筵 加藤虎」落款「加藤／虎印」

382	七律「維昔藝城桃李顔…」	加藤虎之亮	1 (色紙)	昭和30年10月 款記「乙未十月登美山会員諸君頌余喜寿賦此道謝／天淵加藤虎」落款「加藤／虎印」「天／淵」、V2-44と同文、落款異。
383	「竹苞松茂」	加藤虎之亮	1 (色紙)	昭和8年 款記「癸酉明治節前夜／天淵学人」
384	(習作「誠 思之尋之天人是明履之行之内外徳成…」)	加藤虎之亮	1 (色紙)	昭和9年秋 款記「甲戌仲秋 外祖虎書」
385	「恩光」	徳川家達	1 (色紙)	昭和13年4月
386	「南極星図」	安藤栄	1 (帛)	昭和33年 「南極星図／写以賀／天淵博士八秩高寿／戊戌暢月 安藤栄 (落款2)」

書簡類				
No.	差 出	内 容	年 月 日	備 考
個 人				
1	青山於菟	鳳凰硯下賜祝賀	昭和26年8月30日付	消印：昭和26年8月30日
2	青山於菟	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月3日	紫綬褒章関係 消印33/11/4
3	明石照男	御問合せの件、去年の結果にては経済学科志望の内合格者云々	(昭和7年)5月19日付	
4	明石照男	昨日根津美術館ニ於て河西氏宛尊翰を拝見	(昭和30年)6月3日付	消印：昭和30年6月4日
5	秋月左都夫	年賀状	昭和15年1月2日付	葉書、消印：昭和15年1月2日
6	秋月左都夫	(封筒のみ)	(昭和18年10月2□日)	消印：昭和18年10月2□日
7	秋月左都夫	揮毫呈上、取捨を乞う	年不明10月1日付	消印なし
8	朝井石龍	悔やみ状	昭和5年5月18日付	消印：昭和5年5月19日
9	朝比奈策太郎	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月1日	葉書、紫綬褒章関係 消印33/11/1
10	足田兼一	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月20日	紫綬褒章関係 消印33/11/21
11	荒木寅三郎	拙作先生之斧正を経て一新感謝致候	(昭和9年)11月9日	・桃郷雑誌ほか漢詩一綴（クリップとめ） ・「昭和十年度東京尚志会館特別会計予算集」の2点同封
12	荒浪坦	賜硯奉賀詩進呈	昭和26年8月3付	消印：昭和26年9月3日
13	荒牧鉄雄	令息永眠、御愁傷悼み申上げ候	昭和2年9月8日付	消印：昭和2年9月9日
14	阿波根朝松	年賀状	昭和11年1月	
15	飯野はる	悔やみ状	昭和5年5月23日付	消印：昭和5年5月23日
16	飯山慶助	近況報告	大正年不明5月6日	葉書
17	石沢豊作・利弥	悔やみ状	昭和5年6月5日付	消印：1930年6月9日（サンフランシスコより）
18	石橋祝	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月1日	紫綬褒章関係 消印33/11/2
19	板沢武雄	近況報告	昭和23年月日不明	葉書、消印：昭和23年（月日不明）
20	一木喜徳郎	明石照男令息結婚二付祝物として別紙の如き七絶を作り候。御批評被下候	(昭和14年)12月19日付	一括 別紙「賀明石君令嗣新婚」同封・一木喜徳郎葉書一通も同封一括（拝啓本日差上候拙詩結句 篇首は先見と御訂正被下度乍失礼葉書にて追伸致候）、消印日付なし（消印により年代推定）
21	一木喜徳郎	改めて別紙相認め候間、右二付御批評御成朱被下度	(昭和14年)12月25日付	別紙なし
22	一木喜徳郎	修礼漢詩呈上	昭和17年10月31日付	消印：昭和17年10月31日
23	一木喜徳郎	修礼漢詩呈上	(昭和17年)11月3日付	消印：(昭和17年)11月3日
24	一木喜徳郎	礼状並び漢詩添削願	昭和18年6月27日付	消印：昭和18年6月28日
25	一木喜徳郎	漢詩添削願	(昭和18年)7月15日付	消印：(昭和18年)7月15日
26	一木喜徳郎	漢詩添削願	年不明6月28日付	消印不明

27	一木喜徳郎	過日御覧を願ひ候拙詩承り候云々	年不明12月21日付	
28	伊東延吉	[文部省思想局長伊東延吉] 日本文化講義出講依頼	(昭和11年)7月4日付	消印：昭和11年7月4日
29	稲田清助	[文部事務次官稲田清助]	(昭和33年)11月4日	一括（紫綬褒章関係（書翰2通、記念写真1葉）） 消印：昭和33年11月4日、「文部大臣灘尾弘吉」 差出封筒入
30	井上哲次郎	礼状、揮毫依頼	昭和15年12月23日	
31	岩渕旭	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月11日	紫綬褒章関係 消印33/11/12
32	岩村通世	(封筒のみ)	(昭和27年7月15日)	消印：昭和27年7月15日
33	岩村通世	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月15日	葉書、紫綬褒章関係 消印33/11/15
34	上田喜太郎	七言絶句二首	昭和33年12月5日	七言絶句二首 消印33/11/24
35	植村澄三郎	御二男様御就職の件二付御申越 拝承仕候	(昭和15年)10月1日	
36	内山知也	近況報告	(昭和32年7月13日)	葉書、消印：昭和32年7月13日
37	宇野哲人	柳田氏就職の件	昭和27年1月18日付	葉書、消印：昭和27年1月18日
38	宇野哲人	柳田氏就職の件	昭和27年4月10日付	葉書、消印：昭和27年4月11日
39	大井義雄	結構なる御品御恵与感謝此事に 御座候	(昭和10年)9月21日付	
40	大井義雄	診断の結果等報告	(昭和14年)12月15日	消印により年代推定
41	大金益次郎	娘悦子に対する弔辞御礼	年不明7月16日	大金益次郎は宮内省・庁書翰も参照
42	大倉喜八郎	書籍購入手続完了につき連絡	昭和15年9月16日	消印：昭和15年9月16日
43	大島多計比古	著作送付につき	昭和13年10月27日付	葉書、消印：昭和13年10月27日
44	大島多計比古	暑中見舞い	(昭和15年8月4日)	葉書、消印：昭和15年8月4日
45	大島広・春野	過般老父多計永眠仕候節は御弔 慰下され御礼申上候	昭和18年6月3日	
46	太田晶二郎	近況報告	(昭和24年)7月20日付	消印：昭和24年7月20日
47	太田兵三郎	鳳凰硯についてお慶びの和詩、 取あえず拙歌をお目にかけます	(昭和26年)11月7日付	消印：昭和26年11月8日
48	太田兵三郎	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月1日	紫綬褒章関係 消印33/11/1
49	大野重蔵	[住友信託銀行新宿出張所 所長 大野重蔵]	不明	定期預金案内、「信託問答」ほか同封、消印：料 金別納郵便、加藤虎之亮・御令閨様宛
50	大橋純二郎	作詞を試みの件	(昭和17年)2月6日	
51	大橋純二郎	美果夥しく御恵贈感謝、開函其 場に於て家族一同拝味致し候	昭和18年9月21日付	
52	大橋純二郎	喜寿通知	(昭和21年3月15日)	葉書、消印：昭和21年3月15日
53	大橋純二郎	黒老高齢に際し詩稿を頂き難有 候	昭和21年12月2日	
54	大橋純二郎	今十八日貴書到着早速披見仕候 云々	昭和21年12月18日	

55	大橋和子	父純二郎死亡通知	昭和23年9月5日付	葉書、消印：昭和23年9月7日
56	小倉進平	過日愚息入学志望につき御配慮を煩はしましたところ、御蔭様を以て入学の素願を達し本人、家族一同満足の至りに候	昭和14年3月13日	
57	小倉正恒	来訪を謝す	昭和20年12月23日付	消印：昭和20年12月24日
58	小倉正恒	荒木榮吉氏紹介	昭和29年2月1日付	消印：昭和29年2月2日
59	小倉正恒	無窮会副委員長及び運営資金につき理事会にて相談されたし	昭和29年2月17日付	消印：昭和29年2月18日
60	小倉正恒	無窮会副委員長人事について	昭和29年2月24日付	消印：昭和29年2月25日
61	小沢文四郎	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月3日	紫綬褒章関係 消印33/11/3
62	織田小覚	北条の書廓堂片影のことについて	年不明10月8日	
63	織田小覚	北条（時敬）氏の号廓堂二候書名廓堂心影或ハ片影でもよきか	年月不明9日	「廓堂片影」は西田幾多郎編（教育研究所刊・昭和6年）
64	織田小覚	寄附金のことは吉本氏と三人相談の上可相定、花沢はとうに死去		
65	片岡安司	[旧奉仕者会片岡安司書簡]	(昭和32年)1月28日	「元日鶏鳴篇」会報掲載の事、付「元日鶏鳴篇」原稿、消印より年代推定
66	片岡安司	[旧奉仕者会片岡安司]	(昭和32年)2月22日	加藤への返書（「元日鶏鳴篇」掲載の事）、消印より年代推定
67	加藤総蔵	御子息死去二付驚入	昭和2年9月20日付	葉書、消印：昭和2年9月21日
68	金子義雄	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月3日	紫綬褒章関係
69	金原清一	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月17日	葉書、紫綬褒章関係 消印33/11/17
70	金原清一	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月1日	葉書、紫綬褒章関係 消印33/11/1
71	河井弥八	熱海富士屋連絡内容通知	昭和18年1月25日付	消印：昭和18年1月25日、河井弥八は宮内省・庁書翰も参照
72	河井弥八	結婚式披露宴参列予定者、新婦髪合わせ日時連絡	昭和18年1月27日付	消印：昭和18年1月28日、河井弥八は宮内省・庁書翰も参照
73	河井弥八	年賀状	昭和23年元旦付	葉書、消印：昭和23年1月4日、河井弥八は宮内省・庁書翰も参照
74	河井弥八	漢詩添削礼状	昭和24年7月31日付	消印：昭和24年8月1日、河井弥八は宮内省・庁書翰も参照
75	河井弥八	所有林地の解放に対する静岡県知事の意向通知	昭和25年12月30日付	消印：昭和25年12月30日、河井弥八は宮内省・庁書翰も参照
76	河井弥八	年賀状	昭和26年	葉書、消印：昭和25年12月31日、加藤虎之亮・令夫人宛、河井弥八は宮内省・庁書翰も参照
77	河井弥八	大淵村内山林不当開墾に関する措置につき連絡	昭和26年5月17日付	葉書、消印：昭和26年5月17日、河井弥八は宮内省・庁書翰も参照
78	河井弥八	参議院議員当選礼状	(昭和26年7月7日)	葉書、消印：昭和26年7月7日、河井弥八は宮内省・庁書翰も参照
79	河井弥八	礼状	年不明6月26日付	消印：年不明6月26日、河井弥八は宮内省・庁書翰も参照

80	河井弥八	参議院議員当選礼状		葉書、消印なし、河井弥八は宮内省・庁書翰も参照
81	河井弥八	参議院議員当選礼状		葉書、消印不詳、河井弥八は宮内省・庁書翰も参照
82	河井彌八		昭和33年10月5日	消印33/11/6
83	河井彌八			葬儀関係
84	川島悦郎	久方振にて謹厳なる御健体の尊容を拝し大慶之至、御構申上す欠礼之義申訳無之	(昭和30年)9月4日	消印により年代推定
85	川島周(清堂)	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月7日	紫綬褒章関係 消印33/11/7
86	川島周(清堂)		昭和33年10月27日	消印33/11/27
87	木下彪	礼状	昭和20年10月15日付	消印：昭和20年10月15日
88	久住栄一	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月	葉書、紫綬褒章関係 消印不明
89	熊田子之四郎	喜寿祝を御贈くだされ感謝	昭和15年11月24日付	消印：昭和15年11月24日
90	栗原基	年賀状	昭和26年1月4日付	葉書、消印：昭和26年1月5日
91	栗原基	年賀状	昭和27年	葉書、消印：昭和27年1月1日
92	栗原基	礼状	昭和28年8月12日付	葉書、消印：昭和28年8月12日
93	栗原基	加州の珍菓御恵送御誠意の程感佩之至二存じます	昭和28年9月9日	
94	栗原基	周礼経注琉音義校勘記拝受感慨惜くところを知らず	昭和30年1月5日	英文一枚同封
95	栗原基	天淵文詩二巻御恵送二接シ感佩候、巢山末七参議院選挙に立候補、畏友山梨勝之進近況	昭和30年12月5日	
96	栗原基	堀維孝遺稿出版二配慮ヲ承リ感謝他	昭和31年8月10日	
97	栗原基	お見舞感謝	昭和32年8月3日付	葉書、消印：昭和32年8月4日
98	小池重	御下命二従ひ別紙の拙草弄し候	(昭和26年)10月19日付	別紙：天淵加藤博士拜謝 皇后宮下賜鳳凰硯 恭賦詩五首 今次韻賀其栄、消印：昭和26年10月10日
99	小池重	漢詩添削依頼	昭和33年11月30日付	消印：昭和33年12月1日
100	河野靖	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月3日	紫綬褒章関係 消印33/11/3
101	国分三亥	前日皇后陛下への御進講につき報告	昭和27年3月24日付	消印：昭和27年3月24日
102	国分三亥	詩を浄書し恵贈	昭和26年6月30日付	消印：昭和26年8月31日
103	国分三亥	年賀状	(昭和27年1月1日)	葉書、消印：昭和27年1月1日
104	国分三亥	御進講時の献詠について	昭和27年3月21日付	葉書、消印：昭和27年3月21日、昭和27年3月14日皇后陛下に御進講、「皇后陛下進講日録自昭和二十三年」昭和27年3月14日条参照
105	国分三亥	添削願	昭和27年6月3日付	消印：昭和27年6日3日
106	国分三亥	両陛下より御菓子下賜	昭和27年6月6日付	消印：昭和27年6月7日
107	国分三亥	虎之亮喜寿の祝賀	昭和30年	

108	国分三亥	添削願ひ	昭和33年12月2日付	消印：昭和33年12月2日
109	国分三亥	皇后に拝謁時の会話内容につき内報	年不明1月27日付	消印：（年不詳）1月17日
110	小塩孫八	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月3日	紫綬褒章関係 消印33/11/4
111	小西重直	碑文ノ御訂正ヲ願居候処、御修正被成下感謝候	（昭和17年12月）23日付	
112	小林重直	有志会合/通知の件他	（昭和17年4月）8日付	消印：昭和17年4月9日
113	小柳司気太	建碑之件二付、貴台に御願ひの事	（昭和14年）8月24日付	消印：昭和14年8月23日（日付ママ）
114	小柳司気太	碑文御辞退之趣ニ候得共、御承諾願上候	（昭和14年）8月28日付	
115	小柳司気太	御出版の趣早速振替ニテ注文致し候他	（破損により年月不明）23日付	破損あり、破損により消印不明
116	小山熊蔵	礼状遅延申訳無之御詫申上候	年不明10月11日	加藤兄上（虎之亮）・姉上宛
117	小山志津	子息死去二付	（昭和2年）9月7日付	消印：昭和2年9月8日
118	財津愛象	御四男逝去之趣承知仕驚愕候	（昭和2年）9月14日	消印より年代推定
119	財津愛象	松山光吉養生叶ハズ痛嘆至極ニ候		
120	桜井清太郎	見舞金に対する礼状	1月16日付	消印：不鮮明、1月17日（昭和15年）
121	佐野政雄	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月6日	紫綬褒章関係 消印33/11/7
122	塩谷温	北京天津の遊記は斯文第十巻（昭和三年）第四第五号に有之候	（昭和14年）10月20日付	消印により年代推定
123	塩谷温	辛島驍を紹介、貴学ニ適當の講義有之候はば採用被下度	年不明12月10日付	郵便を介さず、消印等なし
124	幣原坦	年賀状	昭和26年付	葉書、消印：昭和26年1月4日
125	幣原坦	幣原喜重郎弔問御礼	昭和26年3月付	葉書、消印：昭和26年3月4日
126	幣原坦	年賀状		葉書、消印判読不可
127	斯波六郎	大著二種御恵贈被下洵に有難く御礼申上候	年不明6月11日付	消印：（年不詳）6月11日
128	柴田昌年	懇切なる御教示有難御礼申上候	（昭和26年）11月30日付	消印：昭和26年11月30日
129	清水芳恒	東洋文化取次店のごたごたにて中止今日に及び候	年不明11月5日	
130	下条康麿	年賀状	昭和24年元旦	葉書、消印：昭和23年12月31日
131	正田貞一郎	御婚約祝辞に対する礼状	昭和33年12月付	葉書、消印：昭和33年12月21日
132	シヨウジ	ゴエイヨオシユクス	昭和33年11月6日	電報、ゴエイヨオシユクス
133	城野亀吉	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月14日	紫綬褒章関係 消印33/11/14
134	城野亀吉	紫綬褒章祝賀	昭和33年10月31日	葉書、紫綬褒章関係 消印33/11/1
135	白石正邦	尚志会より北条時敬先生号一冊拝受云々	11月1日付	

136	白銀重二	同期生会臨席依頼、親展	昭和15年10月14日付	消印：昭和15年10月14日
137	白銀重二	近況報告	昭和23年6月14日付	葉書、消印：昭和26年6月15日
138	白銀重二	東洋大学学長就任祝賀	昭和23年7月6日付	葉書、消印：昭和23年7月7日
139	白銀重二	年賀状	昭和24年1月1日付	葉書、消印：昭和24年1月2日
140	白銀重二	礼状	年月不明20日付	葉書、消印：年月不明21日
141	白銀重二	任地着任挨拶		葉書、輝九三——部隊
142	新見吉治	調査依頼	昭和21年5月1日付	
143	新見吉治	悔み状、教示に対する謝礼	昭和21年5月27日付	消印：昭和21年5月29日
144	新見吉治	美濃国大宝二年戸籍中に所載の「同党」の意味について照会	昭和23年4月14日付	消印：昭和23年4月15日
145	新見吉治	東洋大学学長就任に対するお祝、「同党」に関する教示を謝す	昭和23年5月28日付	消印：昭和23年5月29日
146	新見吉治	年賀状	昭和24年1月5日付	葉書、消印：昭和24年1月6日
147	新見吉治	東洋大学学長辞任に際し在勤中の功績を慰労	昭和24年12月12日付	葉書、消印：昭和24年12月12日
148	新見吉治	年賀状	昭和26年1月3日付	葉書、消印：昭和26年1月3日
149	新見吉治	公職追放解除祝詞に対する礼状	昭和26年8月9日付	消印：昭和26年8月10日
150	新見吉治	祝賀状	昭和26年10月10日付	葉書、消印：昭和26年10月10日
151	新見吉治	年賀状	昭和27年1月1日	葉書
152	新見吉治	近況報告	昭和31年8月8日付	消印：昭和31年8月8日
153	新見吉治	著書刊行祝賀	昭和33年元日付	消印：破損年月欠、3日
154	新見吉治	暑中見舞いの礼状	昭和33年8月3日付	葉書、消印：昭和32年8月3日
155	杉村勇造	御愛児逝去二付	(昭和2年)9月14日付	消印：北京「□2. 9. 27」、内容から昭和2年か
156	鈴木為松	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月6日	葉書、紫綬褒章関係 消印33/11/8
157	鈴木虎雄	礼状	昭和19年10月19日付	消印：昭和19年10月20日
158	鈴木虎雄	大正天皇御製詩集完成並びに陵墓に奠献済了、恩賜品拝領を賀す	昭和22年1月11日付	
159	鈴木虎雄	鳳凰硯下賜祝賀	昭和26年8月11日付	消印：昭和26年8月11日
160	鈴木虎雄	天淵詩稿本拝読感（漢文）	昭和30年6月17日付	消印：昭和30年6月18日
161	鈴木虎雄	詩評と著状惠贈に対する礼状	昭和32年11月25日付	消印：昭和32年11月20日
162	鈴木虎雄	校勘不正確何由・・・	昭和32年11月	
163	鈴木虎雄	作詩の処理依頼	昭和32年12月2日付	葉書、消印：昭和32年12月3日
164	鈴木虎雄	紫綬褒章祝賀	11月18日	紫綬褒章関係
165	鈴木虎雄	七律三首	昭和33年11月23日	七律三首 消印33/11/18

166	スズキ	ハレノゴエイヨヲシユクシゴケンコウタイノリマス	昭和33年11月3日	電報、ハレノゴエイヨヲシユクシゴケンコウタイノリマス
167	角谷源之助	暑中見舞い	昭和15年8月2日付	葉書、消印：昭和15年8月2日
168	関一穂	悔やみ状	昭和5年5月22日付	消印：昭和5年5月26日
169	大地菱松	尚志会の総会はいかがですか、 汽車にて詠む歌を披露	(昭和26年)11月11日付	消印：昭和26年11月11日
170	高木武	悔やみ状	(昭和5年)5月13日付	消印：年不明5月14日、虎之亮母死去（昭和5年） に付き悔やみ状
171	高橋茂一郎	領寿ノ詩文ヲ賜ヒシ諸名家ニ謝ス	(昭和14年12月)	御高作御贈付謝状（消印は昭和15年3月1日）
172	武内義雄	貴学事務に同意書ニ記名捺印する様にての事で	(昭和23年)9月27日付	消印：昭和23年9月28日
173	武内義雄	その節御話の直ニ議義を担当する様二との事二付	(昭和23年)10月20日付	消印：昭和23年10月21日
174	武内義雄	来年出講の件六かしく候	(昭和24年)12月16日付	消印：昭和24年12月17日
175	武内義雄	年賀状	(昭和26年1月1日)	葉書、消印：昭和26年1月1日
176	武内義雄	小生が御引受けできず、新制の 発足には適当なる人を物色いたし度	年不明7月11日付	消印：判読不能
177	武島滝蔵	吉原の自動車利用の件	年月不明27日付	葉書、消印：（端欠年欠）9月27日
178	田島道治	実業人ニ論語御講義相成候由邦 家の為慶賀也近況報告	(昭和30年)8月21日付	消印により年代推定、田島道治は宮内省・庁書翰 も参照
179	田島道治	紀恩帳恵贈礼状	年不明2月28日付	消印なし、田島道治は宮内省・庁書翰も参照
180	タチバナ	ジユシヨウシユクス	昭和33年11月3日	電報、紫綬褒章関係
181	田中完三	一昨日は遠路態々御枉駕被下候 趣も家族一同不在にて失礼候	(昭和17年)11月25日付	
182	田宮知耻夫	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月9日	紫綬褒章関係 消印33/11/9
183	長寿吉	年賀状	昭和23年	葉書、消印：昭和23年12月30日
184	張伯謹	周礼経注疏音義校勘記拝読ノ事	(昭和33年)7月9日	消印：昭和33年7月9日
185	土屋久泰	高作前後御示被示敬誦仕候	(昭和26年)11月6日付	消印：昭和26年11月6日
186	津山三郎	津山三郎書翰	(昭和2年9月13日)	消印：昭和2年9月13日
187	鶴見恭平	[岡山県閑谷中学校長鶴見恭平] 備前焼香炉御送付ノ件	昭和6年9月9日	
188	寺野幸次郎	近況報告	(昭和27年)10月19日付	消印：昭和27年10月20日
189	徳川家達	[公爵徳川家達] 徳川家相続 七十年記念「近世日本の儒学」 恵贈に付礼状	(昭和14年)12月(30日) 付	
190	徳永好吉	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月17日	紫綬褒章関係 消印33/11/17
191	鳥飼生駒・りき	令息逝去二接シ驚愕	昭和2年9月14日付	消印：昭和2年9月14日、加藤虎之助・奥様宛
192	鳥飼生駒	今般、鮮満支那視察ノ御旅行之 件	(昭和6年7月7日)	消印：昭和6年7月7日
193	鳥飼生駒	礼状	昭和26年10月21日付	消印：昭和26年10月22日

194	トリカイイコ マ タツオ	オメデトウゴザイマス	昭和33年11月1日	電報、オメデトウゴザイマス
195	鳥飼生駒	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月6日	紫綬褒章関係
196	ナカムラ	キクカオルヨキヒゴジュシヨウ オイワイモウシアゲマス	昭和33年11月3日	電報、キクカオルヨキヒゴジュシヨウ オイワイモウシアゲマス
197	中村初蔵	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月1日	葉書、紫綬褒章関係 消印33/11/1
198	長崎丈郎	御子息様逝去御くやみ申上候	(昭和2年)9月8日	消印より年代推定
199	長屋順耳	受験相談	昭和15年1月18日付	消印：昭和15年1月20日、加藤虎之亮・塚本常雄 宛
200	長屋順耳	同窓会々員有志諸君より古稀祝 花瓶並記念品料御恵与下され拜 謝仕候	昭和18年4月9日	
201	長屋順耳	先般はわざわざ御来駕くたされ 野菜恵与誠に難有	昭和21年9月10日	
202	長屋順耳	隼人瓜恵贈御礼	昭和25年11月10日付	葉書、消印：昭和25年11月10日
203	長屋順耳	年賀状	昭和26年元旦付	葉書、消印：昭和26年1月1日
204	中山久四郎	北條先生胸像復元誌寄贈御礼	昭和32年11月13日付	葉書、消印：昭和32年11月14日
205	中山久四郎	寒中見舞い	昭和33年1月24日付(大 寒入)	葉書、消印：昭和33年1月24日
206	中村儀一	東大に行幸を拝し・・・		皇室関係
207	那智佐典	悔やみ状	(昭和5年) 5月15日付	消印：年不明5年15日、虎之亮母死去(昭和5年) に付き悔やみ状
208	那智佐典	鳳凰硯恩賜二付別紙拙作差出候	(昭和26年)12月7日付	消印：昭和26年12月8日
209	那智佐典	喜寿詩(天淵文庫)一首	(昭和30年)	消印：昭和30年9月26日付
210	西順蔵	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月1日	紫綬褒章関係 消印33/11/2
211	西晋一郎	先輩の推薦心進まずなから急速 に決定、小原氏論文の件	(昭和7年)7月3日付	
212	西晋一郎	小原氏論文の件	(昭和7年)7月26日付	
213	西晋一郎	北条先生御蔵書ニテ当枝ニ御寄 贈被下難有候。上京受取者の件 相談	(昭和15年)6月12日	
214	西晋一郎	小生十一月上京予定二就テの件 他	(昭和15年)11月6日付	消印：昭和15年10月6日
215	西晋一郎	小原氏ノ事ニツキ御配慮被下候 処、決心シ論文提出ニ取力カリ 候他	(昭和17年)6月13日	
216	西晋一郎	小原君ノ論文ニ就キ委細拜承	(昭和17年)10月4日	
217	西晋一郎	武蔵高等学校教授御退キ候由、 今後益々自重国家ノ重キニ任ジ 被成下候様不堪切願候	(昭和18年)2月4日	
218	西田幾多郎	揮毫恵贈に対する礼状	昭和16年2月6日付	消印：昭和16年2月7日
219	西邨文則	日本吟詠界 第32号(昭和32 年12月15日発行)(西邨文則 発送)	(昭和33年12月15日)	消印：昭和33年12月15日

220	西村文則	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月23日	紫綬褒章関係 消印33/11/29
221	西脇寿	小生郷里親戚今回御校入学試験 相受候につき援助願	(昭和4年) 1月31日付	
222	根津嘉一郎	調査に対する礼状	昭和14年4月15日付	消印：昭和14年4月15日
223	根津嘉一郎	書籍惠贈お礼	年不明4月9日付	消印：年月欠、9日
224	野口明	空襲見舞並び近況報告	昭和20年4月21日付	葉書、消印：昭和20年4月21日
225	野口明	武蔵高校卒業生身元調査依頼取 消	昭和20年7月4日付	葉書、消印：昭和20年7月20日
226	野沢作太郎	悔やみ状	昭和5年5月11日付	消印：昭和5年5月12日
227	野村民也	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月3日	紫綬褒章関係 消印33/11/10
228	橋本	小生は偉人は具るものにあら ず造るものなりと信じ云々	年不明11月26日	
229	八藤東禧	欧州諸国歴訪のため年頭あいさ つ欠礼の挨拶	昭和33年12月1日付	葉書、消印：昭和33年12月1日
230	服部轍	高作繰返し拝見、御光栄之程慶 賀至極ニ存候	(昭和26年) 10月4日付	消印：昭和26年10月4日
231	原田亨一	御令息逝去の件	(昭和2年)9月8日付	消印：昭和2年9月9日
232	東繁穂	思召に甘え別紙相認め候	昭和26年12月22日付	消印：昭和26年12月22日
233	久松潜一	返信	昭和26年3月25日付	葉書、消印：昭和26年3月26日
234	ヒトシ	ハエノジユシヨウココロカラオ ヨコビイタシマス	昭和33年11月3日	電報、ハエノジユシヨウココロカラオヨコビイ タシマス
235	日野安	熊雄儀御蔭様にて専心勉強にい そしまして頂き謝し奉り候	年不明(10月15日)	
236	平原重幸	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月1日	葉書、紫綬褒章関係 消印33/11/1
237	樋渡卯左衛門	断簡、礼状	年不明11月10日	
238	福栄達也	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月4日	紫綬褒章関係 消印33/11/7
239	福島甲子之	礼状	6月28日付	
240	福原常子	鳳凰硯下賜祝賀の歌、他2首		
241	福原香子		昭和33年11月7日	葉書、消印33/11/7
242	藤井種太郎	伊藤勝会葬弔問お礼	昭和13年9月20日付	
243	藤井種太郎	尚志会員安否伺い	昭和20年6月3日付	葉書、消印：昭和20年6月4日 栃木塩原町御用邸 内より
244	藤井種太郎	年賀状	昭和24年1月1日	葉書、消印：昭和24年1月1日
245	藤井種太郎	着任挨拶、藤井四平婚儀につき 依頼	昭和25年5月5日付	葉書、消印：不鮮明、昭和25年
246	藤井種太郎	詩吟恵贈謝礼、近況報告	昭和25年6月1日付	消印：昭和25年6月2日
247	藤井種太郎	藤井四平婚期につき依頼	昭和25年6月25日付	葉書、消印：昭和25年6月26日
248	藤井種太郎	御進講二十五年を慶福	昭和26年3月24日付	消印：昭和26年3月24日

249	藤井種太郎	御進講満二十五年詩吟惠贈を謝し、近況報告	昭和26年5月8日付	葉書、消印：昭和26年5月9日
250	藤井種太郎	藤井四平婚儀について	昭和26年8月4日付	消印：昭和26年8月5日
251	藤井種太郎	礼状、近況報告	昭和26年8月16日付	消印：昭和26年8月16日
252	藤井種太郎	和歌拝呈	昭和26年10月5日付	消印：昭和26年10月5日
253	藤井種太郎	礼状	昭和26年11月12日付	消印：昭和26年11月23日
254	藤井種太郎	詩吟惠贈を謝し、反共のため同胞の奮起を要望する心情を吐露	昭和26年12月5日付	消印：昭和26年12月6日
255	藤井種太郎	帰任挨拶	昭和28年9月3日夕付	葉書、消印：昭和28年9月4日
256	藤井種太郎	加藤虎之亮作十五絶句に関する感想	年不明1月8日付	葉書、消印：不鮮明
257	藤村作	年賀状	昭和26年	葉書、消印：昭和26年1月7日
258	二木謙三	面会日通知	(昭和24年5月31日)	葉書、消印：昭和24年5月31日
259	二木謙三	北條先生後室連絡先通知感謝	(昭和24年6月15日)	葉書、消印：昭和24年6月15日
260	二木謙三	礼状	(昭和24年6月27日)	葉書、消印：昭和24年6月27日
261	北条巖	年賀状	昭和24年	葉書、消印：昭和24年1月1日
262	北条巖	年賀状	昭和25年1月1日付	葉書、消印：昭和24年12月31日
263	北条巖	年賀状	昭和26年1月1日付	葉書、消印：昭和26年1月1日
264	北条巖	法要案内	昭和26年4月16日付	消印：昭和26年4月17日
265	北条巖	弔辞御礼	昭和26年6月16日付	葉書、消印：昭和26年6月17日
266	北条巖	年賀状	昭和28年1月1日付	葉書、消印：昭和28年1月1日
267	北条巖	著書墓前献呈につき	昭和32年12月12日付	葉書、消印：昭和32年12月12日
268	北条薛	来ル二十七日弘済院三周忌之件	(昭和2年4月20日)	
269	北条薛	先般来道御出張御講之由、就而は其節淡墨羊羹賜り感謝礼状	(昭和14年)11月18日	消印により年代推定
270	北条薛	御丹精之周礼林勘記落手いたしました	(昭和32年)12月3日	
271	北条薛	今回丸山不幸之節は御悔状を戴き御礼申上	年不明2月29日付	昭和19年以降
272	堀維孝	佑の就職斡旋、北條時敬先生の近況について	(大正15年)4月5日付	消印：大正15年4月5日
273	堀維孝	大東文化学院退職に関する感想	(大正15年4月)17日付	消印：大正15年4月17日
274	堀維孝	次男就職斡旋願	(昭和2年)3月1日付	消印：昭和2年3月2日
275	堀維孝	見舞い状	(昭和2年)9月6日付	葉書、消印：昭和2年9月7日
276	堀維孝	体調不良につき回想録完成延期願	昭和3年2月24日付	消印：昭和3年2月25日
277	堀維孝	悔やみ状	昭和5年5月10日付	消印：昭和5年5月13日

278	堀維孝	近況報告	(昭和10年)7月22日付	消印：昭和10年7月22日
279	堀維孝	広島在住藤井種太郎家縁談話につき内報	(昭和14年)8日14日付	消印：昭和14年8月14日
280	堀維孝	体調不良につき委嘱事項の延引も可	(昭和15年)3月14日付	消印：昭和15年3月14日
281	堀維孝	愚息結婚につき報告	(昭和15年)3月16日付	消印：昭和15年3月16日
282	堀維孝	只今二百八拾七円御遣取被下件二付	(昭和15年)6月29日付	消印：昭和15年6月29日
283	堀維孝	病児医師の診断にて稍安心致し、ほか	(昭和16年)6月16日付	消印：昭和16年6月16日
284	堀維孝	礼状	昭和16年11月17日付	葉書、消印：昭和16年11月17日
285	堀維孝	近況報告	昭和20年7月26日付	葉書、消印：昭和20年7月26日
286	堀維孝	詠歌進呈	昭和20年8月21日付	葉書、消印：昭和20年8月23日
287	堀維孝	雑話会案内	昭和24年11月7日付	葉書、消印：昭和24年11月7日
288	堀維孝	上田氏詠歌について	昭和25年1月4日夜付	葉書、消印：昭和25年1月5日
289	堀維孝	年賀状	昭和26年1月2日付	葉書、消印不詳
290	堀維孝	問い合わせ	昭和26年4月18日付	葉書、消印：昭和26年4月18日
291	堀維孝	礼状	昭和26年4月27日付	葉書、消印：昭和26年4月28日
292	堀維孝	礼状	昭和26年4月29日付	葉書、消印：昭和26年4月30日
293	堀維孝	漢籍講義委嘱願他	(昭和26年)5月4日付	消印：昭和26年5月5日
294	堀維孝	甘藷苗授受の日取りの件	年不明5月7日付	葉書、消印：年不明5月8日
295	堀維孝	「昨夕光臨・・・」	年不明4月29日付	葉書、消印：昭和2□(0)年6月30日
296	堀維孝	甘藷苗譲与願い	年不明5月31日付	葉書、消印不詳
297	堀維孝	講話依頼	年不明10月29日付	葉書、消印：年不明10月30日
298	堀維孝	去る大正九年無窮会委嘱調査について	年不明5月4日付	消印：(年不詳)5月4日
299	堀維孝・御野子	何とも申上様もなく御心中御察申候	年月不明10日夜付	消印なし(郵便を介さず、住所等なし)、加藤虎之亮・令夫人宛
300	堀維孝	受領書		消印：昭和15年7月8日
301	前川忠	虎之亮喜寿ノ賀詩	昭和30年	
302	前川忠	老去重迎戊戌春・・・	昭和33年1月	
303	牧野謙次郎	病気見舞い礼状	大正15年5月付	消印：大正15年5月21日
304	牧野謙次郎	外来不幸二付弔詞を忝くし厚情感謝之至二存候	(昭和8年)8月6日	
305	牧 一	紫綬褒章祝賀	昭和33年10月31日	紫綬褒章関係 消印33/11/1
306	増田倉次	悔やみ状	昭和5年7月8日付	消印：昭和5年7月8日
307	増田日光	〔本門寺復興壹百萬人会会長増田日光〕宋祖御尊像奉安塔新築協力への礼状	昭和17年8月5日付	

308	増田日光	領収書（①本門寺復興資金領収証〔昭和27年8月5日〕②本堂再建資金受納証〔昭和27年8月7日金龍山浅草寺大僧正清水谷恭順〕）	昭和27年8月5日、8月7日	
309	松平直亮	頌徳詩寄贈礼状	昭和7年7月27日付	消印：昭和7年7月27日
310	丸山鶴吉	朝鮮同民会関係につき 附北条時敬履歴等	昭和6年2月18日	計5点
311	丸山文喜	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月	葉書、紫綬褒章関係 消印33/11/12
312	水澤利忠		昭和34年9月1日	葬儀関係 消印34/9/4
313	水野昌雄	虎之亮作後宮関係の詩の添削内容報知	年不明9月22日付	消印：9月22日（年不詳）
314	三宅美太郎	某政治家之咄之件、詳細は面晤を期シ候	昭和14年）9月22日付	消印：昭和14年9月22日
315	村田季雄		昭和33年10月8日	
316	望月謹八	子息死去、悔み	（昭和2年）9月14日付	消印：昭和2年9月14日
317	望月謹八	御子息逝去ノ趣	年不明9月8日付	葉書、消印：（端欠、昭和2年）9月8日
318	望月軍四郎	来る十壱日午後四時御光来御約束之件・同日午前拾壱時半御来駕被成下度	（昭和13年）12月8日	
319	望月しま	礼状	昭和21年4月20日付	葉書、消印：昭和21年4月21日、加藤虎之亮・梅枝宛、望月□母堂最後の音信、4月29日発病、5月10日死去、死去後拝受、渉外局検閲のため延着
320	しま（望月）	虎之亮四男死去ノ件	（昭和2年）9月8日付	消印：昭和2年9月10日
321	森起	近況報告	昭和15年9月10日付	消印：昭和15年9月11日
322	守屋紀美雄	〔社長守屋紀美雄〕	年不明4月15日付	礼状
323	守屋貫教	〔立正大学長守屋貫教〕	（昭和17年5月17日）	今般御都合に依り御辞任、学校としては残念。金百円御査収被成下度候
324	守屋美都雄	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月15	葉書、紫綬褒章関係 消印33/11/16
325	諸橋轍次	東洋大学講義は手術後の眼の経過不良ニ付辞任静養致し度	年不明7月4日付	消印：（年不詳）7月（日不詳）
326	安井小太郎	暑中見舞い	昭和4年8月11日付	葉書、消印：昭和4年8月11日
327	安井小太郎	面会依頼	（昭和5年4月11日）	葉書、消印：昭和5年4月11日
328	安岡正篤	受験関係礼状	（昭和18年）3月16日付	
329	安岡正篤	マーシャル八千の生霊を失ひ朝香宮第二王子音羽候も御戦死の趣痛恨に不堪候	（昭和19年）2月24日付	
330	安岡正篤	昨日小生誕生日ニ付御礼	（昭和19年）2月14日付	
331	安岡正篤	豚児漸く東大法科来春見込ニ付	（昭和26年）10月9日付	消印：昭和26年10月13日
332	安岡正篤	御恵投奉深謝候、受験相談の件	年不明3月2日付	
333	保田銓次郎	就職斡旋依頼、必親展	大正15年8月28日付	消印：大正15年8月28日

334	保田銓次郎	私今回の転任に就きましては格別顧慮下さり、去る四日吉原出発六日当地に到着いたしました	(昭和2年)1月17日付	
335	山川健次郎	御尊母様逝去被遊二付香料同封仕候	(昭和5年)5月14日	
336	山田勝美	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月9日	紫綬褒章関係 消印33/11/10
337	山田準	母堂御逝去悔み状	(昭和5年)5月8日付	消印破損、内容より昭和5年と判明
338	山田準	年賀状	昭和21年1月1日付	葉書
339	山田準	添書恵与に対する礼状	昭和24年5月30日付	消印：昭和24年5月31日
340	山田準	文章添削依頼	昭和24年10月21日付	消印：昭和24年10月21日
341	山田準	柴田甚五郎学位審査に際して人物紹介	昭和24年12月17日付	消印：昭和24年12月17日
342	山田準	作品に対する批評	昭和25年4月14日付	消印：昭和25年4月14日
343	山田準	誕生日祝賀	昭和25年10月26日付	葉書
344	山田準	賀章、皇后御進講二十五年鳳凰硯下賜の祝賀	昭和26年11月	
345	山田晋	御子息永眠御慰めの辞に窮する次第	(昭和2年9月9日)	葉書、消印：昭和2年9月9日
346	湯浅倉平	病気見舞い礼状	昭和15年8月付	消印：昭和15年8月20日、湯浅倉平は宮内省・庁書翰も参照
347	湯浅廉渡	礼状	(大正14年11月27日)	消印：大正14年11月27日
348	吉沢義則	年賀状	昭和25年元旦付	葉書、昭和：昭和25年1月4日
349	吉沢義則	年賀状	昭和26年元旦付	葉書、消印：昭和26年1月3日
350	吉沢義則	鳳凰硯下賜祝賀	昭和26年9月3日付	葉書、消印：昭和28年9月3日
351	芳原一男	(封筒のみ)	(昭和26年)9月9日付	消印：昭和20年9月10日
352	和田謙三	紫綬褒章祝賀	昭和33年10月31日	葉書、紫綬褒章関係 消印33/11/1
353	和田英正	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月15日	葉書、紫綬褒章関係 消印33/11/17
354	渡辺松三郎	御依頼之登記簿閲覧の件	(昭和4年)8月30日	消印より年代推定
355	渡辺政彦・泰子	授賞祝賀	昭和33年12月3日付	消印：昭和33年12月4日
356	渡貫勇	先生の御見舞を御断り申上げ、大悔平二御海容相願候	(昭和28年6月)21日	消印により年代推定
357	渡邊彦作	紫綬褒章祝賀	昭和33年11月3日	紫綬褒章関係 消印33/11/6
358	不明	ゴガクセキノハウシヨウヲシクスマシモ	昭和33年11月1日	電報、ゴガクセキノハウシヨウヲシクスマシモ
宮内省・庁				
359	木下道雄	[東宮事務官木下道雄]	大正14年3月27日	皇太子同妃御進講恒例御休日ノ事通牒ほか
360	木下道雄	[東宮事務官木下道雄]	大正14年3月27日	皇太子同妃御進講恒例御休日ノ事通牒ほか

361	珍田捨巳	[東宮大夫珍田捨巳]	大正15年6月16日	来十八日賜物ノ件
362	珍田捨巳	[東宮大夫珍田捨巳]	大正15年6月21日	本年上半期手当ノ件通知ほか
363	東宮職	皇后御誕辰二付下賜ノ事通知	大正15年6月29日	
364	木下道雄	[東宮事務官木下道雄]	大正15年9月20日	皇太子妃御学課履修ノ事通知ほか
365	木下道雄	[東宮事務官木下道雄] 皇太子妃御休課ノ件通知	大正15年10月14日	
366	東宮職	東宮職使差出要領書	大正15年11月4日	加藤皇后宮職囑託宛
367	珍田捨巳	[東宮大夫珍田捨巳]	大正15年12月11日	来十三日賜物ノ件通知書状ほか
368	珍田捨巳	[東宮大夫珍田捨巳]	大正15年12月25日	本年下半期手当ノ件通知ほか
369	皇后宮職庶務課	河井大夫面談ノ件通知	昭和2年4月22日	
370	珍田捨巳・河井弥八	[侍従長珍田捨巳・皇后宮大夫河井弥八]	昭和2年6月14日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、来十六日賜物ノ件
371	赤坂離宮庶務課	新年宴会酒肴料送付ノ事通知	昭和3年1月7日	
372	河井弥八	[皇后宮大夫河井弥八]	昭和3年2月4日	皇后宮職囑託加藤虎之亮宛、皇后御進講予定
373	皇后宮職	通牒、皇后御進講予定の件ほか三通	昭和3年4月6日	
374	珍田捨巳・河井弥八	[侍従長珍田捨巳・皇后宮大夫河井弥八]	昭和3年6月14日	囑託加藤虎之亮宛、来十六日賜物ノ件、ほか三通
375	山辺知春	[秩父宮附別当山辺知春]	昭和3年9月28日	武蔵高等学校教授加藤虎之亮宛、雍仁親王御婚礼案内状
376	宮内省	宮中餐宴招待状（来十一日宮中餐宴の件〔付参入券〕）	昭和3年12月1日	
377	珍田捨巳・河井弥八	[侍従長珍田捨巳・皇后宮大夫河井弥八]	昭和3年12月18日	皇后宮職囑託加藤虎之亮宛、皇后御進講予定来二十日賜物の件
378	木下道雄	[宮内事務官木下道雄]	昭和3年12月27日	囑託加藤虎之亮宛、来十六日賜物ノ件、ほか三通、本年下半期手当ノ件
379	珍田捨巳	[侍従長珍田捨巳]	昭和3年12月29日	大礼二付下賜ノ事
380	皇后宮職	紀元節宴会酒饌料返上ノ事通知	昭和4年3月4日	囑託加藤虎之亮宛
381	皇后宮職	天長節宴会二付酒饌料通知	昭和4年4月29日	
382	鈴木貫太郎・河井弥八	[侍従長鈴木貫太郎・皇后宮大夫河井弥八]	昭和4年6月17日	皇后宮職囑託加藤虎之亮宛、来十九日賜物ノ件
383	皇后宮職	本年上半期手当ノ件通知（付包紙）	昭和4年6月24日	
384	宮内省	新宮御命名御案内御召状その他（来十月元日御内宴の件〔付献立・曲目・席札・座席表〕）	昭和4年10月3日	
385	侍従長	来六日御命名ノ儀二付拝賀ノ事通知	昭和4年10月3日	
386	皇后宮職	内親王御命君二付酒肴料送付ノ事通知	昭和4年10月6日	
387	侍従職	明治節宴会酒饌料送付ノ事通知	昭和4年11月8日	囑託加藤虎之亮宛

388	宮内省	宮内省書翰（未開封）	（昭和4年12月10日）	消印：昭和4年12月10日、未開封招待状
389	鈴木貫太郎・河井弥八	〔侍従長鈴木貫太郎・皇后宮大夫河井弥八〕	昭和4年12月14日	皇后宮職囑託加藤虎之亮宛、来十八日賜物ノ件
390	河井弥八	〔皇后宮大夫河井弥八〕	昭和4年12月24日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、来十六日賜物ノ件 本年下半期手当ノ件
391	皇后宮職	紀元節二付下賜酒饌料通知	昭和5年2月11日	
392	河井弥八	〔皇后宮大夫河井弥八〕	昭和5年3月4日	囑託加藤虎之亮宛、皇后御誕辰二付拝賀ノ事通知
393	皇后宮職	皇后御誕辰酒饌料ノ件通知	昭和5年3月5日	囑託加藤虎之助宛
394	本多猶一郎	〔皇后宮職庶務課長本多猶一郎〕	昭和5年4月16日	皇后御進講予定
395	鈴木貫太郎	〔侍従長鈴木貫太郎〕	昭和5年4月21日	皇后宮職囑託加藤虎之亮宛、来二十九日天長節二付相撲陪覧ノ件
396	皇后宮職	天長節二付酒饌料受領の件通知	昭和5年4月28日	
397	河井弥八	〔皇后宮大夫河井弥八〕	昭和5年5月16日	皇后宮職囑託加藤虎之亮宛、母堂逝去に付皇后より下賜ノ件
398	皇后宮職	皇太宮大宮御所御移転二付下賜ノ件通知	昭和5年5月23日	
399	皇后宮職	皇后御進講予定通知	昭和5年6月5日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
400	皇后宮職	皇后宮職通知（御母堂御葬儀御日取）	（昭和5年）6月6日	虎之亮母命日による
401	鈴木貫太郎・河井弥八	〔侍従長鈴木貫太郎・皇后宮大夫河井弥八〕	昭和5年6月	来十七日賜物ノ件
402	皇后宮職庶務課長	皇后御進講予定通知	昭和5年11月29日	
403	鈴木貫太郎・河井弥八	〔侍従長鈴木貫太郎・皇后宮大夫河井弥八〕	昭和5年12月13日	皇后宮職囑託加藤虎之亮宛、来十六日賜物ノ件
404	河井弥八	〔皇后宮大夫河井弥八〕	昭和5年12月26日	本年下半期手当ノ件
405	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和6年2月23日	
406	皇后宮大夫	皇后御誕辰二付拝謁ノ事通知	昭和6年3月3日	
407	皇后宮大夫	皇后今七日内親王御誕生ノ事通知	昭和6年3月7日	
408	鈴木貫太郎	〔侍従長鈴木貫太郎〕	昭和6年3月9日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、新宮御誕生御内宴（12/5）お召状
409	秘書課長	内親王来十三日御命名ノ儀ノ事通知	昭和6年3月9日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
410	侍従長	来十三日御命名ノ儀二付拝賀ノ事通知	昭和6年3月10日	
411	式部職	来二十一日春季皇霊祭同神殿祭ノ件通牒	昭和6年3月14日	
412	式部職	来四月三日神武天皇祭ノ事通牒	昭和6年3月27日	
413	皇后宮職・侍従長	来二十二日新宿御苑桜花拝観ノ件通知	昭和6年4月14日	
414	式部職	式部職通牒ほか二通（来二十九日天長節二付賜饌ノ件ほか通知二通）	昭和6年4月22日	

415	河井弥八	[皇后宮大夫河井弥八]	昭和6年5月9日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、書肆下賜の件
416	皇后宮職	皇后御進講予定	昭和6年6月7日	皇后宮職囑託加藤虎之亮宛
417	鈴木貫太郎・河井弥八	[侍従長鈴木貫太郎・皇后宮大夫河井弥八]	昭和6年6月12日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、来十六日賜物ノ件
418	式部職	皇太后御誕辰二付拝賀ノ件通牒	昭和6年6月16日	
419	河井弥八	[皇后宮大夫河井弥八]	昭和6年6月26日	加藤皇后宮職御用掛宛、本年上半期手当ノ件
420	皇后宮職	注文書籍到着ノ事通知	昭和6年8月18日	
421	河井弥八	[皇后宮大夫河井弥八]	(昭和6年)8月22日	昭和6年8月22日付消印、書籍献上に対する礼状
422	岡本事務官	[岡本皇后宮事務官] 書籍代金支払ノ件	昭和6年9月1日	
423	本多猶一郎	[皇后宮職庶務課長本多猶一郎]	昭和6年9月10日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、非常線通行証用写真撮影通知
424	式部職	来二十四日秋季皇霊祭同神殿祭ノ事通牒	昭和6年9月17日	
425	式部職	来十七日神嘗祭ノ件通牒	昭和6年10月10日	
426	皇后宮職	皇后御進講御休課の件通知	昭和6年10月22日	宮内省御用掛加藤虎之亮宛
427	皇后宮職	通行証改正の事通知	昭和6年10月29日	
428	皇后宮職	皇后御進講御休暇の件通牒	昭和6年11月1日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
429	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和6年11月4日	
430	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和6年11月8日	
431	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和6年11月18日	
432	鈴木貫太郎・河井弥八	[侍従長鈴木貫太郎・皇后宮大夫河井弥八]	昭和6年12月11日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、非常線通行証用写真撮影通知来十五日賜物ノ件
433	皇后宮職	皇后御進講予定通知	昭和6年12月17日	
434	河井弥八	[皇后宮大夫河井弥八]	昭和6年12月22日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、本年下半期手当ノ件
435	皇后宮職	来昭和七年一月五日新年宴会二付酒饌下賜ノ事通牒、ほか一通	昭和6年12月23日	
436	河井弥八	皇后御進講ノ件	(昭和6年)12月24日	消印より年代推定
437	式部職	来二十一日春季皇霊祭同神殿祭二参集ノ件通牒	昭和7年3月14日	
438	皇后宮職	側近奉仕者種痘ノ件通知	昭和7年4月7日	
439	皇后宮職	来四月二十三日新宿御苑桜花拝観ノ事通知	昭和7年4月10日	
440	皇后宮職	皇后御進講予定通知	昭和7年4月11日	加藤御用掛宛
441	総務課長	来二十二日新宿御苑桜花拝観ノ件通牒	昭和7年4月13日	
442	鈴木貫太郎・河井弥八	[侍従長鈴木貫太郎・皇后宮大夫河井弥八]	昭和7年6月11日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、来十六日賜物ノ件
443	河井弥八	[皇后宮大夫河井弥八]	昭和7年6月16日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、本年上半期手当ノ件

444	皇后宮職	来二十五日皇太后御誕辰拝賀ノ事通知	昭和7年6月21日	
445	皇后宮職	本年上半期手当ノ件通知	昭和7年7月21日	
446	皇后宮職	皇后御進講予定通知	昭和7年9月2日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
447	皇后宮職	来十一月十一日新宿御苑菊花拝観ノ件通知	昭和7年10月25日	加藤皇后宮職御用掛宛
448	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和7年10月26日	加藤皇后宮職御用掛宛
449	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和7年11月2日	
450	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和7年11月4日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
451	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和7年11月9日	加藤皇后宮職御用掛宛
452	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和7年11月13日	加藤皇后宮職御用掛宛
453	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和7年11月17日	加藤皇后宮職御用掛宛
454	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和7年11月19日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
455	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和7年11月23日	加藤皇后宮職御用掛宛
456	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和7年11月25日	加藤御用掛宛
457	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件・付テキスト借用の件（10月3日）通知ほか	昭和7年12月1日	加藤皇后宮職御用掛宛
458	宮内省	北白川宮第一王女（美年子）御降嫁午餐案内状（来十二月十六日北白川宮邸午餐の件〔付献立・席札〕）	昭和7年12月8日	
459	（宮内省）	明治天皇御大葬函寫写真葉書（6点）	（昭和7年12月8日）	葉書、消印より年代推定、消印：昭和7年12月8日（白金、3銭）、加藤虎之亮は昭和5年に北白川美年子女王に進講
460	鈴木貫太郎・広幡忠隆	〔侍従長鈴木貫太郎・皇后宮大夫広幡忠隆〕	昭和7年12月10日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、来十六日賜物ノ件
461	皇后宮職	書籍御渡ノ件通知	昭和7年12月13日	加藤皇后宮職御用掛宛
462	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和7年12月14日	
463	皇后宮職	歳末御祝詞申上ノ事通知	昭和7年12月20日	加藤皇后宮職御用掛宛
464	広幡忠隆	〔皇后宮大夫広幡忠隆〕	昭和7年12月20日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、本年下半期手当ノ件
465	侍従職庶務課	宮内職員手帖代金送付ノ件	昭和8年1月12日	
466	立花種忠・理子	〔子爵立花種忠・理子〕	昭和8年1月13日	北白川美年子女王と立花種勝婚儀案内状
467	皇后宮職	皇后御進講予定通知	昭和8年1月18日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
468	皇后宮職	皇后御進講予定通知	昭和8年1月21日	加藤皇后宮職御用掛宛
469	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和8年1月25日	加藤皇后宮職御用掛宛
470	侍従職事務官	大金侍従殿父逝去ノ通知	昭和8年1月31日	加藤御用掛宛
471	皇后宮大夫	皇后御誕辰拝賀ノ事通知	昭和8年2月27日	加藤皇后宮職御用掛宛

472	式部職	来二十一日春季皇霊祭同神殿寮ノ事通牒	昭和8年3月14日	加藤皇后宮職御用掛宛
473	皇后宮職	皇后御進講休講ノ件通知	昭和8年3月15日	
474	皇后宮職	種痘実施二関スル件通知	昭和8年4月8日	
475	侍医寮	種痘実施ノ事通牒	昭和8年4月10日	
476	皇后宮職	皇后宮職御進講用書籍受領書	昭和8年4月20日	
477	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和8年4月28日	
478	鈴木貴太郎・広幡忠隆	[侍従長鈴木貴太郎・皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和8年6月9日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、賜物ノ件
479	広幡忠隆	[皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和8年6月16日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、手当送付の件
480	皇后宮職	皇太后御誕辰拝賀通知	昭和8年6月21日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
481	皇后宮職	皇后御進講御休暇通知	昭和8年6月23日	加藤皇后宮職御用掛宛
482	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和8年6月26日	
483	広幡忠隆	両陛下御避暑中の御様子報知	(昭和8年8月)4日付	消印：昭和8年8月4日、葉山御用邸より
484	皇后宮職庶務課長	皇后御進講予定通知	昭和8年9月29日	加藤皇后宮職御用掛宛
485	皇后宮職庶務掛	昭和九年度宮内職員手帳調製ノ事通知ほか	昭和8年10月14日	加藤御用掛宛
486	官房総務課	当課保管ノ御物等曝涼ノ件通知	昭和8年10月16日	加藤御用掛宛
487	式部職	明治節賜饌ノ件通牒	昭和8年10月20日	加藤皇后宮職御用掛宛
488	皇后宮職	新宿御苑菊花拝観ノ件通知	昭和8年10月26日	加藤御用掛宛
489	皇后宮職	皇后定例御進講御休暇通知	昭和8年11月4日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
490	式部職	来十日観菊会お取止めノ事通知	昭和8年11月6日	加藤御用掛宛
491	皇后宮職庶務課	新宿御苑菊花拝観通知	昭和8年11月9日	加藤御用掛
492	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和8年11月21日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
493	皇后宮職	朝香宮妃御喪儀ノ件通知	昭和8年12月11日	
494	皇后宮職	御賜金の件（付包紙）	昭和8年12月15日	加藤皇后宮職御用掛宛
495	広幡忠隆	[皇后宮職広幡忠隆]	昭和8年12月20日	加藤皇后宮職御用掛宛、本年下半期手当の件
496	皇后宮職	皇后御分娩親王御誕生ノ件通知	昭和8年12月23日	加藤皇后宮職御用掛宛
497	鈴木貴太郎	[侍従長鈴木貴太郎]	昭和8年12月26日	加藤皇后宮職御用掛宛、来二十九日御命名ノ儀二付拝謁ノ件
498	皇后宮職	宮内職員手帳代金ノ件通知	昭和8年12月27日	加藤御用掛宛
499	皇后宮職	皇太子御降誕奉祝ノ為来二十九御命名儀ノ件通知	昭和8年12月27日	加藤宮内省御用掛宛
500	皇后宮大夫	皇太子御誕生の件	昭和8年12月28日	加藤皇后宮職御用掛宛
501	秘書課長	各宮家寒中御機嫌奉伺総代決定ノ事通知	昭和9年1月10日	加藤皇后宮職御用掛宛

502	鈴木貫太郎	[侍従長鈴木貫太郎]	昭和9年2月15日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、皇太子ご誕生御内宴（2/23）お召状
503	皇后宮職	明仁親王御誕辰二付拝謁ノ件通知	昭和9年2月15日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
504	秘書課長・総務課長	明仁親王御誕辰御祝儀ノ件通知	昭和9年2月22日	
505	秘書課長	鳩彦王妃故允子内親王御喪儀二付下賜ノ件通知	昭和9年2月28日	
506	皇后宮職	皇后御誕辰拝謁ノ件通知	昭和9年3月2日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
507	皇后宮職庶務課	職員木杯下賜対象者ノ件通知	昭和9年3月14日	
508	式部職	来四月三日神武天皇祭ノ事通知	昭和9年3月27日	加藤皇后宮職御用掛宛
509	総務課長	来二十三日新宿御苑桜花拝観ノ案内通牒	昭和9年4月9日	加藤皇后宮職御用掛宛
510	皇后宮職庶務係	武道大会参観案内通知 付武道大会次第	昭和9年4月12日	加藤皇后宮職御用掛宛
511	秘書課長・総務課長	明仁親王御誕辰御祝儀ノ件通知	昭和9年4月12日	
512	皇后宮職庶務係	黒田侍従母堂逝去ノ通知	昭和9年4月24日	加藤皇后宮職御用掛宛
513	大益次郎	[皇后宮職大益次郎] 皇后御進講御休暇ノ件通知	昭和9年5月21日	加藤皇后宮職御用掛宛
514	大益次郎	[皇后宮職庶務課長大益次郎]	昭和9年5月25日	加藤皇后宮職御用掛宛、皇后御進講御休暇ノ件通知
515	鈴木貫太郎・広幡忠隆	[侍従長鈴木貫太郎・皇后宮大夫広幡忠隆] 来十六日賜物ノ件	昭和9年6月12日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
516	皇后宮大夫	本年上半期手当ノ件	昭和9年6月16日	加藤皇后宮職御用掛宛
517	皇后宮職	来二十五日皇太后御誕辰拝賀の件通知	昭和9年6月22日	加藤皇后宮職御用掛宛
518	皇后宮職	皇后御進講休課ノ件通知	昭和9年6月23日	
519	皇后宮職	第三回宮内省六書展覧会実施要領通知	昭和9年6月25日	加藤皇后宮職御用掛宛
520	大益次郎	[皇后宮職大益次郎]	昭和9年7月9日	加藤皇后宮職御用掛宛、皇后御進講御休暇ノ件
521	皇后宮職	皇后御進講予定通知	昭和9年9月11日	加藤皇后宮職御用掛宛
522	皇后宮職	永積侍従実父薨去ノ件通知	昭和9年9月13日	加藤皇后宮職御用掛宛
523	皇后宮職	宮内職員手帳調製の件通知	昭和9年10月8日	加藤皇后宮職御用掛宛
524	式部職	来十七日神嘗祭ノ件通牒	昭和9年10月10日	加藤皇后宮職御用掛宛
525	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和9年10月11日	加藤皇后宮職御用掛宛
526	皇后宮職	永積侍従実父薨去ノ件通知	昭和9年10月18日	
527	皇后宮職	来十一月十一日新宿御苑菊花拝観ノ件通牒	昭和9年10月30日	加藤皇后宮職御用掛宛
528	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和9年10月31日	加藤皇后宮職御用掛宛
529	皇后宮職	鈴木侍従長母堂逝去ノ件通知	昭和9年11月14日	加藤皇后宮職御用掛宛

530	皇后宮職	北御車寄附近ノ通行ニ就テ通知	昭和9年12月1日	加藤皇后宮職御用掛宛
531	侍従職	皇太子御誕辰献上の件	昭和9年12月6日	加藤皇宮職御用掛宛
532	百武三郎・広幡忠隆	[侍従長百武三郎・皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和9年12月12日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、来十七日賜物ノ件
533	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和9年12月15日	加藤皇后宮職御用掛宛
534	広幡忠隆	[皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和9年12月20日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、本年下半期手当ノ件
535	官房秘書課	歳末御祝詞総代決定ノ件通知	昭和9年12月26日	加藤皇后宮職御用掛宛
536	宮内省	宮内省告示第 31 号・第 32 号、昭和十年新年拝賀ノ儀通知ほか	昭和9年12月30日	加藤皇后宮職御用掛
537	皇后宮職庶務課長	皇后御進講予定通知	昭和10年1月23日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
538	皇后宮大夫	皇后御誕辰拝謁御召状	昭和10年2月28日	加藤皇后宮職御用掛殿宛
539	皇后宮職	周礼古本訂註ノ事通知	昭和10年3月2日	加藤御用掛宛
540	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和10年3月4日	
541	皇后宮大夫	皇后御誕辰拝賀御取止の件	昭和10年3月4日	加藤皇后宮職御用掛宛
542	皇后宮職	皇后御進講御休暇通知	昭和10年3月28日	加藤皇后宮職御用掛宛
543	皇后宮職	新宿御苑桜花拝観ノ件通知	昭和10年4月11日	加藤皇后宮職御用掛宛
544	宮内省	博恭王御催茶会案内状ほか案内状 2 通	昭和10年4月20日	来四月三十日伏見宮邸ニ於ケル茶会ほか二通
545	皇后宮職庶務課長	皇太子御降誕・御命名ノ儀奉祝献上品ノ件通知	昭和10年4月25日	
546	(宮内省)	北白川永久王来五月二日御婚約午餐案内状 (附献立表・席表)	昭和10年4月26日付	
547	皇后宮職	皇后御進講御休暇通知	昭和10年4月30日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
548	皇后宮職	皇后御下賜品目録	昭和10年5月3日	加藤皇后宮職御用掛宛
549	鈴木貫太郎・広幡忠隆	[侍従長鈴木貫太郎・皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和10年6月10日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、お召し状・来十四日賜物ノ件
550	広幡忠隆	[皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和10年6月20日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、本年上半期手当ノ件来十二日賜物ノ件来十二日賜物ノ事手当送付の件
551	皇后宮職	皇后定例御進講夏季休暇通知	昭和10年6月21日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
552	皇后宮職	皇太后御誕辰拝賀参集通知	昭和10年6月21日	加藤皇后宮職御用掛
553	大臣官房秘書課	来九月第四回六書展覽会開催ノ事通知	昭和10年7月8日	加藤皇后宮職御用掛宛
554	官房総務課	総務課保管御物曝涼に付拝観通知	昭和10年8月22日	
555	皇后宮職	本省庁舎落成祭典ノ通知	昭和10年10月1日	
556	皇后宮職	皇后定例御進講御休暇通知	昭和10年10月8日	
557	皇后宮職庶務課	昭和 11 年度手帳調整ノ件通知	昭和10年10月8日	加藤皇后宮職御用掛宛

558	式部職	来十七日神嘗祭二付参集ノ件通牒	昭和10年10月10日	加藤皇后宮職御用掛宛
559	皇后宮職	来十月三十日式部職楽部演奏会通知	昭和10年10月14日	加藤皇后宮職御用掛宛
560	皇后宮職	書肆貸付ノ件	昭和10年11月18日	加藤皇后宮職御用掛宛
561	皇后宮職庶務課長	来十二月崇仁親王御成年二付献上ノ事通知	昭和10年11月21日	
562	湯浅倉平	[宮内大臣湯浅倉平]	昭和10年11月25日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、崇仁親王成年式午餐・拝謁（12/4）お召状
563	侍従職	皇后御分媛親王ご誕生二付参賀の件通知	昭和10年11月28日	加藤皇后宮職御用掛宛
564	皇后宮職庶務課長	来十二月四日親王御降誕奉祝献上の事通知	昭和10年11月30日	
565	大臣官房秘書課・総務課長	来十二月四日親王御命名ノ儀ニツキ献上の事通知	昭和10年11月30日	
566	鈴木貫太郎	[侍従長鈴木貫太郎]	昭和10年12月1日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、新宮御命名御内宴（3/14）お召状
567	皇后宮大夫	来四日御命名ノ儀拝謁ノ事通知	昭和10年12月2日	
568	官房秘書課長・同総務課長	[官房秘書課長・同総務課長]	昭和10年12月13日	加藤皇后宮職御用掛宛、御万邦料下賜通知
569	侍従職庶務課	崇仁親王成年式等献上品の件通知	昭和10年12月14日	
570	皇后宮職	崇仁親王御成年式御万那料下賜の件ほか一通通知	昭和10年12月14日	加藤皇后宮職御用掛宛
571	広幡忠隆	[皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和10年12月19日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、手当送付の件
572	大金益次郎	[皇后宮職庶務課長大金益次郎]	昭和11年1月15日	加藤皇后宮職御用掛宛、皇后御進講予定通知
573	皇后宮職	英国皇帝崩御に付宮中喪通知	昭和11年1月21日	加藤皇后宮職御用掛宛
574	大金益次郎	[皇后宮職庶務課長大金益次郎]	昭和11年1月28日	皇后御進講御休暇通知
575	皇后宮職	皇后御進講予定の件通知	昭和11年2月17日	加藤皇后宮職御用掛宛
576	皇后宮職	皇后御誕辰拝賀ノ儀延期通知	昭和11年3月3日	
577	皇宮警察部	宮城諸門通行の件通知	昭和11年3月10日	
578	皇后宮職	皇后御進講御休暇通知	昭和11年3月27日	加藤皇后宮職御用掛宛
579	皇后宮職庶務課	新宿御苑拝謁通知	昭和11年4月9日	加藤皇后宮職御用掛
580	鈴木貫太郎・広幡忠隆	[侍従長鈴木貫太郎・皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和11年6月10日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、来十三日賜物ノ件
581	皇后宮職	皇后定例御進講御休課ノ件通知	昭和11年6月17日	加藤皇后宮職御用掛宛
582	広幡忠隆	[皇后宮大夫広幡忠隆] 本年上半期手当ノ件	昭和11年6月18日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
583	大金益次郎	[皇后宮職庶務課長大金益次郎]	昭和11年9月16日	加藤皇后宮職御用掛宛、皇后御進講予定ノ件通知

584	皇后宮職	来十月二十一日式部職楽部音楽演奏会開催通知	昭和11年9月29日	加藤皇后宮職御用掛宛
585	皇后宮職	昭和十二年度宮内職員手帳調整ノ件通知	昭和11年10月7日	加藤皇后宮職御用掛宛
586	皇后宮職	総務課保管御物曝涼に付拝観通知	昭和11年10月15日	加藤皇后宮職御用掛宛
587	皇后宮職庶務課	来十一月新宿御苑菊花拝観ノ件通知	昭和11年10月23日	加藤皇后宮職御用掛宛
588	皇后宮職庶務掛	今般落成ノ帝国議会議事堂来二十一日拝観ノ件通知	昭和11年11月14日	加藤皇后宮職御用掛宛
589	宮内省	主馬寮打毬会案内状（十一月二十八日皆済）付番組	昭和11年11月20日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
590	百武三郎・広幡忠隆	[侍従長百武三郎・皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和11年12月9日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、本年上半期手当ノ件来十二日賜物ノ件来十二日賜物ノ事
591	皇后宮職	第二期新庁舎竣成ノ件通知	昭和11年12月10日	加藤皇后宮職御用掛宛
592	侍従職	正仁親王御降誕御命名式ニ付献上ノ事通知	昭和11年12月14日	
593	皇后宮職	内閣文庫ヨリ周礼註疏借用ノ事通知	昭和11年12月16日	加藤皇后宮職御用掛宛
594	広幡忠隆	[皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和11年12月17日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、本年下半期手当ノ件
595	侍従職庶務掛	宮内職員手帳送付ノ件通知	昭和11年12月26日	加藤皇后宮職御用掛宛
596	皇后宮職	皇后御進講予定通知	昭和12年1月21日	加藤皇后宮職御用掛宛
597	皇后宮大夫	来六日皇后御誕辰ニ付拝謁ノ事通知	昭和12年3月1日	
598	式部職	来二十一日春季皇霊祭同神殿祭ノ件通牒	昭和12年3月15日	
599	皇后宮職	皇后御進講御休講ノ件通知	昭和12年3月23日	加藤皇后宮職御用掛宛
600	皇后宮職	来四月雅楽演奏会開催ノ事通知	昭和12年3月26日	加藤皇后宮職御用掛宛
601	皇后宮職庶務課	来十九日新宿御苑桜花拝観ノ件通知	昭和12年4月5日	
602	宮内省	来四月三十日打毬会開催案内状	昭和12年4月25日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
603	犬塚力	[北白川宮附宮内事務官犬塚力]	昭和12年5月3日	来八日王子御命名御祝ノ件
604	侍従職	顕忠府拝観ノ事通知	昭和12年5月8日	加藤皇后宮職御用掛宛
605	(宮内省)	北白川宮永久王第一王子道久王第七夜賜餐献立	昭和12年5月8日	献立表
606	百武三郎・広幡忠隆	[侍従長百武三郎・皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和12年6月8日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、来十二日賜物ノ件
607	広幡忠隆	[皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和12年6月17日	加藤皇后宮職御用掛宛、本年上半期手当ノ件
608	皇后宮職	御万那下賜ノ件	昭和12年6月25日	加藤皇后宮職御用掛宛
609	皇后宮職	皇后御進講夏季御休課ノ件通知	昭和12年6月26日	加藤皇后宮職御用掛宛
610	皇后宮職	定例御進講休課ノ件通知	昭和12年9月2日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛

611	式部職	来二十三日秋季皇霊祭同神殿祭ノ件通牒	昭和12年9月15日	
612	大臣官房秘書課	来九月三〇日宮内職員講習修了式挙行ノ件通知	昭和12年9月27日	
613	(宮内省)	官報号外(案)(多嘉王殿下薨去ノ件)	昭和12年10月1日	
614	皇后宮職	昭和十三年度宮内職員手帳調整ノ件通知	昭和12年10月11日	加藤皇后宮職御用掛宛
615	百武三郎・広幡忠隆	[侍従長百武三郎・皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和12年12月7日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、来十一日賜物ノ件
616	広幡忠隆	[皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和12年12月21日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、本年下半期手当ノ件
617	百武三郎・広幡忠隆	[侍従長百武三郎・皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和13年6月7日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、来十一日賜物ノ事
618	広幡忠隆	[皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和13年6月17日	本年上半期手当ノ件
619	式部職	来二十五日皇太后御誕辰ニ付拝賀ノ事通牒	昭和13年6月20日	
620	式部職	宮中諸儀式祭典ニ於ケル諸員ノ服装ノ事通牒	昭和13年7月2日	
621	皇后宮職	宮内職員手帳調製の件通知	昭和13年10月31日	加藤皇后宮職御用掛宛
622	百武三郎・広幡忠隆	[侍従長百武三郎・皇后宮大夫広幡忠隆] 賜物あるにつき参内の件	昭和13年12月8日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
623	広幡忠隆	[皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和13年12月30日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、本年下半期手当の件
624	式部職	来六日皇后御誕辰ニ付参賀の件通知	昭和14年3月1日	加藤皇后宮職御用掛宛
625	侍従職	内親王御降誕奉祝献上ノ件通知	昭和14年3月3日	加藤虎之亮宛
626	皇后宮職	来八日内親王御命名ノ通知	昭和14年3月3日	加藤皇后宮職御用掛宛
627	式部職	春季皇霊祭同神殿祭通知	昭和14年3月14日	加藤皇后宮職御用掛宛
628	式部職	神武天皇祭ノ件通牒	昭和14年3月27日	加藤皇后宮職御用掛宛
629	式部職	天長節通知	昭和14年4月20日	加藤皇后宮職御用掛宛
630	皇后宮職	貴子内親王御誕生奉祝通知	昭和14年6月1日	
631	百武三郎・広幡忠隆	[侍従長百武三郎・皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和14年6月5日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、来十日賜物ノ件
632	式部職	通牒、皇太后御誕辰参賀通知	昭和14年6月20日	
633	式部職	秋季皇霊祭同神殿祭ノ件通牒	昭和14年9月18日	加藤皇后宮職御用掛宛
634	皇后宮職	皇后御進講予定通知	昭和14年9月22日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
635	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和14年10月3日	加藤皇后宮職御用掛宛
636	皇后宮職	皇后御進講御休課ノ件通知	昭和14年10月10日	加藤皇后宮職御用掛宛
637	式部職	来十一月三日明治節ノ件通牒	昭和14年10月21日	加藤皇后宮職御用掛宛

638	百武三郎・広幡忠隆	[侍従長百武三郎・皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和14年12月9日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、本年上半期手当ノ件来十二日賜物ノ件
639	式部職	通牒、大正天皇祭	昭和14年12月18日	
640	広幡忠隆	[皇后宮職広幡忠隆]	昭和14年12月20日	加藤皇后宮職御用掛宛、本年上半期手当ノ件皇后宮職御出願ノ事本年下半期手当の件
641	百武三郎・広幡忠隆	[侍従長百武三郎・皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和15年6月3日	賜物有之来八日参内可有之二付
642	広幡忠隆	[皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和15年6月21日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、賜金送付ノ事
643	式部職	来二十三日秋季皇霊祭同神殿祭ノ件通牒	昭和15年9月17日	
644	小倉庫次	[皇后宮職庶務課長小倉庫次] 皇后御進講予定通知	昭和15年10月1日	
645	式部職	来十七日神嘗祭ノ件通牒	昭和15年10月10日	
646	皇后宮職	昭和十六年宮内職員手帳調整ノ件通知	昭和15年10月16日	加藤皇后宮職御用掛宛
647	式部職	楽部演奏会ノ案内通知	昭和15年10月22日	
648	近衛文麿	[紀元二千六百年奉祝会長公爵近衛文麿]	昭和15年11月15日付	紀元二千六百年奉祝楽曲発表演奏会案内
649	皇后宮職	北白川宮御葬儀尽力による御礼の事	昭和15年11月26日	加藤御用掛宛
650	百武三郎・広幡忠隆	[侍従長百武三郎・皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和15年12月7日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、来十一日賜物ノ事
651	式部職	来二十五日大正天皇祭ノ事通知	昭和15年12月18日	
652	式部職	来十一日紀元節ノ事通知	昭和16年2月1日	
653	皇后宮職	御万邦下賜ノ事通知	昭和16年3月6日	加藤御用掛宛
654	武田宮内事務官	[北白川宮附武田宮内事務官] 北白川多恵子女王来四月十四日御婚嫁ノ事	昭和16年4月	
655	百武三郎・広幡忠隆	[侍従長百武三郎・皇后宮大夫広幡忠隆] 来十二日賜物ノ件	昭和16年6月5日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛
656	広幡忠隆	[皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和16年12月18日	御下賜金の件（付包紙）
657	百武三郎・広幡忠隆	[侍従長百武三郎・皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和17年6月5日	来十一日賜物ノ件
658	百武三郎・広幡忠隆	[侍従長百武三郎・皇后宮大夫広幡忠隆]	昭和17年12月7日	来十日賜物ノ件
659	宮内省	(賜物付札類)	昭和18年7月9日	皇后より御下賜の野菜等・付紙あり
660	狩野直喜	大正天皇御製集謹解に参与の件、御受致したる次第に候	(昭和19年)5月10日付	
661	狩野直喜	御製校理の件につき	(昭和19年)10月13日付	
662	白根松介	宮城大宮御所の炎上を見るに至り辞表提出、本月六日退官の恩命に接し申候	昭和20年6月23日付	
663	松平恒雄	今回退官に際し懇篤なる御書状に接し深謝仕候	(昭和20年)6月27日付	

664	女官長	賜物伝達ノ件	昭和20年8月7日	
665	大臣官房秘書課	職員講習の事通知	昭和21年12月10日	
666	女官長	賜物伝達ノ件・病氣御尋	昭和24年10月8日	
667	田島道治	皇太后追号案について	昭和26年5月25日付	消印：昭和26年5月25日
668	(宮内庁)	昭和二十六年七月十二日賜餐御召状 御下賜品包 席次表	昭和26年7月7日付	4通、消印：昭和26年7月8日
669	田島道治	皇太后追号記録に対する所見呈示	昭和26年12月19日付	消印：昭和26年12月19日
670	田島道治	出典教示に対する礼状	昭和27年1月18日付	消印：昭和27年1月18日
671	田島道治	[宮内庁長官田島道治]	(昭和27年)3月19日	消印より年代推定、文書表現等への問い合わせ
672	田島道治	撰文案の選考につき内報	昭和27年3月25日付	消印：昭和27年3月25日
673	田島道治	「時艱」「国民必死の努力」の字句に関する質問	(昭和27年)4月1日	宮内庁野紙にペン書
674	徳川義寛	質問回答	(昭和27年)5月31日	消印より年代推定
675	田島道治	執筆依頼文送付通知	昭和27年10月12日付	消印：昭和27年12月13日
676	田島道治	秩父宮遺品箱書添削依頼	昭和28年8月10日付	消印：昭和28年8月11日
677	田島道治	秩父宮遺品箱書再添削依頼	昭和28年8月23日付	消印：昭和28年8月24日
678	田島道治	昨日枉賀之節申上候個所推敲致候へども斧正願上候。(一)或公主之于帰参於華燭の方よろしく候哉也	(昭和28年)8月30日	
679	宮内庁長官官房秘書課長	立太子の礼宣制の儀における宣制、皇太子成年式加冠の儀における皇太子殿下の御言葉	(昭和29年2月16日)	消印：昭和29年2月16日 宮内省九号野紙各1枚、書類(詔勅・御言葉3)封筒(昭和十七年五月 詔勅御沙汰書艸案)に一括入り、書類(詔勅・御言葉23、祝詞24)参照
680	宮内庁	賜物伝達状(天皇・皇后より鮎十尾下賜)	昭和29年7月6日	
681	宮内庁	(賜物付札類)	昭和29年10月17日	皇后より賜物
682	田島道治	喜寿祝賀ならびに撰文依頼	昭和30年11月5日付	消印：昭和30年11月5日
683	田島道治	墓誌の件につき教示依頼	昭和30年	葉書、消印：昭和30年11月13日
684	三谷隆信	[侍従長三谷隆信]	昭和33年4月16日	天皇誕生日御祝詞言上の件
685	宮内庁	園遊会案内状(来十一月五日皇居園遊会案内)	昭和33年10月23日	
686	宮内庁	「古式打球と舞楽」(園遊会説明書)	昭和33年11月5日	
687	西原英次	[宮内庁書陵部長西原英次]	昭和36年5月	封筒は「撰者故加藤虎之亮殿」宛、貞明皇后御集寄贈の件
688	岡本事務官	[皇后宮職岡本事務官]	年不明3月31日	加藤皇后宮職御用掛宛、本年上半期手当ノ件皇后宮職御出願ノ事
689	皇后宮職	書籍送付の件	年不明8月22日	加藤囑託宛
690	皇后宮職庶務課	書籍伝達ノ事通知	年不明9月12日	加藤御用掛宛

691	皇后宮職庶務課	宮内職員手帳同封ノ件通知	年不明1月6日	加藤皇后宮職御用掛宛
692	宮内庁侍従職	宮内庁侍従職添状、皇后御進講用プリント送付の事	年不明5月9日	
693	広幡忠隆	[皇后宮大夫広幡忠隆]	年不明6月19日	皇后宮職御用掛加藤虎之亮宛、本年上半期手当ノ件
694	宮内省	宮内省書翰（未開封）		未開封招待状
695	大金益次郎	[侍従長大金益次郎]		宮内省御用掛加藤虎之亮宛、（封筒のみ）
696	（皇后宮職）	（皇后宮職封筒）		封筒のみ
697	（皇后宮職）	封筒のみ（皇后宮職）		封筒のみ
698		（封筒）		金百五拾円
699		（名刺その他）		「宮内属浅野長次郎」・切手
団 体				
700	雅文会	「後宮賜鳳凰硯恭賦奉謝優恩之辱五首」ほか原稿		消印なし（郵便を介さず、住所等なし）
701	旧奉仕者会	会費増額について	昭和33年12月1日付	消印：昭和33年12月3日
702	人事興信所	昭和34年度版全日本紳士録特価購読受付中	昭和33年	消印なし
703	駿河銀行	当座勘定計算書	昭和7年6月24日	
704	中屋支店	請求書	昭和5年6月7日付	消印：昭和5年6月7日
705	広島高師内静岡県人一同	下宿の義は学校近辺の適当なるものをたのみ置くべく候也	(明治37年)3月13日	封筒裏に「広島高等師範内静岡県人一同」「(明治三十七年広島高師入学ノ際ノ書簡)」とあり
706	文奎堂書店	漢文書翰、領収書	15年8月27日付	15年：中華民国年（中華民国15年=大正15・昭和1年）
707	文奎堂書坊	領収書	丙寅年節	丙寅=大正15・昭和1年
708	文奎堂	漢文書翰	(29年)5月29日付	消印：29年5月28日（北京より、中華民国29年〔中華民国29年=昭和15年〕）
709	山梨県師範学校	問合回答通知	昭和15年2月5日	
710	来薰閣書店	漢文書翰、領収書	11月3日	
711	来薰閣書店	漢文書翰、領収書	12月26日	
712	来薰閣書店	漢文書翰、「計開」領収書か	7月31日	
713	立正大学編集部	立正大学編集部ほか（原稿依頼）		全4点
714	オウブチチウガツコウ	ゴエイテンヲシユクス	昭和33年11月15日	電報、紫綬褒章関係

加藤虎之亮発信草稿				
715	加藤虎之亮	佐藤しづ宛私信	昭和16年8月27日	佐藤しづは加藤虎之亮の妹
716	加藤虎之亮	書翰案	(昭和28年)8月9日	瓠堂先生宛、紀恩帳作成の由来について
第三者間				
717	岡部武治郎	〔加藤梅宛〕	(昭和2年)9月8日付	封筒のみ、消印：昭和2年9月9日
718	鹿島秀磨	〔河井弥八宛〕	昭和6年8月	暑中見舞（「烈女歌」）
719	内山知也	〔加藤梅恵宛〕	昭和33年12月30日付	悔やみ状、消印：昭和34年1月2日
720	新見吉治	〔加藤虎之亮様御家族御中宛〕	昭和33年12月3日付	加藤虎之亮死去に対する悔やみ状、消印：昭和33年12月3日
721	青山於菟	〔加藤祥正宛〕	昭和33年12月4日付	加藤虎之亮死去に対する悔やみ状、消印：昭和33年12月4日
722	鈴木虎雄	〔加藤虎之助遺族宛〕	昭和33年12月5日付	虎之亮逝去悔み状、消印：昭和33年12月5日
723	小倉健二	〔加藤祥正宛〕	昭和36年12月10日付	小倉正恒会葬お礼
724	伊藤タツ	〔加藤梅恵宛〕	年不明12月6日付	悔やみ状、消印：（年不明）12月6日、昭和33年
725	中村健太郎	〔丸山鶴吉宛〕	年不明3月7日	御下命の北條先生の御任期は大正十三年四月十五日就任同十五年十月九日辞任と相成居候
その他				
726		虎之亮四男死去に関する電報	昭和2年9月	日付印：昭和2年9月7日，9月8日(2点)，9月14日，9月22日，9月23日(2点)
727		断簡四通一括		4通
728		封筒ほか		封筒のみ2点、包紙1点

皇室下賜品				
No.	表 題	年 月 日	点数	備 考
1	志満田人形	昭和8年4月	1 体	皇室下賜品。1体1箱 箱書「北白川宮殿下 御下賜品／志満田人形」（蓋表）「子孫永宝／北白川宮第一王女美年子／殿下立花子爵家二御降嫁ノ／記念トシテ下賜セラル／昭和八年四月 虎之亮識ス」
2	(下賜品箱)		1 箱	皇室下賜品。箱書「宮内省ヨリノ／来信及ビ／御下賜金／包等在中／加藤虎記」（蓋に紙貼）
3	(季節人形)		1 組	近江屋筆筥店製、男女各1体1組、附・函
4	(長箱)		1 組	箱のみ、箱表五七桐、菊紋
5	(皇后宮御歌色紙)		2 枚	皇室下賜品。色紙1枚（高塚錠二謹書、コピー1枚共）、色紙1枚（同歌、別筆、写真色紙大2枚・小4枚、ネガ2枚共）、和歌起こしメモ1枚題「御歌」詞書「加藤虎之亮の詩にこたへて／感謝のこころをよめる」、色紙裏「竹堂高塚錠二 謹書」「教たれし君そたふときはたちより五とせちかきなかき日によす、をしへ受けてなほもきはめむなかき日をひしりのみちにしたしみしかと」
6	(木杯)	昭和22年8月	3 個	皇室下賜品。箱書「宮内省奉仕二十年以上ニ及ベ／ルニヨリ特別ノ 思召ヲ以テ／三陛下／ヨリ 御下賜アラセラル／昭和二十二年八月／宮内府御用掛加藤虎之亮謹記」
7	勲三等旭日中綬章、勲三等旭日中綬章授与状	昭和33年12月	1 個	筒、勲三等旭日中綬章授与状1、授与状日付署名「昭和三十三年十二月二日／内閣総理大臣 岸信介／内閣総理大臣官房賞勲部長 吉田威雄」附筒
8	紫綬褒章、紫綬褒章授与状	昭和33年11月	1 個	筒、紫綬褒章授与状1枚、「佩用」授与状日付署名「昭和三十三年十一月三日／内閣総理大臣 岸信介／内閣総理大臣官房賞勲部長 吉田威雄」附「佩用」、筒
9	勲四等瑞宝章、勲四等瑞宝章授与状	昭和17年2月	1 個	勲四等瑞宝章授与状1枚、箱、授与状日付署名「昭和十七年二月十四日／賞勲局総裁 瀬古保次／…／賞勲局書記官 村田八千穂」
10	(玉)		1 個	附・函、台座
11	鳳凰硯	昭和26年	1 個	皇室下賜品。箱表「鳳凰硯」、蓋裏に説明貼付「大正十四年四月漢文御進講ノ／命ヲ拝シ同十五年四月開講シ今／年今月ニ至リ満二十五年ニ達ス／乃チ御慰勞ノ思召ヲ以テ特ニ／皇后陛下ヨリ下賜アラセラル家門ノ／光榮之ニ過グルナシ子孫宜シク宝／重スベキ者ナリ／昭和二十六辛卯歳四月二十日加藤虎之亮識」、附・函、黄色袱紗 ※書陵部作成「書類の部」ファイル「御進講」シート総合No5と同一資料「皇后より昭和26年4月20日に下賜。」。但し、本撮影データの資料より附属多し。
12	(木杯)		3 個	附・函
13	内裏雛		1 対	木目込人形、附・函
14	(木杯)		1 個	附・函
15	(木杯)		1 個	皇室下賜品。箱書「皇太子殿下立／太子ノ禮並ニ成年／式御挙行ノ際拝／受ス／昭和二十七年十一月十五日／加藤虎之亮」
16	(北白川宮御慶事記念)	昭和40年4月	1 個	箱のみ
17	(銀杯)		3 個	附・函
18	(煙草)		1 箱	皇室下賜品
19	(香立) ?		1 個	扇面型。
20	(香立) ?		1 個	銘「純銀服部製」
21	(香入) ?		1 個	張り子犬型。銘「服部製」
22	(小物入)		1 個	鶴型。

23	(文鎮)		1 個	
24	(葉煙草入) ?		1 個	菊柄七宝丸形、中に煙草葉入り。
25	(小物入)		1 個	中に黒色小物体。
26	(カフス)		1 組	付属ケース内「御木本真珠店」
27	(煙草)	昭和3年12月	1 箱	皇室下賜品。箱書「恩賜 昭和三年十二月十一日／宮中饗宴／際／拝受／虎之亮謹記」
28	(スプーン)			
29	(未詳)			
30	(煙草入) ?		1 個	附・函
31	貞明皇后御歌集／貞明皇后御詩集		3 冊	御歌集末「昭和二十六年九月六日奉旨／昭和三十五年五月編成／宮内庁書陵部」、御詩集末「昭和二十六年九月六日奉旨／昭和三十五年六月編成／宮内庁書陵部」、附・帙
32	(石扇面) ?		1 個	石扇面
33	風呂敷	昭和17年6月	1 枚	皇室下賜品。箱書「北白川宮殿下御下賜／為第三王女多恵子殿下御降嫁記念／御風呂敷／昭和十七年六月三十日謹記」、附・「賀餅料」(のし袋、「金拾五円」と書かれた紙)、箱
34	風呂敷	昭和8年4月	1 枚	皇室下賜品。箱書「北白川宮殿下御下賜」蓋裏書「昭和八年四月 加藤虎之亮識」、添書(箱蓋裏貼付)「此のお袱紗之絵は昭和七年十二月／美年子女王殿下御揮毫遊はされしを／記念として御頒ち致したいと存じます／北白川宮」
35	風呂敷	昭和10年1月	1 枚	皇室下賜品。箱書「北白川宮殿下御下賜」、添書「此のお袱紗之歌は昭和十年一月／佐和子女王殿下勅題を御詠み遊ば／されしを記念として御頒ち遊ばされます／北白川宮」
36	写真		2 枚	
37	箱		1 個	箱のみ
38	箱		1 個	箱のみ。箱表貼付「豊龍齋」、蓋裏近江屋筆笥店販売説明
39	箱		1 個	箱のみ。箱蓋裏貼付「豊龍齋」
40	箱	昭和4年	1 個	皇室下賜品？箱のみ。箱蓋表「賜物包在中」張り紙、裏書「昭和四年六月二十八日 葉山御用邸ニ於テ／漢文学ヲ進講シ畢リ退下ノ際／皇后陛下ヨリ下賜セラレタル珍藏スベキ者ナリ／当に家宝トシテ珍藏スベキ者ナリ／二五八九年六月二十八日／加藤虎之亮謹記」
41	箱	昭和8年4月	1 個	皇室下賜品？箱のみ。箱蓋表「子孫永宝／北白川殿下御下賜品／第一王女美年子女殿下／立花家子爵家ニ御降嫁ノ記念トシテ下賜セラル／昭和八年四月虎之亮識ス」裏紙貼付「十軒店／光月」

その他				
No.	表 題	年 月 日	点数	備 考
慶弔関係				
1	井上恒六		1	名刺
2	(葬儀関係 御祝儀)		1	祝儀袋、金参千円、附中袋
3	(葬儀関係)	昭和33年12月2日	1	香典帖、複数冊を合本
4	(葬儀関係)		1	用箋、葬儀委員 8 名記
5	(葬儀関係)		1	用箋、弔問香奠
6	(葬儀関係)		1	用箋、葬儀次第
7	(葬儀関係)	昭和34年1月13日	1	領収書、但書「財団法人静岡育英会」
8	(葬儀関係)		3	祝儀計算
9	(葬儀関係)		2	祝儀計算
10	(葬儀関係)		1	祝儀計算
11	(葬儀関係)	昭和34年1月19日	1	
12	(葬儀関係)		1	
13	(葬儀関係)		1 括	附・弔辞・御華料等19、箱1
14	天淵先生喜寿賀筵芳名録			
15	(色紙)		1 括	葬儀関係・紫綬褒章関係 上田喜太郎 根津嘉一郎書翰 写真 2 点 小島祐馬書翰 藤井多禰子 金子東仙 歎徳文・引導文2点
その他				
16	「抄書」(領収書)	5月	1	来薰閣琴書室領収書、日付「五月廿二日」印「北京瑠璃廠路南／来薰閣琴書室記」、書籍代領収書。
17	(領収書)	11月	1	文奎堂領収書、日付「十一月十三日」未「文奎堂」、附・京都隆福寺廟西路南文奎堂記(11月13日)
18	(領収書)	昭和17年	1	帯経堂領収書、日付「十七年二月十七日」、未「京都隆福寺廟西／路南帯経堂書坊」、書籍代領収書。
19	「抄奉」(領収書)	昭和3年	1	文奎堂領収書、未「京都隆福寺廟西／路南文奎堂書坊」、書籍代領収書。
20	(表裏不明一紙①七絶「異業三児医醸財…」②送付先リストメモ?)		1	(加藤虎之亮)①款記「種田兄賜三児国雅昂之賦道謝」
21	契約証書・貞観政要釈義	昭和18年5月	1	加藤虎之亮・文明社社長
22	督促状	9月19日	1	教育週報社(加藤虎之亮宛)、裏に人名メモあり
23	書翰	5月26日	2	来薰閣書店書簡、用箋に「来薰閣書店製箋」とあり
24	(松本義懿後援会礼状)	松本義懿後援会	2	講演会募金のお礼、芳名録
25	「在東京及近県居住旧広島陸軍幼年学校職員名簿」		1	

26	文科学旅行積立金残額使途明細書		1	
27	(新聞1)		1 括	
28	(新聞2)		1 括	
29	盆	昭和53年11月10日	1	盆に、「本堂落成記念 昭和五十二年十一月十日 新井山大乘院」とあり

写真類			
No.	表 題	点数	備 考
1	(無題)	1	静岡大正写真館装幀
2	(アルバム)	1	昭和8年習志野での写真含む。
3	(アルバム)	1	前半は結婚式関係、後半は梅恵関係
4	(アルバム)	1	主に虎之亮葬儀
5	(無題)	1	大正6年1月静岡県人会寄贈
6	(無題)	1	裏に「恩師北條時敬先生」とあり
7	(無題)	1	
8	(無題)	1	志尚会
9	(無題)	1	志尚会
10	(無題)		北条の墓
11	(無題)	27	中国旅行関係、昭和31年11月4日武蔵高校同窓会総会写真、その他武蔵高校関係、附・封筒
12	(武蔵高校卒業写真)	3	武蔵高校卒業写真
13	「武高文科第一回卒業生肖影二五八九年三月於燕楽軒」	1	
14	「武蔵高等学校第七回卒業記念写真」	1	
15	(無題)	1	武蔵高校卒業写真
16	(無題)	1	武蔵高校卒業写真、裏に「二五九二年度武高卒業生記念撮影九四年三月二十三日於講堂前」
17	(無題)	1	裏に「二五九三年度武高卒業生父兄謝恩会記念撮影九四年三月二十日於東京会館」
18	「武蔵高等学校第十二回卒業記念写真」	1	昭和15年撮影
19	(武蔵高校卒業写真〈第12回〉)	1	昭和15年撮影
20	「武蔵高等学校第十三回卒業記念写真」	1	昭和16年撮影
21	(武蔵高校卒業写真〈第13回〉)	1	昭和16年撮影
22	「武蔵高等学校第十四回卒業記念写真」	1	昭和17年撮影
23	(武蔵高校卒業写真〈第4回〉)	1	昭和17年撮影
24	(武蔵高校卒業写真)	1	
25	(武蔵高校卒業写真)	1	武蔵高校卒業写真
26	(武蔵高校卒業写真)	1	武蔵高校卒業写真
27	(武蔵高校卒業写真)	1	武蔵高校卒業写真
28	(武蔵高校卒業写真)	1	武蔵高校卒業写真

29	(武蔵高校生徒山崎栄追悼写真)	1	武蔵高校卒業写真
30	(無題)	1	武蔵高校生徒山崎栄追悼写真
31	(無題)	2	
32	(無題)	1	
33	(無題)	1	
34	肖像	1	肖像
35	肖像	1	肖像
36	(無題)	1	
37	(無題)	1	
38	(無題)	1	
39	(無題)	1	
40	(無題)	1	裏に「友人西先生」とあり
41	(無題)	16	附・封筒
42	(無題)	1	
43	(無題)	1	裏に「昭和十八年一月十七日於青山春日亭興北記念写真」とあり
44	(無題)	1	
45	(無題)	1	高松に於いて
46	(無題)	1	高松に於いて
47	(無題)	1	
48	(無題)	1	尚志同窓会
49	(無題)	1	裏に「昭和十七年十月十七日広島文理科大学高等師範学校創立四十年記念式記念写真」とあり
50	(無題)	1	
51	(無題)	1	昭和18年撮影「広島に於いて」
52	(無題)	1	「広島に於いて」
53	(無題)	1	「広島に於いて」
54	(無題)	1	「広島に於いて」
55	(無題)	1	
56	(無題)	1	裏に「山口県佐波郡防府町渡邊源助」とあり
57	(無題)	1	
58	(無題)	1	
59	(無題)	1	

60	(無題)	1	
61	(無題)	1	
62	(無題)	1	裏に「呈加藤先生 馮栄絨 劉玉峰 斉国樑 劉延俊 李建勳」とあり
63	(吉原高等小学校卒業写真)	1	明治27年3月26日撮影
64	(無題)	1	
65	(助川昌一 5 歳)	1	大正5年12月9日撮影
66	(無題)	1	
67	(無題)	1	
68	(無題)	1	
69	(無題)	1	
70	(無題)	1	
71	(無題)	1	
72	(無題)	1	
73	(無題)	1	
74	(無題)	1	
75	(無題)	1	
76	(無題)	1	
77	(無題)	1	
78	(無題)	1	裏に「南京ノ下関」とあり
79	(無題)	9	附・封筒、封筒表に「敲子サマ」とあり
80	(無題)		
81	(無題)		
82	(無題)	1	
83	(無題)	1	
84	(無題)	1	
85	(無題)	1	
86	野尻新太郎	1	福井県立敦賀高等女学校長
87	(無題)	1	
88	(無題)	1	大正12年6月11日書
89	(無題)	1	
90	(無題)	1	裏に「呈加藤君 伊藤」とあり

91	(無題)	1	
92	(無題)	1	裏に「呈加藤兄 辱夫河合」とあり
93	(無題)	1	
94	(無題)	1	
95	(無題)	1	
96	(無題)	1	表紙裏に「呈加藤様生後廿日鈴木あ喜子」とあり
97	(無題)	1	
98	(無題)	1	表紙裏に「大正八年一月撮影助川昌一明治四十五年三月生」とあり
99	(無題)	1	
100	(無題)	1	
101	(長谷川時子肖像)	1	附・身上書
102	(無題)	1	
103	(無題)	1	
104	(無題)	1	
105	(無題)	1	
106	(無題)	1	
107	(無題)	1	
108	(無題)	1	
109	(無題)	1	神戸市三宮有吉写真館装幀
110	(無題)	1	
111	(無題)	1	
112	(無題)	1	昭和14年8月3日撮影
113	(無題)	1	
114	「甲申九識集使館西楼撮影紀年」	1	
115	(無題)	1	裏に「杭州」
116	(無題)	1	中国旅行
117	(無題)	1	中国旅行
118	(無題)	1	中国旅行
119	(無題)	1	中国旅行
120	(無題)	1	中国旅行
121	(無題)	1	中国旅行

122	(加藤虎之亮肖像)	7	虎之亮肖像、その他中国の写真6点
123	(無題)	5	中国旅行、附・封筒
124	(無題)	1	アルバム
125	加藤虎之亮像	1	
126	加藤虎之亮像	1	
127	加藤虎之亮妻梅恵像	2	

No.	表題	編著者	年月日	点数	備考
梅恵関係					
1	(花道法之規則)		昭和6年	1冊	写本
2	浅草遠州流花道二巻	雪松斎一魁	昭和7年	2冊	写本、上下2巻、内題「挿花之大概三才形取総論」
3	(華道覚書)	(加藤梅恵)		1冊	首「床の飾り方」、鉛筆筆記。
4	〈華道／家元〉華の実 生華葉の巻	池坊専正	明治37年	1冊	昭和37年武藤松菴発行。
5	初伝	雪松斎一魁	昭和8年	2冊	第一号「きらひ枝の事」第二号「陰陽二瓶をあらわす」
6	「入門誓状」	雪松斎一魁	昭和7年	1状	附・たとう
7	「(初伝伝授) 目録」	雪松斎一魁	昭和8年	1状	附・たとう
8	(覚書)	(加藤梅恵)		1冊	語釈等。
9	(覚書)	(加藤梅恵)		1冊	日記等。
10	漢文教育復興運動追念誌	漢文教育復興功 労者慰霊祭(委 員会)	昭和41年	1冊	発起人代表宇野哲人、委員代表内田泉之助
11	(覚書)	(加藤梅恵)		1冊	語釈等。
12	(覚書)	(加藤梅恵)		1冊	仏教語語釈等。
13	〔妙法蓮華經〕第五 薬草喻品 第六授記品 第七化城喻品 第八五百弟子受記品 第九授学無学人記品 第十法師品 第十一見宝塔品	(加藤梅恵)		2冊	本文、注釈?
14	〔妙法蓮華經〕第二方便品 第三譬喻品 第四信解品 (第七) 第十二提婆達(?) 多品 第十三勸持品 第十四安樂行品 第十五從地湧出品 (第八) 第十六如來壽量品 第十七分別功德品 第十八隨喜功德品 第十九法師功德品 (第九) 第二十常不輕菩薩品 第二十一如來神力品 第二十二囑累品 第二十三藥王菩薩品本事 (第十) 第二十四妙音菩薩品 第二十五觀世音菩薩品 第二十六陀羅尼品 第二十七妙莊嚴王本事品 第二十八普賢菩薩勸發品	(加藤梅恵)		7冊	本文、注釈? 「第七」冊所収「第十二提婆達(?) 多品 第十三勸持品 第十四安樂行品 第十五從地湧出品」、「第八」冊所収第十六如來壽量品 第十七分別功德品 第十八隨喜功德品 第十九法師功德品」、「第九」冊所収「第二十常不輕菩薩品 第二十一如來神力品 第二十二囑累品 第二十三藥王菩薩品本事」、「第十」冊所収「第二十四妙音菩薩品 第二十五觀世音菩薩品 第二十六陀羅尼品 第二十七妙莊嚴王本事品 第二十八普賢菩薩勸發品」
15	天台四教儀	(加藤梅恵)	昭和8年	2冊	講義筆記。巻頭「昭和八年六月十九日 本多報(?) 二於テ」
16	四教儀	(加藤梅恵)		1冊	講義筆記。表紙に「松平報(?)」とあり等。
17	(和装覚書)	(加藤梅恵)		1冊	
18	仏教大意	苾芻雲照述 菩薩戒弟子某記		1冊	表紙開。
19	神教経			1冊	油印本
20	真力	三浦範三編	大正11年3月、同12年2月、同4月、13年8月	4冊	雑誌。真力社発行。

21	(講義筆記)	(加藤梅恵)		1 冊	巻頭「七月二十三日 松平先生／木曾信仰の要諦」
22	同行 (第八巻十月号)	斎藤加世編	昭和33年	1 冊	
23	書簡文範 (存巻上)	阿保友一郎・國分佐七郎共著	明治	1 冊	
24	御香奠帳		昭和48年	2 綴	加藤むめ江死去時
25	皇家秘奥神州太皇典三巻	木村成明	大正9年	3 綴	巻上昭和9年、巻中下昭和11年写のコピー本綴3冊。
26	東洋革命正法治国論二巻	本江隆吉?	昭和28年	2 綴	コピー本綴2冊。書末「昭和二十八年十二月二十九日了 裾野 若狭森ニテ／本江隆吉」
27	天台宗四教五時西谷名目二巻	町元吞空編	明治23年	2 冊	版本
28	科註妙法蓮華經八巻 (巻一之上闕)		元禄3年	9 冊	元禄三年灰屋三良右衛門刊
29	南隠老師追憶	公田蓮太郎編	大正5年	1 冊	排印本
30	金剛鐱釈文 (巻中)	荊谿尊者湛然撰 後学玄箸海眼会 天台沙門時拳釈 後学新伊大真校		1 冊	
31	日蓮上人御伝記十一巻 (巻三、四闕)		延宝9年	4 冊	延宝九年中村五兵衛刊
32	天台四教儀	義永知泉口述 森井国雄編輯	明治19年	4 冊	別本四点、明治19年京都出雲寺文次郎刊本、同年東京森江書店発売本、京都法文館沢田友五郎発売 (?) 本2点。

附．加藤天淵の事蹟

川邊雄大・町泉寿郎

はじめに

加藤虎之亮（号天淵、1877～1958）は、研究面では『周禮經注疏音義校勘記』を著したことで知られ、教育面では広島陸軍幼年学校・広島高師・青山師範・武蔵高校・東洋大学などで漢文を教え、のちに東洋大学学長や財団法人無窮会理事長などをつとめた。その一方、香淳皇太后の進講（漢文学）や宮内省御用掛、秩父宮・北白川宮家の御進講に従事するなど、皇室との関わりが深かったが、加藤に関する先行研究は少ない。

近年、加藤家より二松学舎大学へ寄託された加藤天淵旧蔵資料には、加藤の経歴を反映したさまざまな文書・写真・書画・器物・書籍等が含まれるⁱ。加藤天淵旧蔵資料の目録（稿）の附録として、加藤天淵の事蹟をここに記しておこう。

加藤天淵の生い立ちとその師三宅真軒

加藤天淵は、明治十二年（1879）十月二十一日、加藤作衛の長男として静岡県富士郡大淵村（現富士市大淵）に生まれたⁱⁱ。卯年生まれだが、生後体が弱かったため、親が虎之亮と名付けたという。加藤は地元の小学校を卒業後、静岡師範学校に学び、明治三十六年（1903）に同校を卒業して富士郡内の鷹岡尋常高等小学校訓導となったが、翌年休職して明治三十五年に新設されたばかりの広島高等師範学校ⁱⁱⁱに進学した。校長は第四高等学校長から転任した北條時敬である。

広島高師に入学した加藤は、当初地歴を志望したが、国語漢文科に進み三宅少太郎教授（号真軒）^{iv}に漢文を学んだ。真軒は金沢の第四高等中学校の漢文教師であったが、いわゆる四高騒動に巻き込まれて四高を辞任し、北條校長に招かれて明治三十六年から広島高師に在職していた。加藤は当時の様子を以下のように述べている^v。

私が始めて先生の教を受けたのは、広島高師の豫科の時であつた。教科書は孟子であつたが、序説の「史記列伝曰」から始めた。生徒を順番に呼び出して答へさす。先づ「史記とは何ぞ」と問はれた。史記とは「司馬遷の作つた歴史で云云」と答へた。すると「問ひに合はぬ答をしてはいけない。」唯「書物の名である」と答へるのが正解である。次に「何が書いてあるか」と尋ねられ、「支那の歴史である」と答へさせ「何時代の事実か」と問はれて、そろそろ答に窮する。更に進んで内容の吟味に入り、巻数から本紀、世家以下を明かにし、然る後撰者の司馬遷に及び、其の年代閱歴の概略を述べさせ、注釈書の重要な者を挙げさせ、始めて史記の解が終る。生徒は図書館に入つて史記に就て色々調べなければ、散散の目に逢はされるから、已むを得ず勉強する。かくして半頁位のあの短文が殆んど一学期かかつた。

加藤は、明治四十一年（1908）に同校を卒業して、更に同校研究科に進学するとともに、同校附属中学校の助教諭となった。次いで明治四十三年（1910）から大正六年（1917）まで陸軍教授として広島陸軍地方幼年学校で教えた。

研究科進学後の加藤は、真軒の自宅で真軒からみっちり「対読」を仕込まれた。真軒が漢音で棒読みしたあと、すぐに同じ文を加藤が訓読で読むのである。真軒の「対読」は、「看読」と呼ばれる通読と、善本によってテキストを校勘しながら読み進める「精読」を併用した点に特色があった^{vi}。

先生の読書法は精読と看読との二科に分ち、精読に在つては筆と共にして其の出典や関聯あることは必ず筆録する。かくては正確に読める様にはなるが、寡薄に陥る弊害がある。よつて看書の必要が起る。看書とは博く書物を読むことである。これは極端に言へば字書も引かずに読み行き、主として記憶に存する様に努める。この朗朗と読み行く所に読書の真の妙味がある。自分は若い時左伝の校本の注も釈文も併せて一日二夜で読了したことがある。剣道で申せば精読は型であり、看書は打込みの練習である。一般には両者の中間を行くので進歩が遅いと申された。私は学校を卒業して研究科に籍を置き、傍ら附属中学校に教鞭を執つた。倫理教育国語は教場で受けたが、漢文は教場で出来ぬとて御宅へ伺つた。毎週四晩午後六時から十二時まで時間勵行である。精読として細川板の尚書正義。論語義疏及び太平広記の校勘対読。看書として劉海峰の歷朝詩約選及び伊勢板の通鑑である。通鑑は注も残らず読み一回に一卷と定め興に乗ると二巻読まれる。その時は三時間位かかるので声が嘎れる。お茶を呼んで喉を潤しながら続けられる。私は終頃になると追隨するのが関の山で、記憶に存することなど思ひも寄らぬ程であつた。

真軒は蔵書家であり、無窮会寄贈後に編纂された『真軒先生旧蔵書目録』には四万一千冊餘が収録されている^{vii}。目録の編纂に当たった加藤はその蔵書の特徴について「先生は非常に博学であられたから、九流百家万遍なく蒐集されたが、宋槧元版などの骨董的なものではなく、学問上に必要な書物を主とせられた。随つて原刊初印を珍重せられた」と述べている。書籍購入にあたって、真軒は後に叢書に刻入された版ではなく、原刊の初印本を重視した。そのため、真軒は毎年春夏冬の休暇ごとに京阪の書肆に書物の買い付けに行き、その同行を命じられる加藤はなかなか骨が折れたと述懐している^{viii}。

加藤は広島高師の附属中学校や陸軍幼年学校のような近代的な教育機関で教員生活を営みながら、同時に真軒の下で伝統的な漢学者流の対読に龐大な時間を割くことに次第に矛盾を感じるようになった。『天淵文』中の「上廓堂北條先生書」には、以下のような記述がある。

卒業、奉職于附属中学校、于幼年学校、欲仕学竝優。然而虎之所志、与真軒先生之所導、柄鑿不相容、乃就閣下請裁之。閣下曰、真翁博学精義、研鑽之方、冥合歐人。可師可法。因歷數當世碩學曰、此數子者、雖專攻畢業、共是學界不可少之人也。汝之專業、從其所安亦可也。雖然必不可不為學界不可少之人矣。虎感激曰、不以虎之驚駭、猥見囑望如此。雖知力不足、豈不夙夜是勉。遂折節從真軒先生之提命。

加藤は「金沢、広島で教を受けた人は皆その学問の深博なのに賛嘆してをるが、先生は弟子を導くのに身を降して弟子の側に来るのではなく、必ず自分の方に引き付け、自分と同型の者にせねば已まぬ風があられたから、その卓爾たる所多くの学生には齒が立たず、ただ鑽仰するのみで追隨することが出来なかつた」^{ix}とも述べている。真軒が旧来の学問のやり方を改めず、弟子にもそれを強いることに加藤は反撥を覚え、広島高師校長であった北條時敬に仲介を請うたのである。しかし北條は真軒の校勘学は西欧の文献学と期せずして一致していると加藤を論し、ふたたび両者は師弟関係を続けていくこととなった。

加藤天淵の漢学者としての歩み

大正五年（1916）、広島高師を定年退職した真軒は、東京の前田育徳会尊経閣文庫で漢籍の整理にあたる一方、大正四年（1915）に平沼騏一郎（のち首相）が西大久保の平沼邸の隣に開設した無窮会において林泰輔と共に夜間に社会人向けの講義を行うこととなった。これに従うように、加藤は大正六年（1917）に上京し、青山師範学校に嘱託として教鞭を執る傍ら、無窮会の調査員を大正十一年（1922）まで勤めている。無窮会関係者には、織田小覚（確斎）や土岐イ黄など加賀藩出身者が多く、この人脈によって同郷の真軒が東京に呼び寄せられ、その高弟である加藤が上京することになったわけである。

無窮会設立の翌年、大正五年（1916）に帝室制度審議会が発足し、平沼は森林太郎（鷗外）らとともにそのメンバーになっている。国学者井上頼罔の蔵書「神習文庫」が核となって発足した無窮会は、帝室制度審議会の設置目的である皇位継承や朝鮮王族の扱いなどに関する法的な問題の審議に資するための組織であった。

したがって、無窮会では同審議会における審議案件の下調べをすることとなり、調査項目を立て調査員を委嘱して研究が行われたのである。発足当時、加藤のほか、清水正健・堀維孝が調査員となっており、加藤の調査項目は「支那歴代ニ於ケル皇族教育ノ制度」であり、清水は日本の歴代の皇室制度、堀は神習文庫分類目次の編纂や当時の社会思潮を調査している。

無窮会設立にあたって作成された調査項目の中にも、「漢土周孔の教を資つて益々我邦惟神の道を明にせんとする諸家の議論を調査し其建立する所の皇道の趣旨を審にする事」あるいは「三礼（周禮・儀礼・禮記）より始め少くも隋唐以前漢土歴代正史の諸志及三通（通典・通志・文献通考）の類に拠り制度の沿革を調査し本邦諸制度の淵源を明らかにする事」が明記されており、加藤は礼や制度史などの中国文献に依拠して、皇室制度の整備を手助けすることとなった。

加藤はその成果として大正七年（1918）に『支那の貴族教育』を刊行したほか、『支那の爵制』・『書経二典講義』・『春秋内外伝に見はれたる節義及事例』・『帝王学』などを執筆している^x。加藤はのちに『周禮』研究によって一家をなし、また宮内省御用掛となって皇室でご進講することとなるが、無窮会から委嘱された調査項目がこれらのひとつの契機になったと思われる。

ついで大正十一年（1922）には武蔵高等学校教授となったが、その後も非常勤として大東文化学院・二松学舎専門学校・立正大学などで教えている。

当時、貞明皇后は子供たちに漢学を身につけさせたい意向を持っており、加藤は皇族に対して漢学を進講することとなった。大正十二年（1923）から大正十四年（1925）三月まで秩父宮雍仁親王に、『弘道館記述義』をテキストとして漢文学を進講^{xi}している。これと併行して、加藤は大正十三年（1924）から本格的に『周禮』校勘に着手し、秩父宮家から関係書籍を借用している。

大正十五年（1926）からは嘱託^{xii}として皇太子妃（のちの香淳皇后）に漢文学を進講した。この進講は、原則として金曜の午前中に行われ、当日は早朝に沐浴ののちモーニングを着用して宮中に参内した。現在、「皇后陛下進講日録」と記された大学ノート四冊のほか、草稿や手書きの資料などが残されている^{xiii}。

北白川宮家との関係も深く、北白川宮道久王（1937～2018）の誕生に際して「御命名草案」（昭和十二年五月五日）を起草し、名前の候補として道久・博久・徳久・親久・安久・信久・威久の七案を挙げるとともに、その典拠（『周易』・『禮記』）を明示している。また、加藤は昭和十五年（1940）に薨去した北白川宮永久王の碑文・尊像記・墓誌銘も起草している。

『周禮』研究については、昭和八年（1933）六月に「周禮經注疏音義校勘記」を脱稿した。また昭和九年一月に広島文理科大学に学位請求論文『周禮經注疏音義校勘總説』を提出して学位を申請し、翌昭和十年六月に博士号が授与された。この博士論文は、翌昭和十一年に『東洋文化』第一四三号から第一九五号まで断続的に連載されものの、完結することなく終わった。

昭和十六年（1941）十二月十九日、詔勅等の起草に与っていた宮内省御用掛の吉田増蔵（号学軒）が死去し、加藤はその後任となって、皇后の進講を継続するとともに^{xiv}、誄・御沙汰書などの起草等を担当した。加藤は、清浦奎吾（1850～1942）・金子堅太郎（1853～1942）・林銑十郎（1876～1943）・山本五十六（1884～1943）・古賀峯一（1885～1944）らが歿した際の誄・御沙汰書を起草している。とくに、山本五十六については、誄（初稿・再稿）・墓誌（初稿・最稿・定稿・拓本）が残されており、数度の添削を経て完成し、内閣から潤筆として金百円が支払われるなど、一連の製作過程が分かる。

一方、木下彪が草稿整理の嘱託となり昭和十年（1935）から大正天皇漢詩集の編纂が開始されていたが、加藤は昭和十九年（1944）から同編纂事業の参与もつとめ、昭和二十年（1945）十月にこれを完成した。昭和二十一年（1946）十二月十八日には「大正天皇ノ御詩ニ就テ」という題目で、昭和天皇・香淳皇后に進講している。

戦後も引き続き加藤は皇后への進講とともに、誄・御沙汰書および詔勅などを起草している。終戦直後に作成したものに、「陸海軍人ニ賜リタル勅諭（案）」（昭和二十年八月二十四日）・「軍職ヲ解カルルニ方リ皇族陸海軍武漢ニ賜ル勅語案」（昭和二十年十一月二十九日）や、戦後初めて開かれた第八十八回帝国議会「開院式勅語案」（極秘、昭和二十年八月三十一日・九月一日）などがあり、「戦後復興ニ力ヲ致サムコトヲ期セヨ」（「陸海軍人ニ賜リタル勅諭（案）」）などといった、「終戦の詔勅」を想起させる文言が使われている。

昭和二十六年（1951）には、進講二十五年を記念して、皇后から朝鮮平壤産石材を用いた「鳳凰硯」が下賜された。同年には、五月十七日に薨去した貞明皇太后の諡号を起草した。諡号起草にあたって加藤は中国歴代皇后の諡号を調べ上げて「漢土歴朝皇后追諡」を作成し、十分な準備を以て臨んだ。「貞明」の典拠は『易経』の「日月之道貞明者也」である。なお、加藤が起草した「追号私議」の添削者の中に山田準・上田喜太郎らの名が見え、皇室関係のこうした重要な撰文の際にも親交のあった漢学者に意見を求めて成稿していることが分かる。

翌昭和二十七年（1952）には皇太子（今上天皇）の成年式および立太子礼にあたって、吉田茂が奏上する寿詞と、立太子礼における皇太子の御詞を起草している。草稿には「内閣閣僚会議ニテ朱書ノ如ク改ム」との文言があり、定稿に至るまでの改訂の痕が分かる。

そして、昭和三十三年（1958）には大正十三年以来、三十年余にわたって続けてきた『周禮』校勘の集大成として、『周禮經注疏音義校勘記』を文部省の出版助成金を得て出版し、同年にその功績が認められ紫綬褒章が授与された。加藤はその返礼として文部省を訪れた際、その玄関先で狭心症で倒れて亡くなった。享年八十一歳。歿後、蔵書は無窮会に寄贈され、昭和三十九年（1964）に『天淵文庫蔵書目録』が刊行された。

第二次世界大戦後の加藤天淵

近年、加藤家から二松学舎大学に寄託された資料や、二松学舎大学に所蔵する山田準資料には、戦後（昭和二十年代）の加藤の思想や、日本占領政策に対する意見などを窺わせるものが含まれている。

昭和二十六年（1951）三月四日、加藤は静岡師範学校の創立七十五年記念式典において記念講演「復興の第一義」を行っている。加藤は『書経』や『左伝』などの漢籍を引用する一方、身近な具体例あるいは自身の経験を交えつつ、国家を復興するためには、政治・教育を盛んにしなければならず、科学の振興や生活水準の向上よりも、精神の復興こそが重要であると述べている。この中で、加藤は道徳教育の必要性を説いているが、戦前の修身のように、ただ先哲の嘉言・善行を説き聞かせることはほとんど効果がなく、場合によっては逆効果になると述べている点は興味深い。

この講演会の三ヶ月に書かれた「山田準宛書翰」（昭和二十六年六月三日）xv では、「（前略）地方選挙後の感想は、先生の御主張と違背致し、誠に残念ニ御坐候。憲法の御趣意ニ遵ふべしとの高見は佩服の至ニ奉存候へ共、卑見には欽定憲法ニ無之、且つ外部の圧迫ニよるものにて一時的のものニ有之、憲法即 聖意とは乍恐存申居らず。不遜の考方かとも奉存候が、愚存を率直ニ申上候へば、右の如くニ有、御諒察奉願上候」と、新憲法に積極的に賛成する山田準に対して意見の不一致を残念がり、新憲法への不満を述べている。

また、占領政策が終了し日本独立が果たされた後に、孫たちに向けて語った「我が家の歴史」（昭和二十九年八月十七日夜録音）では、加藤家の歴史を語るにあたってまず、「清朝三百年、その三百年を通じて第一等と言われた曾国藩という人が子孫を戒めた言葉に、私の子孫は大臣大将のような高位高官にのぼることを望まない、ただ郷党の善士になってもらいたい、すなわち村里における善人になることが希望である、とある。今日でも説く、いわゆる成功するということを望まない。善人になってもらいたい。これは誠に結構なことであり、うちの子孫にも郷党の進士善士になってもらいたいと思う」と曾国藩の言葉を引用している。そして、日本人は忠孝の教えに基づき、国家は天皇を中心に、家族は家長を中心に団結し、世界との競争に勝たなければならないと説いている。米国は占領政策によって日本人の神仏に対する信仰心を破壊したが、その一方で彼らの信仰心は強いので米国は滅びない。神仏に対する敬虔さを保持している米国人が日本人の信仰心を破壊するのは日本を弱体化するためであったと述べ、忠孝と信仰を取り戻さなければ、日本の復興は到底できないと述べている。

このほか、加藤の漢文日記「戊戌日録坤」（昭和三十三年十一月二十三日）には、東宮妃候補内定に関する私見なども見られる。

戦後の加藤は、時と場所と相手に応じて言葉を選びながら自身の戦後復興と米国の占領政策に対する考えを述べているが、戦後日本の復興は精神の復興が行われな限りなし得ないという点については、終始一貫している。新憲法や米国の占領政策に対するこれらの批判は、それが儒教の説く人倫関係や国家の在りかたと相容れないという理由によるものであった。

おわりに

以上、加藤天淵の事蹟について概観した。加藤は近代教育を受けた世代であったが、三宅真軒という考証学を報じる特異な漢学者に師事して、彼自身も漢学者の道に進み、研究面では『周禮』の校勘という時間と労力と学力を必要とする地味な学業にその学者人生を捧げた。

その一方、加藤は中学・高校・大学などで漢文教育に従事し、『皇国漢文』という漢文教科書も編纂している。その教科書は皇国と銘打っているものの、収録作品は中国人の作品が大部分を占め日本人のものは少なく、そのタイトルから連想されるような時世迎合的な内容ではない。

また皇室との関係が深く、大正末期から三十年の長きに及んだ香淳皇后への進講、秩父宮や北白川宮家との関係、吉田学軒の後任として宮内省御用掛となり詔勅の起草にあたったことなど、皇室関係の事蹟に富んだ。

戦後は米国による日本占領政策を批判しているが、儒教を奉じる漢学者加藤にとって、欽定でない憲法、忠孝を尊重しない国家や家のありかたは、許容できないものであった。

これらの加藤の事蹟・学績は、近代の漢学の諸特徴を示すものであり、加藤は近代日本が生んだ漢学者の典型であるといえることができる。

[参考資料] 加藤天淵履歴書（二松学舎大学保管）

履歴書

本籍 静岡県富士郡大淵村大淵三二二三番地

住所 東京都杉並区新町三一ノ一

加藤虎之亮

明治十二年十月廿一日生

学歴

明治三十六年三月廿八日 静岡県師範学校卒業

明治四十一年三月三十日 広島高等師範学校国語漢文科卒業

〃 四十二年五月十七日マデ 同校官費研究科在学

昭和十年六月廿六日 文学博士ノ学位ヲ授ク

職歴

明治三十六年四月一日 任静岡県富士郡鷹岡村立鷹岡尋常高等小学校訓導ニ任ズ

翌年四月十九日休職

明治四十一年四月一日ヨリ四十三年八月十七日マデ 広島高等師範学校附属中学校助教諭

明治四十三年八月十七日ヨリ大正六年四月五日マデ 陸軍教授トシテ広島陸軍地方幼年学校ニ勤務ス

大正六年四月ヨリ十一年三月マデ 男爵平沼騏一郎氏主宰ノ無窮会調査委員トシテ漢籍ヲ担当シ其ノ期間東京府青山師範学校漢文授業ヲ嘱託ス

大正十一年三月ヨリ昭和十八年十一月マデ 武蔵高等学校教授ヲ嘱託ス

大正十一年三月ヨリ十五年四月マデ、又昭和三年一月ヨリ十一月マデ

大東文化学院教授ヲ嘱託（兼務）

昭和四年四月ヨリ九年三月マデ 二松学舎専門学校教授ヲ嘱託ス（兼務）
昭和九年一月 文部省国民精神文化研究所儒学研究ヲ嘱託ス（兼務）
昭和十八年十一月 教学錬習所ト改称シ教学嘱託トナリ同二十年教学錬習所官制廃止ニテ自然解職ス
昭和十二年四月 立正大学専門部講師ヲ嘱託ツイデ学部教授（兼務）
昭和十三年十月ヨリ二十三年二月マデ 東洋大学教授兼専門部長
昭和二十三年二月ヨリ二十四年十月マデ 東洋大学学長委嘱
〳 二十五年四月一日 玉川大学教授を依嘱せらる
〳 二十六年四月 東洋大学文学部名誉教授ニ推薦セラル
〳 二十七年十月三十一日 玉川大学教授を解嘱

大正十五年五月十五日 皇太子妃殿下漢文学御習字ニ関スルコトヲ嘱託ス
昭和元年十二月二十五日 皇后宮職ヨリ漢文学ニ関スルコトヲ嘱託ス
昭和五年十二月二十日 皇后宮職御用掛被仰付奏任待遇
昭和十六年十二月二十七日 右被免宮内省御用掛被仰付勅任待遇
昭和二十二年五月三日 宮内府御用掛を命ずる一級官を以て待遇する 侍従職勤務廃官ニテ自然退職
昭和十七年一月十五日 叙正五位 二月十四日 叙勲四等授瑞宝章

大正十二年四月ヨリ十四年三月マデ 秩父宮雍仁親王殿下ニ漢文学ヲ進講ス
昭和五年四月ヨリ七年十二月マデ 北白川宮講師トシテ（第一）美年子女王殿下ニ漢文学ヲ進講シ同
十三年四月ヨリ十六年三月マデ第三女王多恵子殿下ニ漢文学ヲ進講ス
昭和十八年七月二十日 文部省ヨリ古典編修ニ関スル調査ヲ嘱託セラルツイデ古典編修会議員ヲ依嘱
セラル（八月二十七日）
昭和十九年四月二十日大正天皇御製集謹輯ニ付参与スベシ

事歴

大正六年四月ヨリ財団法人無窮会ニ入り東洋古典ノ研究ト闡明トニ努力シ東洋文化（雑誌）ヲ発行セ
シガ戦後中絶ス 目下無窮会代表理事タリ
昭和十五年一月ヨリ無窮会内ニ東洋文化研究所ヲ附設シ本科三年（専門学校卒業又ハ中等教員免許教
所有者入科）高等科三年（大学卒業又ハ高等教員免許状所有者入科）計六年間東洋古典ヲ研究セシメ
其ノ講師トナル
大正十年ヨリ財団法人斯文会々員トナリ引続キ商議員トナリ漢文学ノ宣揚ニ努ム
大正詩文、昭和詩文ニ関係シ漢詩漢文ノ復興ニ努力セリ
静岡育英会（財団法人）常務理事兼学務委員トシテ静岡県出身学生ニ貸費スルコトニ当ル
著書トシテハ

支那ノ貴族教育 大正七年八月出版
弘道館記述義小解 昭和三年十二月〳 十九年一月訂正再版
詩経と皇道 昭和十年四月〳
孔子とをしへ 〳十一年十二月〳
皇道より見たる書経 〳十三年三月〳
弘道館記と其の述義 〳十五年九月〳
支那の民族精神 〳十二年十一月

皇国漢文入門共五冊　〃十年〃

皇国女子漢文　一冊　〃十三年〃

皇国漢文軌範一冊　〃十七年〃

内訓読本　一冊　昭和十一年〃

周禮經注疏音義校勘　原稿二千餘枚

周禮經注疏音義校勘概説　学位論文

　　其ノ一部分ハ嘗テ雑誌東洋文化ニ連載ス

　　春秋内外伝ニ見ハレタル節義　嘗テ東洋文化ニ連載ス

論文トシテハ斯文、東洋文化、国民精神文化、警察幹部講習会講話録、立正大学紀要、東洋大学紀要、外交時報等ニ掲載セリ

昭和十七年以後　皇族又ハ功臣薨去ニ際シ賜ハリタル誄御沙汰書ノ起艸ヲナシ又　貞明皇后ノ御追号内撰ノ議ニ拝参セルハ深ク光テ感激ニ堪ヘザル所ナリ

右ノ通り

昭和二十七年十一月三十日　加藤虎之亮

(※以下、遺族の加筆による。)

昭和三十三年十一月三日　紫綬褒章を賜わる

　　十二月二日　死去

　　叙正四位勲三等旭日小中綬章

註

- i 本資料は『昭和天皇実録』編纂にあたって、宮内庁書陵部の調査・整理が行われている。
- ii 加藤家は加藤清正の末裔を称し、清正と同じ「蛇の目」を家紋とする。代々、富士山麓の開拓を行っていた。この地は天領であり、宮内省御用掛であった加藤が、徳川家をどう見ていたかは興味深いところである。なお、「かわいい魚屋さん」・「みかんの咲く丘」・「怪傑ハリマオ」などの作詞者である加藤省吾（1914～2000）は、加藤の親戚にあたる。
- iii 加藤の同期に、沖縄出身で戦後、沖縄諮詢会委員長・沖縄民政府知事・初代琉球大学学長などをつとめた志喜屋孝信（1884～1955）がいる。
- iv 三宅真軒（1850～1935）は金沢の人、名は貞、通称は少太郎、字は子固、松軒のち真軒・大小廬と号した。学問は富川春塘・井口犀川・永山玄軒・金子松洞に習っていたが、犀川歿後は独学を続け、前田家より流出した『四庫提要』を精読したとされる。明治八年（1875）ごろから同十六年（1883）にかけて益智館という本屋で働いていたが、明治十六年（1883）以降、石川県専門学校・石川県尋常中学校・第四高等中学校教員を歴任している。西田幾多郎（1870～1945）は四高で真軒に学んでおり、真軒の広島高師赴任は西田が同校校長であった北條時敬（1858～1929）に推薦したことによるという。真軒は晩年、東京で前田家の蔵書を整理して、『尊経閣文庫漢籍分類目録』（昭和八・九年）を編輯したことは知られているが、金沢時代にはすでに前田家をはじめとする加賀の藩政時代の蔵書についての目録である、『石川県勸業博物館書目』巻一（明治十七年）を編輯している。
明治十八年（1885）頃、本格的に書学の習得を始めた北方心泉のために、『文字禪室必備書目』（金沢・常福寺蔵）や「文字禪室記」（同）を作成している。『文字禪室必備書目』は、『四庫総目』および『書目答問』（1876）をもとに作成されたもので、和刻本を収録しておらず、心泉が上海から書籍購入を行った際に参考にしたものと思われる。
明治三十六年（1903）から大正五年（1916）まで広島高師で教鞭を執り、以後は東京で前田家の書籍を整理し、無窮会の設立にも関わった。旧蔵書は現在、無窮会の真軒文庫および天淵文庫に所蔵されている。
- v 加藤手淵「三宅真軒先生（一）」（『雅友』第一九号、昭和二十九年）。
- vi 加藤天淵「三宅真軒先生（一）」（前掲書）。
- vii 真軒の書籍購入については、反町茂雄編『紙魚の昔がたり』（臨川書店、1978）に記述がある。
- viii 加藤天淵「三宅真軒先生（一）」（前掲書）。
- ix 加藤天淵「三宅真軒先生（四）」（『雅友』第二二号、昭和三十年）。
- x 林正章『神習文庫図書目録』（無窮会、昭和十年）、「無窮会沿革誌」。
- xi 加藤の他、一木喜徳郎（帝国憲法）・深草安文（倫理学）・姉崎正治（比較宗教）・寛克彦（神道）・ガバルダ（フランス語）が進講を行っている。
- xii 昭和五年（1930）に皇后宮職御用掛（奏任待遇）となっている。
- xiii 御進講関係のほか、宮中晩餐会の招待状をはじめ、宮内省関係の文書が残されている。
- xiv 加藤は昭和十六年十二月二十七日をもって「皇后宮職御用掛被免」となり、「宮内省御用掛被仰付但勅任待遇・年俸二千四百円」となっている。
- vx 『三島中洲研究』第五号（平成二十二年）に翻刻あり。

附記

本稿執筆にあたり、故内山知也先生ならびに加藤忠正氏には、さまざまなご教示を頂くとともに、資料の閲覧等に御高配を賜りました。厚く御礼申し上げます。

執筆者（五十音順）

川 邊 雄 大 （日本文化大学専任講師・二松学舎大学非常勤講師）
清 水 信 子 （二松学舎大学非常勤講師）
町 泉 寿 郎 （二松学舎大学教授）

加藤天淵関係資料目録（稿）

発行日 令和 3 年 3 月 31 日

編集者・発行者

二松学舎大学東アジア学術総合研究所
日本漢学研究センター

本 部

〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16 二松学舎大学

事務局

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-4-14

印刷・製本 株式会社 サンセイ